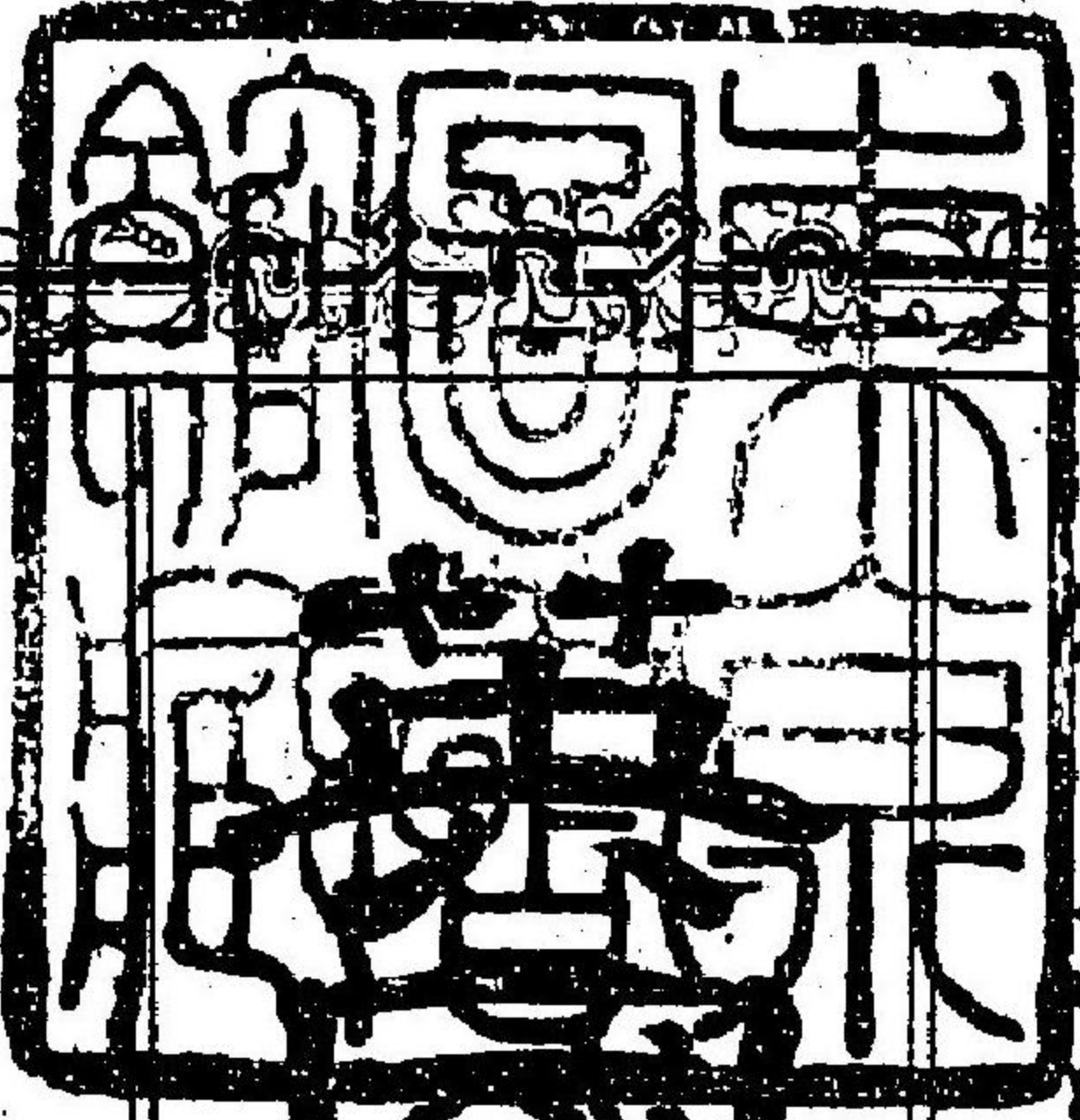


LE 3X-20

21-186

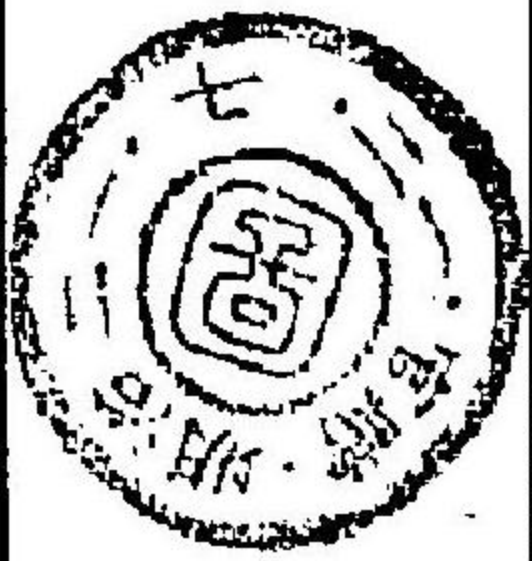
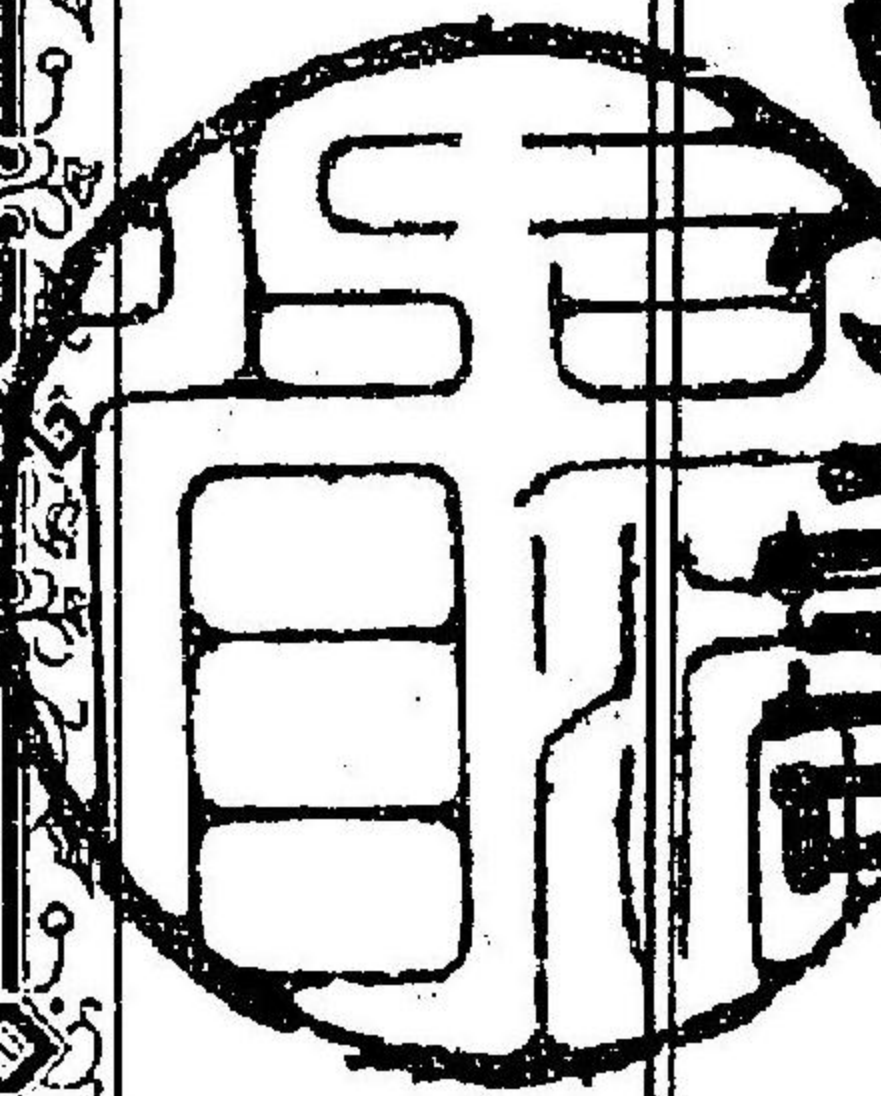
No 1117



司法部藏版

明治十二年十一月印行

# 大清律例要訣





英國律法要訣目錄

第三篇 人民諸部類ニ關係スル國法

第一章 僧侶ノ條

第一節 教法決議ノ事

第二節 教大長並ニ教長ノ事

第三節 教院長教院副長教院代理ノ事

第四節 教師ノ領地居處位階ノ事

第五節 教師領地賣拂又増加ノ事

第六節 教長及ヒ教師會員領地ノ事

第七節 新ニ教師管轄地ヲ創造スル事

第八節 アイムランド聖會ノ事

第九節 僧侶ノ名署ヲ爲シ及ヒ宣言ヲ爲ス事

サブスクリプション

オヴレイシヨン



二

第二章 貴人及ヒ平民ノ條

第一節 人民等級定ノ事

第三章 民官ノ條

第一節 郡長ノ事

第二節 檢屍官ノ事

第三節 治安裁判役ノ事

第四節 首都ノ取締廳稽查官ノ事

第五節 捕官ノ事

第六節 捕官職掌ノ事

第七節 特命及ヒ州郡及ヒ鄉村ノ捕官職ノ事

第八節 州郡及ヒ郡邑ノ取締役ノ事

第九節 夜廻役ノ事

第四章 教會地ノ役人及ヒ救貧法ノ條

第一節 救貧法ノ官長及ヒ委任官ノ事

第二節 教會地連合ノ事

第三節 役人並ニ保護人ノ事

第四節 人選ノ事

第五節 職場ノ事

第六節 貧民惡行ノ事

第七節 會計簿並ニ條約ノ事

第八節 徒民救恤訴定ノ事

第九節 修繕並ニ遊息場ノ事

第十節 職場ニ備ハレ出ル僕婢並ニ徒劣ノ事

第十一節 貧民移法ノ事

三



四

- 第十二節 教會地買籍ノ事
- 第十三節 流寓貧民救恤ノ事
- 第十四節 貧民埋葬ノ事
- 第十五節 スコットランド並ニアイメルランドノ貧民ノ事
- 第十六節 私生ノ事
- 第十七節 教會地ノ學校及ヒ教育ノ事
- 第十八節 教會地ノ會議衆ノ事
- 第十九節 ホッホウス氏教會長ニ付決議ノ事
- 第二十節 救貧税課定ノ事
- 第二十一節 首都ノ無家貧民ノ事
- 第二十二節 聖會保長ノ事
- 第二十三節 監督ノ事

五

- 第二十四節 教會地書記官ノ事
- 第二十五節 會堂吏ノ事
- 第二十六節 教會議書記官ノ事
- 第二十七節 差役ノ事
- 第二十八節 官道檢分官ノ事
- 第二十九節 教會地ノ諸役人老廢扶持料ノ事
- 第五章 統合體ノ條
  - 第一節 都府ノ統合體ノ事
  - 第二節 府長席順ノ事
- 第六章 合本會社ノ條
  - 第一節 千八百五十六年同七年同八年ノ合本會社決議書ノ事
  - 第二節 合本銀鋪會社ノ事



六

- 第三節 千八百六十二年ノ會社決議ノ事
- 第四節 合本銀鋪會社股分讓渡シノ事
- 第五節 合本會社決議ノ事
- 第七章 仲間人ノ條
  - 第一節 仲間人責任ノ事
  - 第二節 仲間ヲ簿冊ニ登記スル事
  - 第三節 仲間ヲ解散スル事
- 第八章 被託者ノ條
- 第九章 遺狀執行人及ヒ取扱人ノ條
  - 第一節 遺狀執行人ノ職務ノ事
  - 第二節 抵當遺物處置ノ事
- 第十章 夫婦ノ條

七

- 第一節 夫權ノ事
- 第二節 婚姻以前ノ負債ノ事
- 第三節 給養及ヒ婚姻約定ノ事
- 第四節 イソグランドニ於テ婚姻禮式ノ事
- 第五節 婚姻ノ公正ナルヲ及ヒ固定ナルヲ
- 第六節 嫁女ノ所有物ノ事
- 第七節 姻屬及ヒ血屬階級ノ事
- 第八節 スコットランド婚姻ノ事
- 第九節 外國ニテ婚姻ノ事
- 第十節 出生死喪及ヒ婚姻登録ノ事
- 第十一章 親及ヒ子ノ條
  - 第一節 私生ノ子ノ事



第十二章

後見人及ヒ稚子ノ條

第一節 稚子ノ責任ノ事

第十三章

文業師諸等品ノ條

第一節 法律者ノ事

第二節 代訟師及ヒ公平律法代訟師ノ事

第三節 内科醫師ノ事

第四節 外科醫師並ニ藥舖ノ事

第五節 製藥化學師ノ事

第六節 解剖者ノ事

第七節 醫生條例ノ事

第十四章 商業本人代辯者代管者並ニ仲買人ノ條

第一節 經紀者ノ事

第十五章 著述人發兌人印刷人彫刻人製圖人及ヒ新聞紙持主ノ條

第一節 版權律ノ事

第二節 版權年限ノ事

第三節 講說並ニ戲曲ノ版權ノ事

第四節 彫刻ノ摺物一枚摺ノ畫圖並ニ彫像ノ事

第五節 製造術ノ圖形

第六節 藝業博覽會

第七節 「チャンネル」應ノ發賣禁止

第八節 皇有ノ版權

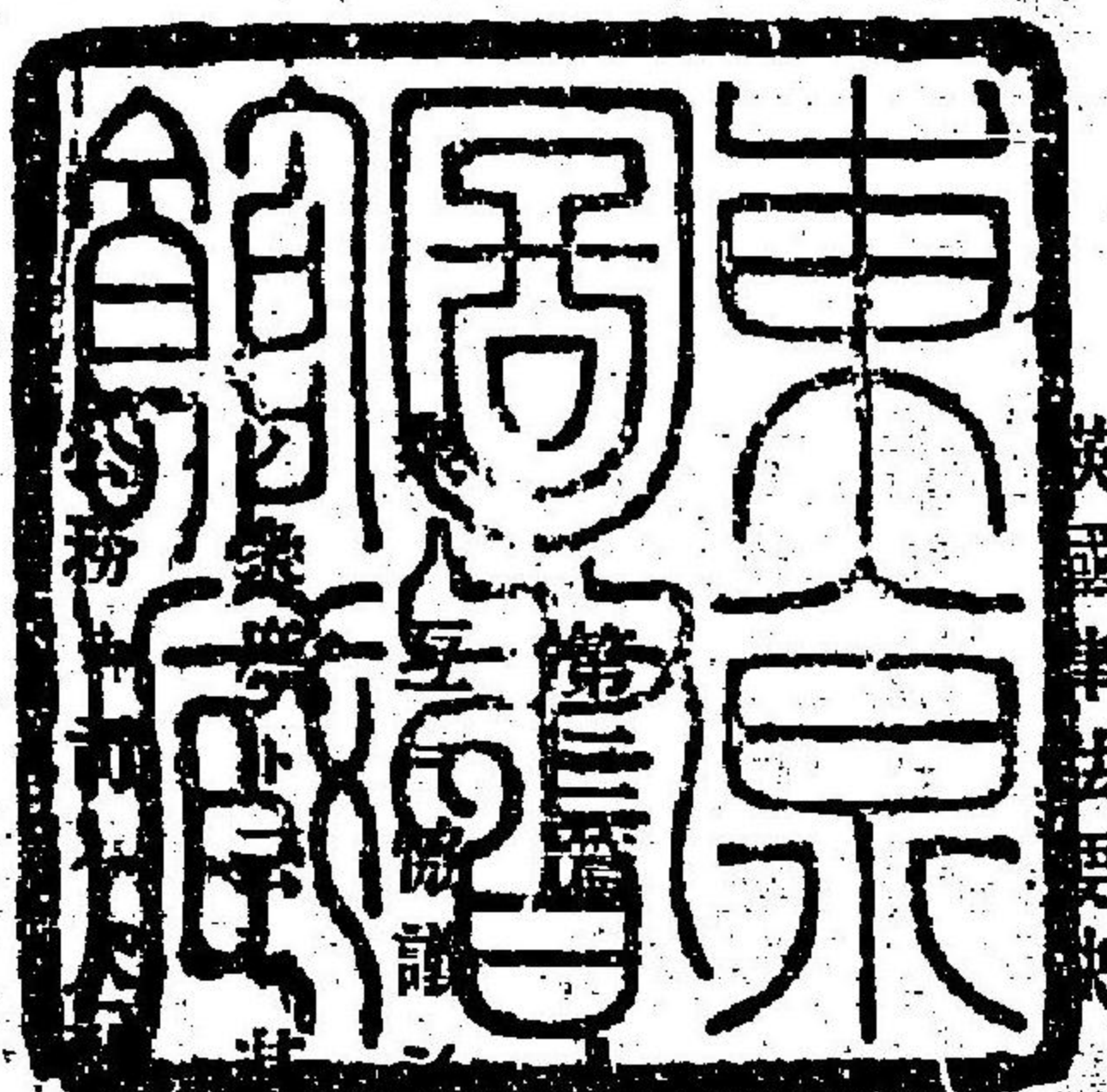
第九節 新聞ノ社主及ヒ印刷人



目錄



英國法律學



堀越愛國

鈴木唯一

合譯

民諸部類ニ關係スル國法

各一般ノ便利ヲ謀リ以テ一國ヲ合成スル者是ヲ會同

中政様ノ部類ヲ分ツ即チ僧侶俗人文員兵官傭主傭工

會地ニ關ル職等是ナリ一部類中又多少ノ區分アリト

雖モ枚舉ニ違ハシ既ニ部類ヲ異ニスルハ法律規則モ亦一様ナラス故

ニ此篇ハ衆民ノ各殊ノ部類區分ヲ管轄スル百般ノ律法ノ異同ヲ詳ラ

カニスルヲ以テ專ラ其趣意ト爲セリ

第一章 僧侶ノ條

一 僧侶トハ俗人ト區別スル稱呼ニテ階級ノ上下ヲ問ハス苟モ教法ノ職



二 居ル者ハ概シテ之ヲ云フ凡ソ僧侶ハ教法ノ事件ヲ除ク外一切俗務ニ與ル可キニ非ズ故ニ亦俗人ノ格ヲ出テ二三ノ特許アリ其條下ノ如ク一般ノ僧侶ハ強テ軍事ニ役ス可カラス陪審官ニ任ス可カラス郷里裁判廳或ハ十家五人組ノ類ノ列坐ニ呼出ス可カラス代官副代官區ノ取締役等ニ選舉セラレ、ヲ得ス下院ノ議員タルヲ得ス且ツ牧師管轄地ノ職務ノマシニ往返スル時ハ轉關稅ヲ免シ或ハ祭事ヲ勤ムル間又祭事ノ爲メニ往來スル途中ハ民事ニ付キ訴訟ヲ蒙ルル官ヨリ直チニ之ヲ捕縛セズ

ウキルレム第四世一年二年ノ決議第四十五篇ニ據テ教院副長教院代理ノ中俸祿ノ薄キ者ニハ自ラ私有トナリシ教院長ノ俸祿ノ殘餘及ヒ右俸祿ニ屬シタル人民ノ家産十分一ノ寺院稅ヲ以テ之ヲ補加ス可キ權柄ハ全ク教長副監督等ノ手ニ委テタリ又教法會社等ニ於テ私有ト

ナリタル教院長ノ俸祿或ハ十分一ノ寺院稅ヲ所持セル時此等ヲ其同處ノ教會地内ノ禮拜堂ニ寄附スルヲ得可シ然レモ寄附ノ増加ハ寺領毎年ノ入息既ニ三百ポンドヲ越ユル者ニ許ス可カラス或ハ右寄附ノ爲メニ三百五十ポンドヲ過キ又ハ袈裟金僧徒俸祿ノ外ニ受取ル者ニテヲ除キテ外ニ猶ホ三百ポンドヲ餘スニ至ラシム可カラス又監督師恩主ノ允可ヲ得レハ教院長及ヒ教院副長各其俸祿ヨリ課金ヲ出シテ村邑ノ寺院禮拜堂或ハ小禮拜堂へ寄附スルモ妨ケ無シトス

ウキルレム第四世六年ノ決議第二十篇ニ據テ僧侶及ヒ施醫院ノ長ハ二代以上ノ間ノ産業貸與ノ條約ハ其中ノ一代經過シタルマテハ切替ノ條約ヲ爲ス可カラス勿論其當然切替ノ條約ヲ爲ス可キ時ト雖モ其存生諸人ノ代ニ別ニ一代ヲ加ヘ都合三代ノ間ヨリ永遠ナル可カラス

三 又四十年ノ期限ハ其約束ヲ踏ムコト既ニ十四年ノ後ナラテハ雙方ニ其



四 約條ヲ改ム可カラズ期限三十年ハ十年ノ後期限二十一年ハ七年ノ後  
ナラサルヲ得ス然レモ斯ノ年數ヲ計ヘシ約束ハ一代又ハ教代ノモノ  
ニ改約スルヲ得ス但シ産業貸與ノ種類ニヨリテハ通常ノ例ニ據リテ  
之ヲ爲スヲ得可シ又僧侶場合ニヨリテハ前ノ規則ニ依ラズ約條ヲ變  
更スルヲ得可シ又國會ノ布令ニ照準スル産業貸與ハ僧徒之ヲ爲スヲ  
得ヘシ又前ノ貸與ト同期限ナルハ之ヲ爲スモ妨ケナシトス  
ウヰキクトリヤ女王五年六年ノ決議第二十七篇ニ據テ教長及ヒ老師ノ  
許可ヲ得ハ在職ノ僧侶其役祿ノ采地ヲ十四年ノ期限ヲ以テ他ニ貸シ  
渡スヲ得可シ期限ノ間ハ借主右ノ地所ヲ開墾改良スルヲ約定セ  
サル可カラズ又事情ニ由リテハ二十年ノ期限ヲ以テ貸渡スヲ得  
可シトス  
ウヰキクトリヤ女王五年六年ノ決議第百八篇ニ據テ孤立ノ教會合併ノ  
議

會社ヲ問ハス凡テ教法會社タル者ハ某ノ箇條ヲ除ク外ハ貸渡ノ期限  
ニ於テ極メテ其久シキ者ヲ擇ムヲ得可シトス  
ウヰキクトリヤ女王一年二年ノ決議第百六篇ニ據テ凡ソ僧侶ハ身躬カ  
ラ耕作ヲ勤ムルモ教長ノ許可ヲ得サル時ハ田畠ノ廣サ八十[ア]ル  
名以上ヲ承租ス可カラズ然ルモハ期限ハ七年ヲ過ク可カラズ此法ニ  
背ク時ハ毎[ア]ル<sup>ハ</sup>十<sup>ア</sup>ク<sup>ル</sup>ニ餘<sup>シ</sup>四<sup>十</sup>シ<sup>ル</sup>リ<sup>ン</sup>グ<sup>ノ</sup>罰<sup>金</sup>ヲ<sup>出</sup>サ<sup>シ</sup>ム<sup>又</sup>  
商業ヲ營ミ贏利ヲ貪ルヲ許サズ此ヲ犯ス者ハ暫時其官位ヲ奪ヒ三  
タヒ犯ス時ハ永久之ヲ剝クノ規定ナレモ或ハ學校ヲ設テ教法ヲ廣メ  
ルヲ或ハ教育ニ關ハリシ品物賣買ノヲ或ハ自家日用ノ爲メ買入レ器  
物賣拂ヒノヲ或ハ仁恤會社生命保險又其他保險ノ會社ノ執事タルヲ  
或ハ所持ノ田地ニ用ユル爲メ家畜ヲ買入ル、ヲ等ハ此例ニ在ラスト  
五



六 僧侶營利ノ爲メ商業ヲ爲シ相當ノ罰ヲ蒙ルト雖モ之カ爲メ商用中ノ  
約束ヲ破ルコト能ハス家産分散ノ規律ニ從テ借用ヲ償ハシム又ウヰク  
トリヤ女王四年ノ決議第十四篇ニ據テ僧侶ハ假令ヒ爲替會社ノ仲間  
ト爲ルトモ俸祿ヲ受取ル時又ハ教部ノ在職中ハ右會社ノ司長タルヲ  
得ストス ベニフキース

第一節 教法決議ノ事

世人一般ニ教師奉職ノ怠慢ナルヲ訴訟スルノ權アリト雖モウヰクト  
リヤ女王三年四年ノ教會懲戒例ノ決議第十六篇ニ據テ下ノ一箇條ヲ  
補ヘリ若シ任官ノ僧侶教律ニ違犯セシトノ罪惡ヲ訴ラレ或ハ醜名ヲ  
流シ誹謗ヲ蒙ル時ハ管轄ノ教長他ノ頼ミニ依テカ或ハ自己ノ勸諭ヲ  
以テ訴訟醜名ノ原因ヲ探索セシメンカ爲メ五名ノ委員内一名ハ總監  
長副教長若クハ郷督長ヲ選テ之ヲ差遣ス可シ但シ委員ノ出發ニ先々  
ブルアチチーコン リニールデー ヒカール

ツコ十四日ニ預メ其告訴セラレタル教師ニ其趣キヲ報知シ其告訴ノ  
罪狀ヲ開陳ス可シ

僧侶ノミ某ノ場合ニ於テ馬ノ運上ヲ除免ス可シトノ如ク特ニ免税ノ  
布令無キ時ハ僧侶タリモ國會ヨリ命シタル諸般ノ公ノ賦稅ヲ出ス可  
キハ固ヨリ當然ノ事ナリ任官ノ者ハ采地及ヒ十分一ノ入稅中ヨリ貧  
民救恤ノ税金ヲ納メシム可シ且ツ徒弟ノ教育ヲ引受サルヲ得ス若シ  
之ヲ欲セサル時ハ人ヲ徒弟ト做サシムルニ付キ費用ヲ納メサル可カ  
ラス

僧徒ノ階位ヲ分ツコ左ノ如シ

|                      |                    |                               |                    |                    |                      |                    |                     |
|----------------------|--------------------|-------------------------------|--------------------|--------------------|----------------------|--------------------|---------------------|
| 教大長                  | 教長                 | 副監督                           | 客僧                 | 役僧                 | 副教長                  | 教院長                | 教院副長                |
| <small>アイチヒン</small> | <small>ビツシ</small> | <small>テイン</small>            | <small>ケイン</small> | <small>シレン</small> | <small>アイチデー</small> | <small>レント</small> | <small>ブイカイ</small> |
| 教院代理                 | 教會書記官              | <small>但シ其人聖職ニアラス真ノ俗人</small> |                    |                    |                      |                    |                     |
| <small>キコ</small>    | <small>バリス</small> | <small>ナレハ僧徒ノ階位中ニ算入セス</small> |                    |                    |                      |                    |                     |

七

第二節 教大長并ニ教長ノ事



八

教大長ハ一管轄部中ニテ僧侶ノ首長ナリ管下ノ教長以下諸僧徒ヲ監督シ兼テ至當ノ事由アラハ之ヲ免官スルノ權ヲ握レリ

カントナルボリーノ教大長ヲ稱シテ英吉利全國ノ總教長ト云フ此國ノ風習ニヨリテ國王及ヒ王妃ノ即位ニ方リ冠ヲ奉ル者ハ必ス總教長ニ限レリ又總教長ハ常ニ特恩ヲ施シ又常ニ婚姻ノ特許ヲ與ヘ及ヒ大學校ニ於テ受取ルヘキ階級ハ一己ノ見ヲ以テ之ヲ授與スルノ權アリ然レモ登進ヲ命スルニ條ニ於テハ大學校ノ眞ノ及第士ハ國會ノ法令及ヒ他ノ律例ニ因テ數多ノ特權ヲ有ス總教長ノ專斷ヲ以テ授與セル位階ニ愈レリ

教長ハ教務ノ外ニ僧侶ト俗人トノ行狀ヲ視察シテ非ヲ彈スニ教門ノ譴責ヲ以テス故ニ管下ニ裁判廳ヲ設ケ律法官ヲ置ケリ又僧侶タルヲ許シ拜任ヲ命シ及ヒ之ニ教務ヲ授クルハ教長之ヲ司リ或ハ婚姻ヲ許

シ新寺堂ヲ祝聖シ浴禮セシ者ニ堅信ノ禮ヲ行ヒ暫時僧侶ノ官職ヲ奪ヒ及ヒ教籍ヲ除クノ事皆教長ノ職掌ナリ教大長并ニ教長ノ拜任ハ其名ハ副監督及ヒ僧侶會社ノ選舉スル所ト雖モ其實ハ國王ヨリノ選舉免許ニ由リ之ヲ命セリ

教長辭職シテ生涯ノ間ニ養老金及ヒ俸祿ノ殘餘ヲ賜リタキ趣テ願フコトヲ得可シウキクトリヤ女王十九年二十年ノ決議第百十五篇ニ據テカントナルボリー及ヒエーションノ教大長ヨリ寺例ニ從テロンドン及ヒダルハムノ教長ノ辭職ヲ差許シタル旨國王ヘ報知セシ時ハ辭職ノ教長ハ即日ヨリ生涯養老金ヲ受取り右ノ教職ハ暫時缺員ノ趣ヲ直チニ布告ス可シトス

九

ウキクトリヤ女王三十二年三年ノ決議第百十一篇ニ據ルニ教大長及ヒ教長ハ老衰ニ由リ又疾病ニ由リテ其教會監督ノ職務ヲ遂クルコト能



ハサル時ハ之ヲ免シテ養生セシムルノ方法ヲ設ケタリ即チ其第二節ニ據ルニ英國ノ教大長又ハ教長タル者老衰ニ由リ又ハ心疾ニ由リ又ハ體病ニ由リテ其職任ニ堪ヘサルノ故ヲ以テ免官ヲ願フ趣テ國王ニ上奏セハ國王乃チ職務不堪ノ事由ヲ聞入レ且ツ其辭職ノ教會律ニ背反セサルト認メタル上ニテ樞密議會ヨリ布令ヲ出シ其免官ノ旨ヲ廣告シ其缺員ヲ補ハシムルコト都テ其教大長又ハ教長ノ病死シタル時ト同様ナル可シトアリ而シテ其退職ノ高僧教大長又ハ教長ニ隱居所ヲ給シ且ツ從前俸祿ノ幾分ヲ與フルノ方法ノ如キモ其決議ノ中ニ定例ヲ擧ケタリ

教長ノ會議員ハ副監督及ヒ僧侶會社ヨリ成リ立ナシ者ニシテ常ニ教義關係ノ事件ニ於テ力ヲ協セテ教長ヲ補翼ス僧侶會社ハ客僧及ヒ役僧ヨリ成リ立ナシ其拜任ハ或ハ國王ヨリ命シ或ハ教長ヨリ命シ或ハ僧

侶中ニテ交互選擇スルモアリ客僧或ハ役僧ノ職モ教長ノ例ノ如ク死去免職或ハ辭職ニ因テ暫時缺員トナルコトアリ

副教長ハ管下ノ全地或ハ一部分ニ於テ教長ニ亞ク裁判權アリ衆副教長ノ中ニハ其權ノ輕重アリ

第三節 教院長 教院副長 教院代理ノ事

教院長及ヒ教院副長ハ僧徒ノ中ニテ最も多人數ナル部類ナリ教院長ハ在職中一牧師管轄地内ノ教會ノ諸權利一切ヲ掌握シ一ニ教會ノ主長又總督ト名ケラル且ツ生涯教院長ノ職分領地十分一ノ寺院稅等ノ權ヲ握リ隨意ニ之ヲ處置ス可シ

教院長ハ管轄ノ教會ヨリ収納セシ賦稅ヲ悉ク處置シ獨リ利ヲ占ルト雖モ教院副長ハ然ラス既ニ己レノ上ニ本主ナル者アリテ其収納ノ強半ヲ占領シ己レハ唯定リノ給料ヲ受ケ生涯備切ノ教院代理ナリ唯此



レノニ 教院長ト 教院副長ノ 區別ナリ 抑ヘヨリ 第三世ノ 時代マテハ 教院副長ト云ヘル 名稱ナク 教院長自ラ 助役ヲ 備ヒ己レカ 意ニ任セテ 給料ヲ 與ヘシナリ

教院長及ヒ 教院副長トモ 拜命ノ 法ハ 差別無シ 何レノ 折ニモ 先ツ 僧位ニ 列シ 教長ニ 謁見シテ 教職ヲ 授カリ 寺院ヲ 渡サル、式禮無カル 可カラズ 何人ニ 限ラズ 先ツ 教職ノ 列ニ 加ハリシモノニ 非サレハ 僧官ニ 任シ 役祿ヲ 受ルヲ 許サス 既ニ 教職ニ 列スル 時ハ 之ヲ 聖職僧徒ト云フ 又年齢二十三ニ 充タサル者ハ イングリランド 及ヒ アイルランドニ 於テ 副牧師タルヲ 許サス 未ダ 二十四ニ 充タサル者ハ 教職ニ 列セシメス 又副牧師タル間ハ 再ヒ 俗ニ 還リ 他ニ 職業ヲ 營ムニ 差構ヒ 無シト 雖モ 最早 教導ノ 列ニ 加ハリシ者ハ 身ヲ 終ルマテ 僧侶ノ 仲間ニ 去ラシメス 又 教職ニ 列セサル者ハ 晚餐ノ 禮ヲ 司ラシメス 副牧師ハ 教長先ツ 試ミ之ヲ

聞キタル上ニ 非サレハ 説教スルヲ 許サス

エリサベス女王十三年及ヒ シ奥尔ジ 第二世二年ノ 決議第二十八篇ニ 據ルニ 僧侶 拜任ノ 前ニ 寺院祈禱ノ 定式ニ 遵フ 旨ノ 宣告ヲ 爲サ、ル 可カラズ 任職ノ 後二箇月ノ 間ニ 監督師ノ 目前ニテ 姓名ヲ 記シ 寺院ニ 於テ 三十九箇條ノ 寺例ヲ 讀ミ 悉ク 許諾ノ 趣ヲ 述ヘサル 可カラズ 然ラサレハ 免職ヲ 命スルモ 可ナリトス 教長カ 僧徒ニ 授職スルニ 方テ 其人 別派ノ 教ヲ 信スルヲ 行狀正シカラサルヲ 或ハ 學識ノ 十分ナラサルヲ 以テ 之ヲ 拒ムノ 權アリ 僧徒ニ 寺院ヲ 渡スヲハ 教長ヨリ 之ヲ 命シ 門環ヲ 把リ 鐘ヲ 鳴ラズ 等ノ 儀式ヲ 爲スハ 以後 十分一ノ 寺院税及ヒ 他ノ 諸税ハ 此人ニ 納ム 可キ 趣ヲ 教會 附屬ノ 人民ニ 報告スルノ 趣意ナリ 教院代理ハ 寺院 附屬 官員ノ 中ニテ 最モ 下等ノ 者ナリ 其在職中タリ



昔日ノ教院副長ノ如ク一時備入レノ身分ニシテ而シテ十分一ノ稅ヲ取ルヘキ眞ノ住持ニハアラサルナリウヰキトリヤ女王一年二年ノ決議第百六篇八十五章ニ據テ現在守職ノ本人ナキ寺院ニハ教長ヨリ代理官ヲ命シ收稅ノ内ヨリ若干ノ俸祿ヲ給ス可シ右ノ俸祿ハ一箇年八十ポンドヨリ少ナカル可カラス若シ八十ポンドノ入稅無クシテ已ムヲ得サル時ハ入金ノ限リ悉ク俸祿ニ給ス可シ又人口三百人ヲ保ツ教會ハ右俸祿百ポンドヲ給ス可シ不足ノ時ハ前ニ同シ他ノ割合ハ之ニ准ス可シ

ウヰキトリヤ女王二十八年九年ノ決議第六十八篇ニ據テ教會委員ハ永久設立ノモノトナリ隨テ諸教官及ヒ書記官等終身教務ヲ奉スル者既ニ老廢ニ及フニ十年或ハ十一年ノ間勤職セシ者ハ扶助金トシテ俸祿六分ノ一ヲ與フ可キノ權ヲ得シカ同篇ノ二章ニ若シ年限不足ノ時

ハ資金トシテ贈ル可シトナリ抑老廢扶助金ヲ與フルニ年齡六十二充テサル者ハ生涯廢疾ノ趣醫師ノ證書ナカル可カラス  
千八百七十年ノ決議即チウヰキトリヤ女王三十三年四年ノ決議第三十九篇ニ據ルニハトロキ僧官任叙ノ權ノ賣買モ教會委員ノ意見ニ於テ其牧師管轄地又ハ區内ノ靈魂ヲ保護スル爲メニ裨益アリトスル時ハ時宜ニ由リ其賣買ヲ便易ナラシムルノ方法ヲ設ケタリ

第四節 教師ノ領地居處位階ノ事

教師ノ領地原語ベニフ井ノスト及ヒ居處關係ノ事件ニ於テハウヰキトリヤ女王一年二年ノ決議第百六篇ニ據テ定ル所ノ條例アリ云ク一人二職以上ヲ兼ヌ可カラズ既ニ一領ヲ有ツ者更ニ他ノ領地ヲ重テント欲スルニ右ノ領地舊領ヨリ十里外ノ遠方ニ在ル時ハ之ヲ許サズ又新領ノ人口三千ヲ越ヘ或ハ合併ノ上新舊二所ノ入稅一箇年千ポンドニ過



ル時ハ亦之ヲ許サス然レモ一箇所ノ領地周年ノ收税百五十ポンドニ足ラス人口二千ヲ過キサレハ之ヲ許ス可シ但シ教長コテ右二領所ノ中ノ廣キ方ヲ撰ミ一年内凡ソ九箇月ノ間其借テ此ニ滞在セシム可シ且ツ教長ヨリ事實ヲ陳列シテ其理ヲ云ヒシ後ナラテハ之ヲ合併スルヲ得ス合併ノ免許ハ教長承允ノ後カントルボリ一ノ教大長ヨリ之ヲ命ス可シ凡ソ在職ノ教師他ノ領地ニ滞在ノ外ハ長官ノ許諾無クシテ恣ニ領地ヲ遠サカリ三箇月以上六箇月以内不在ノ時ハ罰金トシテ右領地一箇年ノ收税三分ノ一ヲ没入シテ當人ノ俸祿ヲ減ス六箇月以上八箇月以内ノ不在ハ二分ノ一ヲ減シ八箇月以上ハ三分ノ二ヲ減シ一箇年ノ不在ハ四分ノ三ヲ減ス可シト爲ス

然レモウヰサクトリヤ女王十三年四年ノ決議第九十八篇ニ據テ右ノ決議ノ箇條ヲ補正セリ云ク教師一人ニシテ二箇所ノ領地ヲ併領スルハ

兩地ノ寺院近路ニ從ヒ其距離三里以内ニシテ各領ノ收税一箇年百ポンド以下ノ者ニ限ルヘシト又同篇二節ニ據ルニ二箇所ノ領地ヲ有ツハ一年二年ノ決議ニハ拘ハラス唯十三年四年ノ條例ニ從ヒ一箇年收税ノ多寡ニハ定限ナク唯免許ノ法ト人口ノ限ハ一年二年ノ條例ヲ守ル可シトナリ領地ノ意味ハ教職ノ利益ト云フ義ナリ一箇年收税ノ多少ヲ計ルハ諸税諸入費十ガ一税當然ノ出銀永久課出金ヲ除ク外全クノ殘金ヲ以テ之ヲ定ム然レモ教院代理ノ俸祿ハ之ニ合算セス向後拜任ノ副監督ハオキスフナルド及ヒカソブリツヂノ大學校學院ノ學頭ニ兼任スルヲ得ス或ハ公學校ノ掌院學頭等ノ職ニ兼任スルヲ得ス學頭ノ輩モ亦教職ニ任ジ及ヒ領地ヲ受ルヲ許サス但シ其領地等素ト其學頭職ニ附屬セル永久寄附物タラハ此例ニアラス若シ此法ニ背テ領地ヲ受ケハ假令ヒ教長へ謁見ノ禮ヲ終ハリシ後タリモ之ヲ廢スルヲ



得可シ同篇ノ八章ニ於テハ場合ニヨリテ領地ヲ重ヌヘキノ條例ヲ舉  
 ケタリ又既ニ任叙シタル僧官ハ該決議ト雖モ之ヲ動カス可カラズ又  
 既ニ一領所ヲ有テシ者モ千八百三十七年十二月二十三日以前三次ノ  
 謁見ノ命ヲ受ケシ時ハ二所ヲ重ヌルモ妨ケ無シ又客僧ノ職ヲ以テ采  
 地ヲ領スルコトハウヰキクトリヤ女王四年五年ノ決議第三十九篇ニ詳ラ  
 カナリ  
 一人ノ僧一日ノ勞事ハ領地ニ簡所ノ勤仕ヨリ多カル可カラズ  
 寺院ニ於テ教師ノ住宅ヲ備ヘス或ハ廢額シテ修ム可カラサル時ハ寺  
 院ヨリ三里以内或ハ市邑ナレハ二里以内ノ地ニ教師自ラ住居ヲ選ブ  
 コ妨ケアラズ

ウヰキクトリヤ女王二年三年ノ決議第三十篇ニ據テ教師領地ニ於テ教  
 導職ノ僧侶一人ヨリモ多キ時ハ聖會保長及ヒ寺領住民ノ同意ヲ以テ

其職掌ヲ平分スルハ教長ヨリ之ヲ命ス可シトス

諸郡ニ於テ講道者ト名ツケ教會ノ執事或ハ教導員ノ階位ニ列シ專ラ  
 説教ノヨリ職任ヲ以テ選舉或ハ拜命セラレテ他ノ教務ナキ者アリ右  
 ノ輩ハウヰキクトリヤ女王七年八年ノ決議第五十九篇ヲ以テ在職ノ教  
 導員同意ノ上ハ教長ノ允可ヲ受ケ教院副代理ノ任ヲ奉ス可シ但シ方  
 今ノ制ニテ必ス教院代理ヲ備フヘキ場合ニ於テハ在職ノ教導官右ノ  
 副代理選任アルニ拘ハラズ自ラ別ニ教院代理ヲ備ヘサル可カラズ聖  
 職ニ列セル教會書記官モ亦同様ノ式ヲ以テ教院副代理ノ任ヲ勤ム可  
 シトス

ウヰキクトリヤ女王二十三年四年ノ決議第四百四十二篇ニ據テ都邑ニ於  
 テ教師領地合併ノ條例ヲ更ニ又改正シタリウヰキクトリヤ女王十八年  
 九年ノ決議第二百十篇ニ解説セル如ク近接ノ領地ハ之ヲ合併スルニ



當テ兩所ノ人口及ヒ収税ノ多寡ニ關ハテスシテ可ナリロンドン或ハ  
 ウヰンチエスタルノ教長ヨリ在職ノ僧侶三名イングリッド教會ノ俗  
 人二名全員五人ノ者ニ委任シテ別段延引セヌハ六箇月ノ内ニ合併ノ  
 方畧ヲ陳セシメ次テ之ヲ聖會保長及ヒ會長ニ示シ其得失ヲ論セシム  
 可シ又寄附金ヲ受用スル講道職ノ事ニ關シ教長ニテ常例ノ説教ヲ止  
 メントノ方畧ヲ備フルコトヲ得可シ又其第二十八節ハ合併ノ領地ノ禮  
 拜堂ノ坐所ノ適用ニ關シタリ但シ賣拂ノ資財ヲ教會委員ニ託スルコ  
 トハ同篇ノ二十八章九章ニ詳ラカナリ

第五節 牧師領地賣拂又増加ノ事

ウヰクトリヤ女王二十六年七年ノ決議第二百十篇ニ據テ司法長官ノ  
 掌握セル某々ノ牧師領地ノ受與權ハ之ヲ賣渡シ其代價ヲ以テ件ノ領  
 地ヲ増加スルモ可ナリ又司法長官ノ與奪權内ニアル領地入税ノ薄キ

者ハ他ノ牧師領地ノ授與權ヲ賣リテ其代價ヲ以テ之ヲ増加スルコトヲ  
 得可シ總テ斯ノ如キ授與權ヲ買ハント欲スル者ハ約束ノ箇條ヲ書面  
 ニ認メ司法長官ニ授ス可シ若シ數人ノ投書アリシ時ハ必スシモ其商  
 買ノ者ニ之ヲ賣渡サ、ルニ法ニ於テ妨ケ無シ牧師領地ノ授與權ノ賣  
 買スヘキモノハ其目錄ヲ作ルニ隨意タル可シ又司法長官ハ住職ノ教  
 員ヨリ最初五年ノ出納表ヲ出サシメ之ヲ取調フルトモ可ナリ牧師領  
 地ノ授與權ヲ賣ルコト方テ全價或ハ半價納金ノ約條ハ極メテ堅固ナル  
 可シ賣價半金以下ノ納金ハ一箇年百ニ付キ三箇半ノ利息ヲ添ヘ年賦  
 ナリテ教會委員ニ納ム可シ此ノ如キ年賦納ハ領地増加ノ爲メニ使用  
 スルトモ可ナリ若シ代金ノ中ニ尙ホ餘金有ル時ハ之ニ利息ヲ加ヘ其  
 利息ニ又利息ヲ加ヘ之ヲ預ケ置キ次ノ領地増加ノ價金ニ充ツ可シ授  
 與權ヲ賣テ納マリシ價金ハ銀行ニ納メシメテ諸ノ年賦金或ハ小作家



賃等ヲ得可キコトニ用ヒ或ハ之ヲ用ヒテ教師ノ住宅ヲ建ツ可シ牧師領地ノ授與權ヲ買ヒシ者ハ全ク其所有主ト成ル可シ一人ニテモ或ハ衆人ノ仲間ニテモ右ノ授與權ヲ買フニ妨ケ無シト雖モ之ヲ四箇ヨリ多ク有ツ可カラズ一度右ノ授與權ヲ買ヒシ者ハ五年ノ期限ニ滿タサレハ再ヒ之ヲ賣ル可カラズ或ハ實業世襲ノ人又限嗣業ノ人ト雖モ條例ニ從テ之ヲ買フ可シ司法長官ハ賣拂ノ納金ヲ以テ領地増加ノ用ニ供ス可シト雖モ一所ノ入税千「ポンド」ヲ過キ或ハ住民四人ノ納税一箇年「ポンド」ニ過ルノ割合トナレハ不可ナリ前ノ條々ハ一切其事ヲ書記官ニ委ヌ可シ司法長官躬自ヲ其事ヲ執ル可カラズ

第六節 教長及ヒ牧師會員領地ノ事

イソングランドニ於ケル教長及ヒ牧師會員ノ領地ノ事ヲ進善シ借地人ノ利便ヲモ害セサル爲メニセスウキトリヤ女王十四年五年ノ決議

第百四篇ニテ僧侶統合體ト其借地人トノ間ノ施爲接遇ノ諸件ヲ便易

ニスル法ヲ定ムウキトリヤ女王二十四年五年ノ決議第百三十一篇ニ據テ猶ホ之ヲ因襲セリ

其第一節ニ僧侶統合體ハ總テ寺領委員ノ許書ヲ得レハ此會社ノ貸地

ニ在ル何レノ借地人ニモ此地所ニ屬スル復得地所ヲ貸シタル期限ノ過キタル後貸人及ヒ其相續人ニ

地所ノ返ルノ權受領ノ權及ヒ其利分ヲ賣ルヲ得可シ但シ其代價ト其

約定ノ做法トハ此統合體ト借地人トノ適意ニ任カス勿論寺領委員ノ

許可ヲ得サル可カラズ且ツ此統合體ノ所有タルコトビイホルド官廳ノ記

書ヲ持テ地面ヲ變シテ「フリーホルド」領主ノ隨意ニ取上ケルヲ得サ爲シ

或ハ其貸地ニ在ル何レノ借地人トモ其地面或ハ其復得ノ權受領ノ權

及ヒ其利分等ヲ互ニ取換ルトモ又ハ他ノ「コトビイホルド」「フリーホルド」

ノ土地ト取換ル由右ノ許書ヲ得レハ法ニ背ケリトセズ斯ノ如キ交易



コテ平均ヲ得ル爲メニ金錢ヲ受ケ或ハ與ルトモ妨ケナシトス且ツ又  
 統合體ノ所有ナル地面ニ在ル借地人又ハ右様ノ莊園ニ屬スル「コビー  
 ホルド」ノ土地ノ受領人ノ受領ノ權及ヒ利分等ヲ買フトモ右ノ許書ヲ  
 得レハ妨ケナシトス但シ僧侶統合體ノ受領ノ利分ナル十一税カ或ハ  
 十一税ノ代リニ配定セル讓地カテ統合體ヨリ賣リ或ハ交易ニテ與フ  
 可キ旨ヲ此決議書ニ憑テ言ヒ出ル時ハ寺領委員右ノ賣買交易ヲ承許  
 スル前ニ先ツ其十一税ノ収マル所以ノ土地ノ有様ナイングランド僧  
 侶委員ノモトニ稟告ス可シ又教會委員ヨリ之ヲ命スル時ニハ寺領委  
 員右ノ賣買交易ヲ承許書ニセシ一ノ章程ヲ添ヘテ教會委員ノ至當ト  
 思フ丈ケノ條約ヲ定メテ右ノ賣買交易ヨリ収ム可キ金錢或ハ諸物ノ  
 中ヨリ其地ノ寺務入用ニ付キ幾分カテ供給セシム可シ  
 其第二節ニ貸地ノ内ニ在ル借地人ノ利分ノ唯一部分ヲ僧侶統合體ニ

讓リ渡ス時ハ寺領委員其貸地證文ニ裏書シテ控ヘ置キタル地租ヲ其  
 借地人ト其僧侶統合體ノ間ニ分ツ可シ此分ノ地租ハ猶ホ其再借地人  
 ヨリ其借地人ニ拂ヒ續ク可キ者トス而シテ右ノ分ナル部分ハ恰モ  
 之ヲシテ元來地面ニ就テ控ヘ置キシ地租ナリシカ如クナラシメテ其  
 再借地人ヨリ其借地人ニ拂フ可シ此決議書ニテ諸借地人ノ得タル利  
 分ハ公平律法ノ管轄ニ屬シ且ツ其貸地ニ屬スル書替ノ約定ニ從フ可  
 シ貸地所有人ノ利分ハ書替ノ約定ヲ所持スル再借地人ノ許諾無シテ  
 ハ賣買スルコトヲ得サル可シ讓リ渡シニ就キ寺領委員ノ立證有レハ之  
 ナ堅固ノ請合トス右ノ請合ヲ得テ買ヒ受ケタル者ハ賃租當否ノ檢査  
 ナ受ルコトニ關係セサルヲ得可シ

ウヰクトリヤ女王十六年七年ノ決議第三十五篇ニ千八百五十三年ノ  
 第三月ト千八百五十五年ノ第一月トノ間ニ教長本寺或ハ會院禮拜堂



ニ於ケル職務ニ任セシ人ハ之ヲ廢止スル時ニ於テモ其償金ヲ受ルニ  
與カレトヲ得ストス

ウヰクトリヤ女王二十三年四年ノ決議第百二十四篇ニ從來ノ僧侶委  
員ニ就テノ諸決議并ニ教長及ヒ牧師會員ノ領地ニ就テノ決議ヲ改正  
セリ此決議行ハレテヨリ後ニウヰクトリヤ女王十三年四年ノ決議第  
九十四篇第十三節ノ教大長及ヒ教長ノ歳入ヲ保持スル法ヲ令スル者  
ノ中後來ノ相續ニ關スル箇條ハ廢止セラレタリ一教職始メテ空位ト  
ナル時ハ其職ニ屬スル地面ハ僧侶委員職ノ目的ニ從ハシメ各教職ニ  
定例ノ歳入ヲ與フルニ足ル程ノ地面ヲ以テ給ス可シト定ム其餘ノ文  
ハ事長クシテ要少ナケレハ爰ニ擧ケス

第七節 新ニ牧師管轄地ヲ創造スル事

ウヰクトリヤ女王六年七年ノ決議第三十七篇并ニ七年八年ノ決議第

九十四篇ハ人烟稠密ナル地方ヲ分割シテ教務ノ爲メニ別箇ノ牧師管  
轄地ヲ造リ且ツ又究乏ナル采地ニ加増スル等ノ爲メニ便宜ヲ與フ此  
決議ニ依テ教會委員ハ人烟稠密ニシテ教務ニ必要ナルハ其教地ノ教  
長ノ承許ヲ得テ新牧師管轄ト爲ル地方ノ爲メニ毎年一百「ポンド」三下  
ラサル或ハ増シテ百五十「ポンド」ニ至ル金高ヲ永久付與スル程ノ地方  
ヲ造ル爲メニ教長本寺決議(ウヰクトリヤ女王三年四年ノ決議第百十  
三篇并ニ四年五年ノ決議第三十九篇)ヲ以テ増加セル所領ノ抵當ニテ  
アソ女王ノ寄進料支配人ヨリ六十五「ポンド」程ヲ借ル可キノ權ヲ許セ  
リ右ノ地方ヲ造ルノ積リ書ヲハ先ツ其教會ノ保主及ヒ在職者ニ告知  
シテ後女王ニ呈シ樞密議會ノ評決ヲ請ヒ然ル後教長ノ免許ニテ牧師  
ヲ命シ永久ノ教會師同様ノ職務ヲ奉セシメ且ツ其職ニ於ル俸給トシ  
テ何ソノ寄附地ニテモ受ルヲ得可ク「モルトメーン」(死子ノ義ナリ地所統合  
休ノ所有トナリシ時永



久讓リツ、キテ他ニ渡ノ條例ニ拘ラサルナリ禮拜ノ假場所ハ教長ノ免許  
 スナ許サ、ルヲ云フ  
 ニ依テ造ルヲ得可シ然レモ其地方婚姻或ハ葬禮ヲ本山ニテ執リ行フ  
 モ妨ケ無シ又他ノ權利ニモ障碍有ル無シ新規ノ禮拜堂ヲ建立セシ上  
 ハ其地方ハ新規ノ牧師管轄地トナリ牧師ハ永久ノ教會師ト爲リ別ニ  
 聖會保長ヲ選ンテ拜命ス可シ然レモ此決議書ハ顯然設ケアル箇條ノ  
 外ニ教會ノ權利或ハ特權ヲ冒犯スルコト無カル可シ且ツ此決議ヲ行フ  
 ニ依テ何レノ教會地ノ在職者ニテモ其役料ノ減スルコト有レハ之カ償  
 ヲ與ヘラル可シ右新規ノ地方ノ保主職ヲハ誰人ニテモ其牧師ノ永代  
 ノ給料カ左無クハ居民ノ用ニ供スル禮拜堂ノ料トシテ寄進セシ者ニ  
 永久ニテモ一任乃至數任ノ間ニテモ與フルヲ得可シ保主職ヲ命スル  
 ハ國王ト其教地ノ教長トニ依テ代ル代ル行フ可キナリ  
 ウヰクトリヤ女王十九年二十年ノ決議第百四篇ニ一箇ノ禮拜堂有ル

地方ハ樞密議會ノ協議ヲ經シ國王ノ命ニテ分テ別ノ一地方ト爲ス時  
 ハ則チ新規ノ牧師管轄地ト爲ルコトヲ得可シトス其第五節ニ舊來ノ管  
 轄地禮拜堂ニ於ル坐位ノ權利ハ新管轄地禮拜堂ニ於テ衆會ノ坐位定  
 リテ後ハ循環ス可カラズ坐位料ハ等級ニ隨テ收納シ禮拜堂ノ修復及  
 ヒ俸祿ヲ給スル爲メニ用ヒラル可シトス又何レノ禮拜堂ニテモ其永  
 代寄附料有ル者ハ其レニ准シテ衆會ノ數若干ハ其料ハ取ラス或ハ坐  
 位料ヲ減スルコト其第七章ニ定レリウヰクトリヤ女王十九年二十年  
 ノ決議第五十篇ハ人民衆多ナル某ノ教會地ノ居人ヲシテ其僧官任叙  
 ノ權ヲ賣リテ其上リヲ以テ牧師ノ住宅ヲ建立シ及ヒ狹小ナル采地ヲ  
 増加シ又其他ノ俸給ノ事ニ用ユルヲ得セシムルナリ

第八節 アイルランド聖會ノ事

アイルランドノ聖會ウヰクトリヤ女王十四年五年ノ決議第七十一篇



ニ據テチャールズ二年ノ決議第二篇ヨリウヰットリヤ女王十二年三年ノ決議第九十九篇ニ至ル迄合併聖會ノアイルランドノ部ニ係ル者ハ其確定ト改正トノ著主トシテ先ツ假リニ廢止セラレシ條例四十餘篇ニ及ヘリ其廢止セラレシ決議ハ僧徒ノ家屋ヲ建造シ又ハ禮拜堂ニ領地ヲ寄附シ或ハ買入レ或ハ交易シ又ハ寺領ニ在リ或ハ寺領俗人ノ手ニ渡リタル教會地ノ領地ヲ取放ス等ノ事ニ係ル者許多ナリ

第九節

僧侶ノ名譽ヲ爲シ及ヒ宣言ヲ爲ス事

ウヰットリヤ女王二十八年九年ノ決議第二百二十二篇ハイングラント及ヒアイルランド國定ノ僧徒ノ行フ可キ名譽宣言誓詞等ニ就テノ法則ヲ改正ス承諾ノ宣言ハ左ノ如シ我レ教法ノ三十九箇條ト通用ノ拜禮文及ヒ教長教師副教師等ノ命令書ヲ承諾ス且ツ此等ノ文書ニ掲載スル所ノイングラント及ヒアイルランド合併ノ教法ハ上帝ノ道ニ協

ヘルコヲ信ス且ツ又衆同ノ拜禮及ヒ晚餐ノ供禮ニ於テ我レ必ス右ノ拜禮文ヲ用ヒ表向ヨリノ命令等ノ如キヲ除クノ外ハ一切他事ヲ用ユ間敷キ者ナリ

教職ヲ賣買スマシキノ宣言 我レ何某正ニ宣言ス我レ自身ニテモ或ハ我カ名代ノ他人ヲ以テモ我カ知ル所ニテハ教職ノ賣買ニ類スルコトニテ金錢ヲ出タシ或ハ約定等ヲ爲シテ此教職ヲ昇進ヲ爲セシ事無シ又以來トテモ我カ承知無キニ他人ニ依テ右ノ如キ出金或ハ履約カマシキコト有ル可カラズ

役料ヲ受ル教會師ノ宣言 我レ何ノ國ニ於ル何地ノ何職ニ現任タル甲氏何某何ノ國ニ於ル何地ノ乙氏何某ニ教會師タル役目ノ給料トシテ若干「ポンド」ノ歳俸ヲ拂ハントス而シテ我乙氏何某實ニ右ノ役料ヲ殘ラス受取ラント欲ス我等甲氏何某及ヒ乙氏何某各々左ノ事ヲ宣言



ス右ノ役料ノ中ヲハ寺地家屋ニ用ユルノ賃租或ハ報償トシテ引落ス  
 一決シテ有ル可カラス又我甲氏何某ハ右ノ役料ヲ何ニテモ毫モ減省  
 スルヲ無シ拂ヒ我乙氏何某ハ毫モ減省無ク受取ラント欲スル者ナリ  
 其第四節ニ牧師或ハ副牧師タラントスル人ハ拜任ノ前ニ先ツ承諾ノ  
 宣言ヲ爲シ隨順奉土ノ誓詞ニ名署ス可シトス此決議ニ依テ要スル所  
 ノ者ヨリ外ノ宣言或ハ誓詞ハ行ハシメサルナリ其第十節ニ承諾ノ宣  
 言ハ他ノ僧官僧爵或ハ寺領等ヲ受ル時ニ於テハ變換セラル可シトス  
 誓詞ハ拜命或ハ按手ノ禮式ノ時ニ當テ執リ行フ可カラス教律上ニ於  
 テ教長ニ隨順ノ誓詞或ハ教長ヨリ教大長ニ隨順ノ誓詞ヲハ何事モ之  
 ヲ犯スヲ得ストス此決議ニ加フルニヘヌリト第八世二十八年ノ決  
 議第十五篇ヨリウキクトリヤ女王一年二年ノ決議第百六篇迄ノ廢止  
 セル諸決議ノ目錄及ヒ諸決議ノ中廢止セル部分ノ目錄アリ

ウキクトリヤ女王二十八年九年ノ決議第百十九篇ハ寺領有ル僧徒ノ  
 爲メニ相應ノ家屋ヲ備ヘ或ハ其他ノ事ノ爲メニ備フル法律ヲ改正シ  
 且ツ更ニ能ク行ハレシム其第一節ニ會社及ヒ人々其事ヲ行フ能ハサ  
 ル者ニハ牧師ノ用ニ充ツ可キ家屋及ヒ地面ヲ渡ス可キノ權利ヲ許セ  
 リ

第二章 貴人及ヒ平民ノ條

總テ貴人ノ等位ハ女王ヨリ來ル故ニ女王ハ隨意ニ新タナル稱號ヲモ  
 造ルヲ得可シ總テ貴人ノ等位ハ其時ノ國王ニ依テ造ラレ或ハ與ヘラ  
 ル、者ナレハ舊キ有リ新シキ有リ各等シカラス方今合併王國ニ用ヒ  
 ラル、等位ハ公侯伯子男ノ五等ナリ之ヲ此王國ノ貴族ト稱ス  
 通例ハ貴人ノ子弟等ヲモ亦概シテ貴人ト稱スト雖モ眞ニ其稱號ヲ持  
 ツ者ハ唯其家ノ主人ノミナリイングランド或ハ合併王國ノ貴族タル



者ハ國會ノ上院ニ於テ坐位有リ是レ子孫世襲ノ者ト爲ス唯アイルラ  
ンド及ヒスコットランドノ貴族ニシテイングランドノ貴族ニ非サル  
者ハ選舉ニ依テ上院ニ坐スルヲ得ルナリ是ヲ以テ大英國ノ中貴人タ  
ル者ニ二種ノ別有リ其一ハ貴族ノ稱號ト共ニ國政ニ與カルノ權ヲ世  
襲スル者是レナリ其一ハ國政ニ與カルノ權ヲ世襲セズ其地住恰モ貴  
族ノ子弟ノ世人ノ尊敬ニ依テ貴人ノ稱號ヲ持ツ者ニ同シク平民ノ身  
分ニ在レトモ平民ノ事ヲ爲サ、ル者是レナリ

貴族ノ權利ハ元ト領地ノ上ニ在リシ者ト見ユタリ精シク云ヘハ土地  
莊園城地或ハ邸地有ル人ハ此王國ノ貴族タルヲ許サレ國會ニ召サ  
レテ議員ニ列リ國王ニ奉公セシナリ若シ其土地ヲ讓リ渡セシ時ハ其  
官爵ハ附屬ノ者トシテ之ト共ニ移リシナリ然レモ讓リ渡シ履行ハル  
ル様ニ爲リシ時ニ至リテ貴族ノ爵ハ一旦之ヲ賜リシ人ノ血統ニ限ル

トトナリ始メノ如ク領地ノ上ニ在ル者ナラスシテ人身ノ上ニ屬スル  
者ト爲レリ

貴族ハ死去或ハ除族ニ依ルノ外ハ其貴人タルヲ失フ可カラス昔時

エドワード第四世ノ時ニベットフォルト公シオルヨ、テブサールナル

者家貧ニシテ其官爵ヲ保ツ能ハサリシニ由リ國會ノ決議ニ依テ貶黜

セラレシ例有リト雖モ今ハ行ハレス又男爵タル者若シ其領地ヲ荒廢

セシメテ其爵位ヲ保有スルヲ能ハサルニ至ル時ハ國王之ヲ貶黜スル

ヲ得可シト云フ然レモ方今公然ニ行ハル、所ニテハ貴族ハ唯國會ノ

決議ニ依テノミ貶黜セラレ、ナリ

反逆重罪及ヒ此罪犯ヲ忽略スルニ於テ反逆重罪等ヲ輕キモノト見做シ貴人  
トシテ懲罰スル如キヲ謂フ

ハ必ズ貴族ニ依テ審査セラレ、ヲ要ス然レモ亂闖、誹謗、徒黨、偽造等ノ

如キ輕罪ニ於テハ平民同様ニ陪審官ニ依テ審査セラレ、ナリ



平民トハ總テ貴族ニ非サル者ヲ謂フ貴人ニ等級有ルカ如ク其中ニモ亦等級有リ「パロチツト」「ナイト」等ノ如キ即チ是レナリ「サイル」「ドワルド」  
 コーグノ説ニ據ルニ「イスカイル」及ヒ「セントルメン」ノ稱ハ唯尊崇ノ辭ニシテ官爵ノ稱號ニ非スト云ヘリヘラキ式法家ハ總テノ「コロチル」及ヒ「セル」  
 シエントエトロウ及ヒ三學科ノ「ドクトル」ヲ別序シテ之ヨリ前ニ置ク  
 イングラントニ於テ席順ノ規則ハ左ノ記表ノ如ク定マル是レ諸條例  
 ト官准皆ニ依テノ免許ト習俗トニ於テ見ラル、所ナリ

第一節 人民等級表ノ事

- 女王ノ子及ヒ孫
- 女王ノ兄弟
- 女王ノ叔伯
- 女王ノ甥

- カントルブリーノ教大長
- ロルド(チヤンセロル)
- ヨルシノ教大長
- ロルド(トレシユール)
- ロルド(プレシデント) オフ、カウシル
- ロルド(プリブアイシール)
- ロルド(グレート) チヤンベルレイン
- ロルド(ハイコンステイブル)
- ロルド(マルシヤル)
- ロルド(アドミラル)
- ロルド(ステワルド) オフ、ゼハウスホルド
- ロルド(チヤンベルレイン) オフ、ハウスホルド

若シ男爵ナレハ

上ニ記スル次序ハ  
 總テ其身分元來貴  
 族タル者ヲ以テ謂  
 フ



公爵

侯爵

公爵ノ長子

伯爵

侯爵ノ長子

公爵ノ次子

子爵

伯爵ノ長子

侯爵ノ次子

センレマリイ、オフ、ステイト

ロンドンノ教長

ズルハムノ教長

若シ教長ナレハ

ウキンナエストルノ教長

教長

セクレタリー、オフ、ステイト

男爵

國會下院ノ議長

ロルド、コンミッショナール、オフ、ゼグレイト、シール

子爵ノ長子

伯爵ノ次子

男爵ノ長子

ナイト、オフ、ゼ、カトル

ブリブキイ、カウシロル

キヤンセル、オフ、ゼ、ニクスチエツケル

若シ男爵ナレハ



ナヤンセロル、オフ、ゼ、ジューナイ、オフ、マンカストル  
 ナイフジヤスチス、オフ、ゼ、クインス、ベマナ  
 マストル、オフ、セロルス  
 ナイフ、ジヤスチス、オフ、ゼ、コンモンプリイス  
 ナイフ、ハロン、オフ、ゼ、エクスチエツケル  
 シヤツマ、オルヂナリイ、イン、ダイブ、オルス、コールト  
 フハイス、ナヤンセロル  
 シヤツジ、エント、ハロンス、オフ、ゼ、コイフ  
 ナイツ、パンチシツツ、ローヤル  
 子爵ノ次子  
 男爵ノ次子  
 ハロチツツ

ナイツ、ハンチレツツ  
 ナイツ、オフ、ゼ、ハッス  
 ナイツ、ハツチエロル  
 ハロチツトノ長子  
 ナイトノ長子  
 ハロチツトノ次子  
 ナイトノ次子  
 コロチル  
 セルシエントエトロウ  
 ドクトル  
 ハルリストル、エトロウ  
 イスカイル



セントルメン  
ヨオメン

商人

工人

備作人

夫アル女許嫁ノ女ヲ兼テ云フ及ヒ寡婦ハ其夫ノ持ツ等位ニ同シキ等級ニ於テ列ス但シ其等位唯學業或ハ官職ノミナル者ハ然ルヲ得ヌ未ダ婚姻セサル婦女ハ其長兄ノ其父存生ノ間持ツ可キ等級ト同シキ等位ニ列ス「イスカイル」ノ等位ニ就テ其區別頗ル判然ナラス其故ハ領地ハ何程多シト云フトモ此等級ヲ與フルコトハ領地ノ故ヲ以テスルコト非サレハナリカムデン氏ハ其式法家ノ職ニ在リシ人ナリ「イスカイル」ノ種類ヲ數ヘテ四種ト爲ス其第一ハ「ナイト」ノ長子及ヒ其永世相續ノ長子第二ハ

貴族ノ長子及ヒ其永世相續ノ長子第三ハ女王ノ勅准或ハ他ノ授職者今廢セルコト久シニ依テ命セラレタル「イスカイル」即チ治安裁判役及ヒ王命ノ官職或ハ委任ヲ受タル者ノ如キ是レナリ之ヲ名ツケテ其委任及ヒ拜命ニ於ケル王命ノ「イスカイル」ト謂フ其終ニ「バリストル」モ亦「イスカイル」ナリ而シテ曾テ「コンモンブリス」ノ廳ハ供詞ヲ讀ムコトヲ肯ンセサルコトアリキ其故ハ之ニ舉名セル「バリストル」ヲ「イスカイル」ト尊稱セサルニ由レリト「ウキルス」名書卷一第二百四十四面ニ見ユタリ方今ハ文學特秀ノ士商賈上等ナル者銀鋪及ヒ商賣或ハ職業ヲ須ダスシテ別ニ活計ノ道有ル人等ニモ亦通シテ「イスカイル」ノ稱號ヲ用ユルコト通例ナリ「セントルメン」ト云フ語ハ「イスカイル」ト云フ語ヨリモ一等下レル稱ト爲レリ然レモ二者元來ノ差別ノ如何ニ於テハ諸説紛々トシテ一定ナラス「ヨオメン」ハ一年四十「シルリング」ノ「フリーホルド」ヲ持テル者ヲ謂



フ其洲中ノ「ナイト」國會ニ參スル選舉ニ投言スルノ身分ニシテ又「フリー  
メン」自主ノ義タル者ノ行フ可キ他ノ何事ヲモ爲スヲ得ル者ナリ  
其餘ノ國民ハ商人、工人、傭作人ナリヘヌリ一第五世一年ノ決議第五篇  
ニ據テ是等ノ者ハ總テノ公事ニ於テ直チニ其名ヲ稱シ之ニ其商賣或  
ハ職業ノ名ヲ加フルト定マレリ

第三章 民官ノ條

第一節 郡長ノ事

郡長ハ極メテ舊キ官ニシテ其昔ハ人民ヨリ選舉セシ者ナリシカ今ハ  
王ヨリ命スルナリ其在職ハ唯一年ノ期限ニシテ免職後二箇年ノ間ハ  
強ヒテ再任ヲ命スルヲ得ス  
其職トシテ裁判スルヲ得ル所ハ二十「ポンド」ヨリ下ノ負債ヲ審問スル  
爲メニ呼出シ狀ヲ出シ且ツ郡廳ニ於ケル裁斷ヲ處分ス又國會ノ議員

ヲ投票スル人ノ人品ヲ裁判シ其州ノ「ナイト」國會ニ參檢屍官及ヒ「  
ルド」レノ選舉ヲ決斷ス  
郡長ハ女王ノ平和ヲ保守スル者ニテ之ヲ攪亂セント欲スル者有レハ  
何人ヲ擇ハス牢獄ニ送ルヲ得可シ又總テノ反逆人及ヒ重罪人ヲ捕ヘ  
テ之ヲ監押ノ獄屋ニ送ルヲ以テ其職務ト爲ス又女王ノ仇敵ナル者ヲ  
禦キテ其州中ヲ守ル可キナリ故ニ此事ト平和ヲ保守シ重罪人ヲ緝捕  
スルトトノ爲メニ年十五歳以上ニシテ貴族ノ階級以下ノ者何人ヲ論  
セス己レニ隨從ス可キヲ命スルヲ得可シ若シ從ハサレハ過料及ヒ拘  
留ヲ命スルモ可ナリ然レモ罪犯人ヲ審問スルヲ得ス又其職ニ在ル間  
ハ治安裁判役トシテ處置スルヲ得ス  
其職トシテ處分スルヲ得ル所ハ裁判廳ヨリ出ル總テノ事務ヲ行フ可  
キニ在リ自身ニテモ或ハ名代ニテモ此廳ノ呼出シ狀ヲ取扱ヒ捕獲ヲ



爲シ預リ人ヲ取り陪審官ヲ呼出シテ之ヲ裁判廳ニ差出ス可シ及ヒ此  
 廳ノ裁判セシ事ノ實地ニ行ハル可キヲ監視スルヲ要ス  
 女王ノ郡代トシテ其郡代領所内ニ王位ノ權利ヲ保守スルヲ其職掌ナ  
 リ除族或ハ歸官ニ依テ女王ニ歸シタル總テ土地ヲ取テ王ノ用度ニ供  
 スルヲ要ス又總テノ過料及ヒ沒収ヲ納メ總テノ棄物失主ノ獸畜破船  
 等ノ如キ者ヲ取り納メ置クヲ要ス但シ平人ニテ是等ノ物ヲ准賜セラ  
 レタル時ハ格別トス且ツ「エクスチエツケル」ヨリ手續ニ依テ命セラル  
 ル時ハ其州内ニ在ル女王ノ賃租ヲ取聚ムルモ亦其職掌ノ中ニ在リ  
 其諸般ノ職務ヲ執リ行フ爲メニ通例其下ニ郡長次官郡代及ヒ監牢者  
 有リ郡長次官ハ通常此職ノ重立タル事務ヲ行フ又郡長附屬ノ官員ハ  
 在職中民事ノ訴訟ニ於テ預リ人タルヲ許サレヌ又女王ノ廳ニ於テ狀  
 師タルヲ許サレヌ然レモ他ノ狀師ノ名ヲ以テ之ヲ爲シ己レノ代リニ

他ノ名ノミノ郡長次官ヲ置ケハ此律書ノ規則ヲ用ヒサルモ可ナリ  
 ウサントリヤ女王一年ノ決議第五十五篇ニ據テ郡長ノミハ唯ウエス  
 トミンストルニ於ル律法廳ノ租稅官ニ依テ許サルハ程ノ禮金ヲ取ル  
 丁ト定マレリ其在職中ハ其郡内第一等ノ人ニシテ何レノ貴人ヨリモ  
 勝リタル者トス「アツシー」巡察所ノ裁判官ト共ニ廳上ニ坐シ或ハ坐  
 ス可キヲ許サル

第二節 檢屍官ノ事

公約書ニ依テロンドン及ヒミドルセキスノ郡長ハ此都府ヨリ選任セ  
 ラル、者トス此職ヲ敢テ辭スル者ハ其家産一万五十「ポンド」ニ値セサ  
 ルヲ誓フニ非サレハ六百「ポンド」ノ過料ヲ拂フヲ免カレ難シ

此官員ハ「フリーホルドル」ニ依テ生涯選任セラル然レモ其任ニ堪ヘサ  
 ルカ或ハ聚斂ニ過ルカ或ハ其職務ヲ怠ルカ或ハ不身持ナルカノ爲メ



ニ廢セラル、者トス檢屍官ノ人員ハ定リナシ郡ニヨリテ六名有ルモ四名有ルモ更ニ寡キモ有ルナリ其管轄ノ地方ト之ヲ選舉スルノ時期及ヒ做法ハウヰクトリヤ女王七年八年ノ決議第九十二篇ニ據テ規定チ立テ其州ヨリ出ル國會議員ヲ選舉スルノ法則ニ倣フ然レモ此律ハ王ヨリ某ノ境界ノ内ニ命セラレタル檢屍官ノ上ニハ關シ及ハス其地限り等ノ公約書或ハ特權ニ依テノ檢屍官ノ上ニモ亦及ハストス檢屍官ノ職ハ何人ニテモ強横ノ死ニ罹リタル者ノ原故ヲ檢査スルナリ之ヲ爲スハ必ス屍體ヲ檢視スルヲ要ス其故ハ若シ屍骸見エサル時ハ檢屍官之カ爲メニ別段ノ委任ヲ受ルコト非サレハ其原故ヲ檢査スルコト能ハサレハナリ檢屍官ハ又時宜ニ依リテハ變死ノアリタル場所ニ會議スルヲ要ス若シ何人コトモ人殺ノ罪ヲ犯ス者ト認メタル時ハ檢屍官審問ノ爲メニ之ヲ牢獄ニ送り其所有ノ地面及ヒ什物ニ就テ女王

ニ歸スル關所物有ルカヲ檢査シテ皆之ヲクインスベシトノ應或ハ次ノエツシイシニ應ニ沒收スルナリ檢屍官ハ其身病氣ノ時ハ名代ヲ命シ代理セシムルヲ得且ツ其檢査ハ假令ヒ唯程式上ノ認誤有ルモ之ヲ以テ取消スヲ得ス郡ノ檢屍官ノ選舉及ヒ職務及ヒ給料ニ就テノ律法ハウヰクトリヤ女王二十三年四年ノ決議第一百十篇ニ據テ改正セラレタリウヰクトリヤ女王七年八年ノ決議第九十二篇ノ諸箇條ハ各地方ニ區分セサル諸郡ニモ廣シ及ボス事トナレリ檢屍官ノ選舉ヲ行フコトハ唯一日ノ間ノミナリ千八百六十年十二月三十一日ヨリ檢屍官ニハ四季ノ總會議ニテ治安裁判役ト協議シテ定リタル上ニテ郡ノ課出金ノ内ヨリ俸給ヲ與ラルコト定マレリ其俸給ノ高ハ禮金旅費及ヒ手當料ノ今年ヨリ前五箇年産出ノ平均ヨリハ寡カラサル程ナリ其第五節ニ據テ若シ檢屍官



檢査ヲ爲ス<sup>ト</sup>肯<sup>ン</sup>セサル時ハ裁判役ニ請<sup>フ</sup>テ檢屍官ヲ呼出シ其檢査セサル原由ヲ顯ハサシム可シ檢屍官ノ其職務ニ堪ヘサルカ或ハ不取扱有ル時ハ之ヲ貶黜スルノ權ハ司法長官ニ委スル<sup>ト</sup>其第六節ニ記載セリ

ウキル<sup>レ</sup>ム第四世六年七年ノ決議第八十九篇ニ據テ檢屍官ハ檢査ニ於テ證據ヲ爲ス<sup>ト</sup>醫術ヲ業トスル者ヲ呼出シ屍骸ノ檢視ヲ命スルヲ得可シ且ツ若シ最初ノ檢査未<sup>ク</sup>行届カサリシナラハ陪審官過半ノ同意ナレハ檢屍官ニ請<sup>フ</sup>テ再應醫者ノ證據ヲ求ムルヲ得可シ救貧稅ヨリ拂<sup>ス</sup>可キ<sup>一</sup>ギチ<sup>一</sup>ノ謝金ヲ證人ノ醫ニ拂<sup>フ</sup>可シ若シ屍骸ノ檢視ヲ爲セシ時ハ<sup>二</sup>ギチ<sup>一</sup>ヲ拂<sup>フ</sup>可シ醫業ノ者出席ヲ忘ルノ課息ハ五ポンド<sup>一</sup>ナリ官費病院等ニ於テ檢査スレハ謝金ヲ拂<sup>フ</sup>ニ及ハス  
ウキク<sup>ト</sup>リヤ女王第一年ノ決議第六十八篇ニ據テ證人醫ニ禮金ヲ拂

フハ聖會保長ノ手ヲ經<sup>ス</sup>シテ直<sup>ニ</sup>檢屍官ヨリ渡<sup>ス</sup>可シトス又同書ノ中ニ左ノ簡條有リ證人醫ニ與<sup>フル</sup>ヨリ外ノ費用ニ就テハ四季總會議ニ於ケル治安裁判役カ或ハ檢屍官有ル郡邑ノ評議所ハ檢屍官ニ依テ拂<sup>ハル</sup>可キ禮金手當料及ヒ拂<sup>ヒ</sup>金ノ附札紙ヲ用意ス<sup>ヘ</sup>但シ此札紙ハ時ニ從テ變<sup>スル</sup>ヲ得可シ其寫書一通ハ治安廳ノ書記官ニ納<sup>メ</sup>置キ今一通ハ檢屍官ニ納<sup>メ</sup>置クナリ檢査ノ費用ハ其取扱ノ事濟次第直チニ拂<sup>フ</sup>可シトス檢屍官ノ會計セ<sup>シ</sup>入費ハ會議所或ハ府邑會議所ニ呈<sup>シ</sup>テ各檢査毎ニ餘分六<sup>シ</sup>ルリ<sup>シ</sup>グ<sup>八</sup>ペン<sup>ス</sup>ヲ見<sup>込</sup>ニ郡<sup>ノ</sup>課<sup>出</sup>金<sup>或</sup>ハ郡邑積金<sup>ノ</sup>内ヨリ拂<sup>フ</sup>可シウキク<sup>ト</sup>リヤ女王九年十年ノ決議第三十七篇ニハアイルランドニ於ケル檢屍官ノ職及ヒ檢査ノ費用ヲ定ム<sup>ル</sup>檢屍官ノ廳ハ檢査ノ事ノ爲<sup>メ</sup>ニハ機密<sup>ノ</sup>廳ナレハ裁判ノ事務ヲ爲ス時ハ檢屍官ハ其廳ニ在<sup>ル</sup>見物人或ハ報告人ニシテ證據或ハ知告ヲ爲



スニ非サル者ハ何人ヲ擇ハズ其應ヨリ追拂フヲ得可シ檢屍官ハ其廳ニ於テ何人ヲモ許シ入レ或ハ追拂フコト隨意ナリ又檢査ノ事ヲ新聞紙ニ記載シ評語ヲ加ヘタル者ハ縱令ヒ報告確實ナリトモ誹謗ナリトス檢屍官ハ檢視スル爲メニハ已ニ埋葬セル屍骸ヲ掘出スヲ得可シ然レモ若シ屍骸ノ形狀見ルヲ得可カラサルカ如キ有様ナル時ハ陪審ニ委シテ證言ニ依リ檢査ヲ執行ハシムルナリ檢査ヲ請フ可キ程ノ屍骸ヲ檢屍官ヲ迎ヘスシテ葬埋スルハ罪ス可シ

誤殺ノ咎ヲ以テ檢屍官ノ陪審者ノ決案ニ依テ罪狀セラレタル人ヲ檢屍官ノ保放スルヲ能ハサルヨリ起ル不都合ト其費用トヲ避ル爲メコウヰシトリヤ女王二十二年ノ決議第三十三篇ニ定ル所左ノ如シ檢屍官ノ陪審者何レノ人コテモ誤殺ノ罪狀有リト定メシ時ハ其檢査ヲ爲セル檢屍官或ハ其代理者必ス其人ヲシテ其郡ノ次ノ「エッシー」廳及ヒ

總律拂ヒニ出頭ス可キ十分ノ保證ヲ承諾シテ先ツ其人ヲ釋放スルヲ得可シ其第三節ニ依テ何レノ人コテモ檢屍官ノ陪審者ニ依テ誤殺ノ斷案ヲ定メラレタル者ハ其證書ノ寫ヲ得ント欲スレハ九十語一枚ニ付テ三「ハーフペン」ノ割合ヲ以テ之ヲ得可キナリ

檢屍官ハ顯出セル或ハ隠埋セル財寶ニ就テ檢査ヲ爲スヲ得可シ又郡長ノ懇ヘ方タル時モ或ハ相手方タル時モ呼出シ狀ヲ取行フ可シ且ツ郡長何レノ方ニカ關係アル時ハ檢査官ニ於テ陪審者ヲ呼出ス可キナリ

第三節 治安裁判役ノ事

治安裁判役ノ事

治安裁判役ハ分チテ三種トス其第一種ハ國會ノ決議書ニ依テ命セラレ、者ナリイリイノ教長ヨルグノ教大長タルハムノ教長ノ如キ即チ是レナリ其第二種ハ國歴ヲ以テ女王ヨリ賜リタル免許狀ニ依テ命セ

シレイトシタル



ラル、者ナリ合體ノ都府ニ於ケル府長及ヒ長官ノ如キ即チ是レナリ  
 其第三種ハ委任ニ依テ命セラレ、者ナリ「ロルドヤヤンセロル」ニ於ケ  
 ル如キ即チ是レナリ此裁判役ハ其命ヲ受ケタリト雖モ王ノ書記官ニ  
 リ「デデマス」ノ免狀ヲ得テ其免狀ニ名指セル人ニ通例ノ誓詞ヲ爲シタ  
 ル迄ハ事ヲ行フ能ハス此裁判役中ノ長ナル者數名ヲ定員ト名ツク事  
 務ニ依リテハ此定員殘ラス出席アルニ非サレハ取扱フ能ハサル事  
 有ルナリ

此裁判役ノ權及ヒ務ハ其委任ニ依リ又其裁判上ノ主務ヲ掲載セル諸  
 條例ノ文面ニ從フ平和ヲ監護シ騷擾闘諍ヲ鎮壓シ重罪人及ヒ以下ノ  
 罪犯ヲ囚捕スルヲ委任セラル此裁判役二員ヨリ以上ナレハ重罪及ヒ  
 其他ノ輕罪ヲ審ニ裁決スルヲ得可シ近來國會ノ決議ニ依テ其事務  
 大ニ増加ス聚議ノ事務ニ於ケルト牢屋及ヒ正惡院處置ニ於ケルト無

藉博奕ノ律等ニ背ケル諸般ノ罪過ノ審察ニ於ルト酒肆等ノ免許ニ於  
 ケルトハ増加殊ニ多シ

シオルヨ第二世十八年ノ決議第二十篇ニ治安裁判役タル者各其產業  
 諸雜費ヲ引キテ一年百「ポンド」ノ高ヲ所有スルヲ要ス或ハ三百「ポンド」  
 ニ及フ控ヘ置ケル地租ヲ収ムヘキ即時復得地ナル者ヲ所有スルヲ要  
 ス若シ右ノ如キ身分柄ニ非スシテ此職ヲ勤ムルナレハ一百「ポンド」ノ

過料ヲ出ス可シトス然シナカラ此事ハ統合體裁判役、貴族、樞密議官、裁  
 判役、オンドルセクレタリー、オフ、ステート、各官ノニハ行ハスオキスフオ

ルド及ヒカンブリツシノ兩大學ノ校長或ハ此兩地ノ府長モ亦然リ

現在アットルニ一或ハソリサイトル以上二ノ者ミナノ業ヲ現行スル者

ハ何レノ郡ニ於テモ治安裁判役タルヲ得ス失行アリ或ハ其郡ニ住居  
 セス或ハ必須ノ身分柄ヲ失ヒシ等ハ治安裁判役ヲ免スルノ原由ト爲



ルナリ

治安裁判役ハ其職務ヲ爲スニ理治ヲ以テスル有リ又裁判ヲ以テスル有リ平和ヲ保護シ罪人ヲ訟フルヲ聽キ其事ニ於テ呼出狀或ハ緝捕狀ヲ出シ訴告人及ヒ其證人ヲ審問シ双方ヲシテ其言ヲ盡シ其證ヲ舉ケシメ疑ハレタル罪人ヲ保放シ或ハ之ヲ審問ニ屬スル等ノ如キ是レ理治ヲ以テスルナリ又其罪分明ナル時ハ其斷案ヲ定ムルカ如キハ是レ裁判ヲ以テスル者ナリ其斷案適當ノ書法ニ合ヒ復タ控告ス可キノ冤無キ時ハ是レヲ結局ト爲シ獄訟ヲ以テ爭フヲ得ス若シ治安裁判役不正復毒貪私ノ裁決有レハ其身訟告ニ依テ罰セラル、ノ曲刑ト雖モ其斷案ハ復タ挽回ス可カラストス若シ裁判官ニ對シテ其罪過ヲ訴訟スルノ事有ル時ハ政廳ニテ審問ス可キトハ其處置セシ施爲ノ精細ニ正法ニ合ハサルヤヲ検査スルニ非ス但シ其處置元來不正刻薄貪私ノ意

思(恐怖及ヒ愛寵ハ概シテ其中ニ含有ス)ヨリ來リシヤ或ハ唯謬誤ヨリ來リシヤヲ検査スルニ在リ謬誤ノ事ニ於テハ政廳ヨリハ(パルソウニ)及ヒアルドルソノ稟報卷三第四百三十二章ニ據ルニ(訴告ヲ許ス可カラズ)テルムレポルト(卷一第六百九十二章ニ據ルニ麥酒免許ヲ不當ニ拒斥シ並ニ免許スル)ニ就テ治安裁判役ヲ訴告スル丁ハ許ス可シトス

治安裁判役ハ諸般ノ事ニ於テ己レノ斷決スル罰金ノ爲メニ抵當ヲ取リ置クヘキノ指令書ヲ出スノ權アリ又シオルシ第四世五年ノ決議第十八篇ニ據ルニ十分ノ抵當ヲ得ル能ハスト見ユル時ハ右ノ如キ抵當ヲ取り置クヘキノ指令書ヲ出スト無ク其罪人ヲ牢獄ニ送ルヲ得可シトス

シオルシ第四世一年二年ノ決議第六十三篇ニ郡或ハ郷或ハ縣ノ治安



裁判役ハ己ノ管内ニ在ル某都府城邑或ハ其他ノ郊地ノ如キ自ラ別  
 ニ一管轄地ヲ成シテ殆ント一郡ノ體裁ヲ爲スト雖モ猶ホ己ノ持場  
 内トシテ處置スルコトヲ得可シシアルシ第四世七年八年ノ決議第六十  
 四篇ニ治安裁判役二人ナレハ重罪ノ場合ニ於テ被告方其罪ノ確據有  
 ルニ非サル時ハ預リ人ヲ取リテ之ヲ預ク歸スノ權ヲ許セリ又治安裁  
 判役ヲシテ重罪並ニ輕罪ノ訴訟ニ於テ審問上ノ證據ノ要件ヲ書記シ  
 テ「エッジー」廳ニ稟報セシムルコトヲ要ス

貧民ノ事ニ就テイリサヘス女王四十三年ノ決議第二篇ニ都府ノ治安  
 裁判役ト郡邑ノ治安裁判役ト其管治ノ相同シキ事ニ就テ疑議起リシ  
 カハウキクトリヤ女王十二年三年ノ決議第六十四篇ニ據テ之ヲ辨別  
 シ郡邑ノ治安裁判役二人以上ニ由テ四季總會議ヨリ行フヲ得ル所ノ  
 總テノ權ハ都府ノ治安裁判役二人以上ニ依テ之ヲ其管内ニ行フヲ得

可シト定ム

治安裁判役ヲシテ善ク其事務ヲ行ハシムル爲メニ之ヲ保護スル條例  
 數多有リ治安裁判役ニ見落シ有リトモ前以テ知告無クシテ之ヲ訴フ  
 ルヲ禁シ及ヒ官務上ニ於テ不當ノ所業アリモ其被害者ニ十分ノ贖ヲ  
 出サント言出セル時ハ之ニ係リテ始マリタル總テノ訟ヲ歇止スル等  
 ノ如キ是レナリ然レモ其職務上ノ權勢ヲ恣ニシテ狠毒殘刻ノ處置有  
 ルハ却テ嚴コ罰セラル又故意狠毒ノ傷害ノ爲メニ治安裁判役ヲ相手  
 取リテ訴訟シテ己レヲ直トスルノ斷案ヲ得タル人ハ二倍ノ訟費ヲ  
 モ請取ルヲ得可シトス

千八百五十八年ノ決議ハ給料有ル民政官及ヒ治安裁判役ノ權ニ係ル  
 法則ヲ事柄ニヨリテ改正スウキクトリヤ女王二十一年二年ノ決議第  
 七十三篇ニ都府郡邑或ハ地方ノ給料有ル民政官ノ取締所等ニ出ル者



ハ治安裁判役二人ニテ取扱フ可キ諸事務ヲ總テ一人ニテ處置スルヲ  
 得可シ右ノ權ハ小聚會ニ於テ治安裁判役ノ行フ可キ諸事務ニモ及フ  
 ナリ然レモ四季會議或ハ特會議ニハ然ルヲ得ス又官准免許ニモ然ル  
 ナ得ス又ロンドン<sup>シラント</sup>ノ取締司法官ニモ然ルヲ得ストス其第九節ニ四季  
 會議ノ治安裁判役ハ小事務ヲ審問決斷セシムル爲メニ治安裁判役二  
 人以上ヲ命シテ大廳ヲ建ルヲ得可シト其第十三節ニ給料有ル司法官  
 ハセシレタリ、オ、ステイトノ許可有レハ十二箇月引續タル時間ニ  
 六週日ノ間ハ代理官ヲ命シテ己レニ代テ事ヲ行ハシムルヲ得可シト  
 ス但シ此代理官ハ必ス七年ノ間バリストルエトロウ<sup>シラント</sup>ノ職ヲ勤メタル  
 者タル可シ

ウキントリヤ女王二十六年七年ノ決議第九十七篇ニ都府及ヒ居民二  
 万五千八ノ郡邑等ニハ人口ノ増加シ及ヒ法律上ノ疑難隨テ起ルカ故

ニ其要需ニ充ル爲メニ給料ヲ受ル司法官ヲ命スルヲ許セリ其第三節  
 ニ何レノ地ノ廳官ニテモ其人數ノ三分ノ二ナレハ給料ヲ受ル司法官  
 ナ命シ給料ノ高チ定ムルノ便宜ヲ決シセシレタリ、オ、ステイトノ  
 許可ヲ請フヲ得可シ右ノ如キ給料ヲ受ル者ハ五年ヨリ少ナカラサル  
 間勤メ續キタルバリストルエトロウタル可ク且ツ其職ヲ奉スルノ時  
 間ハ國王ノ隨意タル可シ治安裁判役ハ所有ノ多少ヲ以テ選任ノ要件  
 トセス一員或ハ二員ノ治安裁判役ノ處置ヲ得ル事ハ一員ニテ處置ス  
 ルヲ得可シ然レモ<sup>シラント</sup>牢拂ヒノ裁判ニ於ケル或ハ州稅等ノ如キ諸稅ヲ課  
 スル<sup>シラント</sup>ト於テ出席スルヲ得サルハ其第五節ニ定マレリ其第四節ニ據  
 テ廳官ハ相應ノ取締役所ヲ備フルヲ要ス酒店等ノ室ハ役所ト爲ス可  
 カラス

ウキントリヤ女王二十七年八年ノ決議第六十五篇ニ治安裁判廳ノ書



記官失行有リテ免黜セラル、トニ就キウキルレム及ヒマリ、女王ノ決議書ニ於ケル缺陷ヲ補填セリ其第二節ニ若シ訴訟有リテ公廳ノ審問ノ上ニテ治安裁判廳ノ書記官其行務上ノ失誤ノ外ニ失行アリト治安裁判役二名ニテ之ヲ認ムル時ハ其職ヲ罷メテ免黜スルヲ得可シトス但シ其書記官ハ司法長官ニ上控スルヲ得可シトス

第四節

首都ノ取締廳稽查官ノ事

取締廳裁判役ハ俸給ヲ受ル司法官ニテ「ボウ、ストリート」役所ニ於ケルヲ除クノ外ハ最初千七百九十二年ニ國會ノ決議ニ依テ創造セル者ナリ其人員ハウヰクトリヤ女王二年三年ノ決議第四十七篇ニテ二十七八ノ數ニ限ラレ其人品ハ必スパリストルタル者ヲ要シ内國事務省ノスタレタリ、オフ、ステイトニ依テ命セラレ且ツ其管轄ニ屬スル者トス其職掌ハ裁判ノ事務ニシテ取締廳委任官ノ管轄ニ屬スル捕官ヨリ

コンスタイブル

差シ送レル罪人ヲ審問シテ之ヲ釋放シ或ハ入牢スルヲ司ル取締廳一箇所毎ニ司法官一名ツ、日々朝十時ヨリ午後五時迄必ス出勤スルヲ要ス但シ日曜日耶蘇誕生日「グロッド」デイ又ハ總体ノ精進日或ハ禮拜日及ヒセシレタリ、オフ、ステイトヨリ指圖有リタル時ノ如キハ格別ナリ

首都及ヒ近郊ノ取締廳委任官二名ハ「ジョオル」ジ第四世十年ノ決議第十四篇ニテ造立セシ者ニシテ「ミドル」セキ「サアレイ」ヘルツ「イツ」セキ「スバツ」ニスベル「クス」等ノ諸郡ニ於テ治安裁判役トシテ管治ス可キ權ヲ得タリ然レヒ四季總會議ノ廳ニ於テハ然ルヲ得ス又會議ヨリ起レル總テノ事件ニ於テモ然ルヲ得ス但シ平和ヲ保護シ罪人ヲ搜捕シ且ツ入牢サスルノ事務ニ於テハ格別タリ此委任官ハ所領ノ高キ以テ擢フノ定メニ依テ任セラル、ニ非ス又首都取締ノ持場内ニハ夜番及ヒ



取締ノ全管轄ヲ持ツナリ此持場ハチャリングクロツスヨリ差渡シ十  
五マイルヨリ多ク距ラサル中央刑部廳ノ管内何ソノ教會地或ハ場所  
ニモ及フ可キナリ

ウヰットリヤ女王十九年二十年ノ決議第二篇ニ據テ首都ノ取締委任  
官ト稱ス可キ者二人ヲ以テセステ唯一人ト爲シ補佐ノ委任官二人  
ヲ命ス可シトス但シジョオルシ第四世十年ノ決議ニ定メタル人品ノ擇  
及ヒ權ヲ持ツコナリ總裁委任官ノ俸給ハ千五百ポンドヲ過ク可カ  
ラス補佐委任官ノ俸給ハ每員八百ポンドヲ過ク可カラズ委任長官空  
位ナルカ或ハ不快ノ時ハ補佐委任官一人ヲ取扱フナリ  
ロンドン府ノ爲メニ事ヲ取扱フ可キ取締ノ委任官ハ千八百三十九年  
ニ創造セラレタリ此府元來ハジョオルシ第四世十年ノ決議第四十四篇  
管治外ニ有リシ者ナリキ此委任官ハ衆會議員之ヲ選擇シテ國王ノ許  
コンモンカウシル

可ヲ請ヘルナリ且ツ此綜合體ノ願ヒニ於テハ此都府内治安裁判役ヲ  
ルヲ得可シ

次ニ擧クル條々ハ市中取締決議ノ重モ立タル規則ニテ委任官及ヒ捕  
官之ヲ執行ス可キ權ヲ受ケ此都持場内ノ住民ハ必ス之ヲ遵奉ス可キ  
ヲ要ス

免許ヲ受タル割烹店或ハ其他ノ人モ日曜日耶蘇誕生日或ハグーゾフ  
リデイニ於テ午後一時前ニ葡萄酒燒酒麥酒又ハ其他ノ醱釀或ハ蒸餾  
セル飲料ヲ賣ル爲メニ其家ヲ開ク可カラズ但シ族人ノ休息ノ爲メニ  
於ケルハ格別ナリ且ツ又何人ニテモ免許ヲ得テ酒類ヲ商フ者ハ蒸餾  
セル酒類ヲ以テ十六歳以下ノ子供或ハ以下ト見ユル者ニ與ヘテ其家  
屋ノ内ニ於テ飲セシム可カラズ

五六  
麥酒店咖啡店酒商仲間等ノ如キ衆庶共來ノ家ハ亂雜ノ行爲ヲ禁シ或  
ライフホムトキル



ハ匪人ノ之ニ立入ルヲ防ク爲メニ規則ヲ定メ置クニ衆庶會同ノ家  
屋ニ於ケルカ如クタル可シ免許ヲ受ケスシテ鐵塙及ヒ禽獸ヲ闘ハシ  
ムルノ場處等ヲ設クルヲハ堅ク禁ス可キナリ博奕ノ宿ヲ爲ス由ノ  
風説有ル家ニハ取締役押入ル事ヲ得可シ其家ノ主人及ヒ其家ニ居合  
セズル者言譯不分明ナル時ハ監押セラレ及ヒ罰セラル可シ賃屋ハ十  
六歳以下ト見ユル子供ヨリ賃物ヲ取リ或ハ物品ヲ買フヲ禁制ナリ  
家畜ヲ驅リ車輿ヲ馳ズル人ハ取締委任官ヨリ出セル神拜時間ノ馳驅  
規定ノ命令ヲ守ル可シ

道路ニ於テ他人ノ障害トナルコトハ總テ禁制ナリ道路ニ家畜ヲ出シ置  
テ賣リ或ハ牛羊ヲ喂飼シ又ハ車馬ヲ馳習スル等ノ如キ或ハ物具ヲ製  
造修復スル等ノ如キ(但シ已ムヲ得サルノ場合ハ格別ナリ)或ハ猛犬ヲ  
口笠無クシテ放シ置ク等ノ如キ或ハ家畜ヲ追回シ又ハ心ヲ用ヒスシ

テ之ヲ驅リ行ク等ノ如キ或ハ車馬等ヲ以テ行人ノ妨碍ヲ爲ス等ノ如  
キ或ハ歩行路ノ上ニ桶樽車輪等ヲ轉シ行キ又ハ觀セ物等ヲ荷ヒ行ク  
等ノ如キ或ハ引札ヲ張り置キ其外家屋ヲ見苦シク爲シ或ハ猥褻ノ書  
籍ヲ賣リ又ハ曝ス等ノ如キ是レナリ  
道路ニ音曲ヲ賣ル者人ノ家屋ノ邊ニ立ツ時其家ノ人命シテ其處ヲ去  
ル可シト云フ時ハ速ニ退キ去ル可シ

テイムス河中ウエストミンストルトブラツクウオールノ間ニ在ル船  
ニハ船主玉込セル大砲ヲ船中ニ置クヲ禁ス又日没ヨリ日出迄ノ間ハ  
砲發ヲ禁ス又船中ニテ燃質ノ物ヲ燧ムルヲハ自身ニ爲スモ人ニ許シ  
テ爲サシムルモ禁制ナリ

市ニ於テ酒食ノ小店或ハ家屋等ハ夜十一時ノ後ニ開キ置ク可カラズ  
又朝六時前ニ開ク可カラズ



醉人街衢ニテモ屯所ニテモ聞擾或ハ失禮ノ行ヲ爲ス者ハ過料或ハ七日ノ入牢ヲ以テ罰ス可シ  
ステーションハリス  
 其持主ノ承知無シテ車ヲ馳セ或ハ乗ル者ハ罰ス可シ例ヘハ馬車ノ背後ニ乗ル者ノ如キ即チ是レナリ又惡臭有ル物ヲ以テ他人ノ害ヲ爲ス者モ亦罰ス可シ汚穢塵芥或ハ障礙ノ物ヲ戶外ニ投棄ルカ如キ或ハ毛氈等ヲ振ヒ打ツカ如キ但シ朝八時前ニ門簾ヲ振ヒ打ツハ格別ナリ或ハ朝六時ヨリ夜十二時ノ間ニ涵水ヲ汲出スカ如キ或ハ承許無キニ遊苑或ハ公園ニ於テ賣物ヲ曝シ置シカ如キ或ハ歩行路馬車路ニ張出シ等ヲ爲シテ往來ノ妨ヲ爲スカ如キ或ハ穴藏ヲ開キ置シカ如キ皆罰ス可キ者ナリ  
 娼妓或ハ其他夜中徘徊シテ行人或ハ居民ノ苦惱ト爲ル者或ハ悖言脅語ヲ以テ人ヲ挑撥シ平和ヲ破ル者或ハ嗽叭又他ノ騒カシキ樂器ヲ鳴

ラス者砲ヲ發シ石ヲ投ケ祝祭ヲ燃シ土石ヲ滾落スル者或ハ紙燄ヲ揚ケ又ハ他ノ遊戯ヲ爲シテ居民或ハ行人ヲ苦惱セシムル者縁故無ク門鈴ヲ鳴ラシ又ハ門扉ヲ敲キ又ハ燈ヲ滅ス者右等ハ皆過料或ハ入牢ヲ以テ罰ス可キ罪ナリ  
 取締役ニ委任セラレタル權ノ重モナル者ハ左ノ如シ  
 取締役ハテイムスノ河上ヲ管轄シテ何時ニテモ船中ノ人ノ行爲ヲ觀察ス又街衢ノ障害ヲ防ク爲メニ委任官ヨリ出セル総テノ規則ヲ施行ス又犬其他ノ獸類等病狂ノ有様ニ見ハ殺スヲ得可シ又罪過ヲ犯シタリト見エタル者并ニ禮儀ヲ破ル者或ハ重罪輕罪又ハ平和ヲ破ル罪等ヲ犯シ或ハ犯サント見エタル者ハ何人ヲ擇マス緝捕狀ヲ待タスシテ直チニ之ヲ捕フルヲ得可シ又道路ニ臥シ或ハ徘徊シテ之ニ問糺スニ其答不分明ナル者ニ於ケルモ亦然ルヲ得可シ



又取締役ハ襲撃ノ罪或ハ重罪又ハ輕罪ノ罪ヲ以テ訴ヘラレタル者ヲ  
 ハ緝捕狀ヲ待タスシテ捕フルヲ得可シ假令ヒ此罪ヲ取締役ノ見ル前  
 ニテ行ヒシニ非スト雖モ然ルナリ  
 取締役ハ盜ミタル物ノ藏シ有リト疑ハレタル舟車等ヲハ引留メテ探  
 索スルヲ得可シ并ニ何品ニテモ不正ニ運ヒ行クト疑レタル人ニモ亦  
 同様ナリ  
 取締役ハ夕八時ヨリ朝六時迄ノ間ニ家財ヲ運送スル車ヲハ引留メテ  
 相應ノ検査濟ム迄ハ留置ヲ得可シ或ハ家賃ノ拂方ヲ免カレンカ爲メ  
 ニ右ノ如キ運送ヲ爲シテ困窮ノ體ヲ裝ハントスルト明白ナレハ時刻  
 ニ拘ハラス然ルナリ  
 取締役ハ屯所迄ハ何人ヲモ緝捕狀ヲ待タスシテ捕ヘ來ルヲ得可シ屯  
 所ニテハ監督其人ヲ屹度司法官ノ前ニ出ス可キ爲メニ之カ預リ人ヲ

取ルノ權有ルナリ

取締役ノ其職務ヲ行ハントスルニ抗シ或ハ人ニ之ヲ勸ムル者ハ五  
 ンドノ罰金或ハ一箇月ノ入牢ヲ命スルヲ司法官ノ隨意タル可シ

取締廳ノ數ハロンドン府中ニ二箇所有ルヲ除キテグリノウサチ及  
 ヒソンドスウオルスノ取締廳ト共ニ十一箇所ナリウサクトリヤ女王

三年四年ノ決議第八十四篇ニ女王ハ評議ノ上ニテ新クノ取締廳或ハ  
 持場ヲ取建ルヲ得可シ且ツ取締司法官ハ首都取締持場ノ管内ニハ何  
 レノ處ニ於テモ法ヲ行フヲ得可シトス尺度量衡ノ事ニ就テハ取扱所  
 ノ陪審或ハ他ノ廳ニ服セサル者ハ取締司法官ニ上控スルヲ得可シ又  
 民兵投票スル事ニ就テ職務ハ捕官ニ依テナサル可キナリ  
 住ミ人ノ明ケ去リ或ハ地租ノ拂ヒ殘リ有テ借地人ノ持タル家屋ヲ地  
 主ニ渡スノモ二員ノ稽查官ノ出席ヲ待タスシテ捕官之ヲ爲シ得可シ



ト云フ

ウヰシトリヤ女王二十三年四年ノ決議第百三十五篇ニイングラド  
 及ヒウエールス及ヒ其レヨリ十五マイル以内ノ何處ニ於テモ女王ノ  
 造船場及ヒ武庫或ハ軍務局ノ重モナル屯所ニハヒクレンダリトオフス  
 テイトノ命スル數丈クノ取締役ヲ用ユルノ箇條ヲ備フ斯ク用ヒラレ  
 タル捕官ハ首都委任官ニ依テ増加ノ捕官ヲ命シテ代ラシム委任官ハ  
 其誓詞ヲ爲サシメ且ツ造船場及ヒ軍兵屯所ニ於テ用ヒラレタル捕官  
 ノ爲メニ特殊ノ規則ヲ造ル可キナリ捕官及ヒ補佐委任官ハ首都ノ取  
 締役ニ就テノ決議ヲ施行スルコトニ於ケルト同シ做法ニ於テ處置ス可  
 キコト其第三節ニ備ハレリ此決議書ニテ捕官ノ爲メニ掛リタル入費ハ  
 國會ヨリ備ヘタル金ヲ以テ償フ者トス捕官等ノ者ハ國會選舉ニ投言  
 スルコトハ得サルナリ

第五節 捕官ノ事

此官ハ甚タ舊キ平和守護ノ役ニシテ扱所又ハ教會地ノ人或ハ司法官  
 ニ依テ選舉セラレ稽査官ニ誓詞スル者ナリ其種類三有リ即チ長捕官

小捕官及ヒ特捕官是ナリ

ハイコンスティブ

長捕官ノ職ハ特ニ都府或ハ教會地ノニ限ルニ非ス其命セラレタル

「ホンドレット」百人聚合スル村落ノ名ニモ及フナリ小捕官ノ管轄ハ概シテ其選用セ

ラレタル教會地或ハ郡邑或ハリペルナイ特別ノ地ニ及ヒ必ス其地ニ住

居スルヲ要ス然レモ司法官ノ緝捕狀ヲ出シ或ハ裏書セシ者ノ管內ニ

ハ何處迄モ其緝捕狀ヲ行フヲ得可シ特捕官ノ職掌ハ小捕官ノ管轄ト

大抵相同シ唯別段ノ事件アル時小捕官ヲ補佐スル爲メニ命セラレ

ナリ

此職ニ任スルヲ得サル者第一ニ老衰シテ其任ニ堪ヘ難キ者又ウエス



トミンストルニ於テハ六十三年以上ノ者ハ斷然此職ヲ務ムルヲ許サ  
 ス第二ニロンドンノ副府長第三ニ製藥師ロンドンヨリ七里以内ニテ  
 會社ニ入ラス其業ヲ爲ス者或ハ鄉村ニ於テ七年ノ間其業ヲ勤メタル  
 者第四シイニスヘンチ及ヒコンモンプリースノ應ノ狀師第五ニ其業  
 ハリストルタル者第六ニ別派ノ教法ニ從フ者若シ教師或ハ說教師  
 レハ此職ヲ務ムルヲ得ス然ラサレハ則チ之ヲ得ルナリ第七ニ英人ト  
 爲リタル外國人第八ニ民兵中ニ使役スルセルシエント及ヒ平軍卒第  
 九ニ重罪人ノ訴告者及ヒ證書ノ第一被命者第十ニ社中ニ入ラサル外  
 科醫第十一ニロンドンノ學校ノ頭取或ハ仲間タル醫者ナリ然シナカ  
 ラ他所ノ學校等ニ於ケル者ハ此例ニ在ラス  
 捕官ノ職ハ名代ニテ勤ムルヲ得ルカ故ニ衛兵ノ士官モ又港税ノ官員  
 モ又トリニナ<sup>一</sup>ハウス<sup>二</sup>ロンドンニ在ル航海交易ノ子弟モ又婦女子モ皆其

額外ニハ非スト<sup>一</sup>ハウス<sup>二</sup>第十章第三十七節ニ見エタリ然レモ若シ身  
 分柄ノ良民或ハ醫師官員等ノ者捕官ニ選舉セラル、ニ他ニ之ニ充ツ  
 可キ人有リ且ツ其レニ就テ別段ノ習俗無キ時ハ斯ノ如キ者捕官ノ役  
 チ免カル可シト云フ又女王ノ命ナレハ此役ヲ免カル、ヲ得可シ但シ  
 此職ヲ勤ム可キ人員ニ不足無キ時ノミ然ルヲ得ルナリト<sup>一</sup>テムル<sup>二</sup>シポ  
 ルト<sup>三</sup>卷一第六百八十六章ニ見エタリ  
 捕官ハ病氣他出等ニ依テ自身ニ其職ヲ行フ能ハサル時ハ名代ヲ命シ  
 テ之ヲ行ハシムルヲ得可シ若シ名代人相當ノ誓詞ヲ爲セシニ非サレ  
 ハ本人タル者猶ホ其費ニ任ス可シトス別派ノ教法ニ從フ者及ヒ羅馬  
 教ニ從フ者ハ名代人ニテ捕官ノ役ヲ得可シ

第六節 捕官職掌ノ事

凡ソ捕官ノ職掌ハ律法ヲ破ルチ欺メ罪人ヲ捕ヘ其地ノ平和ヲ守護シ



時ニ因リ收税官ニ同伴シ又ハ檢屍官及ヒ治安裁判役ノ緝捕狀ヲ執行  
 ナルニ在リ其職務ヲ當然ニ行フニ於テハ傍觀ノ人或ハ近隣ノ人ハ之  
 ヲ援助ス可キノ義務アルニ若シ之ヲ拒メハ過料及ヒ囚禁ノ罰アリ  
 若シ人闘諍シ或ハ闘諍ニ及ハントスル時ハ捕官之ヲ捕ヘテ治安裁判  
 役ニ送り或ハ自身ノ權ヲ以テ其怒氣ノ靜マル迄之ヲ囚禁シ而ル後其  
 行爲ヲ改ム可キ確實ノ憑據ヲ見ル迄抑留スルヲ得可シ  
 若シ家内ニ於テ闘諍スル者有ル時ハ捕官平和ヲ守護スルカ爲メニ門  
 戸ヲ打破リテ入ルヲ得可シ然シナカラ捕官ノ目前ニ非スシテ行ヒタ  
 ル闘争或ハ襲撃ニ就テハ司法官ヨリノ緝捕狀無ク捕フルヲ得ス但シ  
 重罪ノ事ニ於ケルカ或ハ捕官タル者首都取締役ニ屬スル時ハ格別ナ  
 リトス

捕官ハ重罪ノ訴告有リテ其理アリト見ユル時ハ緝捕狀無クトモ囚禁

スルノ權有リ縱令ヒ其後司法官ニ送ラヌシテ此囚人ヲ釋放シ且ツ重  
 罪ノ行爲無カリシト爲ルトモ一旦捕囚スルヲ得ルナリ然レモ通例  
 ハ明白ノ訴告或ハ緝捕狀無ク犯罪ノ疑ヒヲ以テ不審ナル罪人ヲ捕フ  
 ルノ權ナシ但シ現ニ重罪ヲ行ヒシカ又ハ其疑ヒニ確據有ル時ハ格別  
 ナリトス

緝捕狀ヲ執行フニ其人ヲ留メ置クコトニ依テ緝捕ヲ爲ス此事無ケレハ  
 法通リノ緝捕ニ非ス

捕官ハ己レカ持場ノ内ニテ人ニ知ラレ且ツ誓詞ヲ爲セル官員ナルカ  
 故ニ緝捕狀ヲ見セヨト請ハル、トモ之ヲ出サスシテ可ナリ然レモ若  
 シ誓詞ヲ爲サル者カ或ハ其持場ノ外ナル時ハ其緝捕狀ヲ出サ、ル  
 ヲ得スサレトモ、ザストレツス品物取上ノ緝捕狀ハ其品物ヲ取上ラル可キ人ニ請ハ  
 ル、時ハ見セサルヲ得ス執行終リタル後其緝捕狀ヲ返スコ及ハス留



メ置キテ己レカ後證ト爲スナリ  
 誰人ニテモ人家ニ入ルニ其持主ニ其來リシ所以ヲ云ヒ承許ヲ請フ  
 無ク獲リコ門戸ヲ破リ入ルハ不法ナリトス其告知ハ別段ノ定法ヲ要  
 セス當然ノ役目ヲ以テ來レル役人ナリ決シテ犯入スル者ニ非スト斷  
 リ云ヘハ即チ足レリ  
 夜中時ナラザル時分ニ人家ニ於テ(殊ニ旅店、割烹店、酒店、咖啡店ニ於テ)  
 酒狂或ハ物音騒カシキアレハ捕官一應入込度由ヲ請ヒ之ヲ拒ム時  
 ハ其所爲ヲ見ル爲メニ門戸ヲ破リ入りテ騒動ヲ鎮ムルヲ得可シ然シ  
 ナガラ叛罪モ舉ケス重罪モ舉ケス平和ノ破毀モ舉ケサル泛然タル緝  
 捕狀ニ於テハ官員之ヲ執行フ爲メニ門戸ヲ破リテ入ルヲ得ス又救貧  
 稅或ハ寺稅ノ爲メニ財物ヲ取上ントテ強テ人家ニ入ルヲ得ス或ハ民  
 間公事ノ手續ヲ執行フ爲メニ於ルモ亦然リ然レモ若シ表ノ戸開キ有  
 レバ

ルカ或ハ開キクシタル時ハ入りテ其内ニ強ヒテ入ルモ可ナリ此特權  
 ハ嚴ニ表ノ戸ニ限レリ故ニ役人若シ搜捕ス可キ人ノ住居スル家ニ入  
 ルヲ許サレシ時ニハ其手續ヲ執行フ爲メニ何レノ室ニモ破リ入ルヲ  
 得可シ但シ全家ヲ以テ寓居ノ人々ニ貸シ有ル時ハ然ルヲ得ス各箇ノ  
 室ヲ以テ別々ノ住居ト見做ス可キナリ  
 若シ役人ヲ治安裁判役歟又ハ囚獄ニ送ルニ不都合有ル時ハ一時之ニ  
 桎梏ヲ加フルモ可ナリ  
 姦淫、密通、賣淫ニテ捕ヘラレタル人ハ其正シキ所業ヲ爲ス可キ確據ヲ  
 見ル爲メニ治安裁判役ニ送ル可シトス  
 捕官ハ治安裁判役ノ命ヲ以テ地主ヲ助ケテ賃租ノ爲メニ財物取上ケ  
 夫爲ス且ツ右ノ地主ニ伴ヒテ取上ケテ避ケント藏クシ置ケルノ疑  
 ヒ有ル品物ヲ搜索スル爲メニ家屋等ニ破リ入ルヲ得可シ



罰 ベナレチ シオルジ三世三十三年ノ決議第五十五篇ニ據ルニ捕官若シ其職務ヲ怠リ或ハ法通りノ緝捕狀或ハ命令ニ背クコトニ就テ治安裁判役兩名ノ前ニ誓詞ヲ以テ訟ヘラシ其罪顯然タル時ハ四十「シルリノグ」ノ過料ヲ出ス可シ收稅官ヨリ捕官ノ出張ヲ要スル時ハ其告知有ルニ之ト共ニ行カサル時ハ二十「ポンド」ノ罪ニ屬ストシオルジ第四世七年八年ノ決議第五十三篇ニ定マレリ又禁制ノ蒸餾ヲ歇ムルノ法律ヲ執行ハントスル處ニ己レ目撃シ或ハ其知告ヲ受ケナカラ之ヲ助ケサル時ハ右ニ同シキ罰アリトシオルジ第四世六年ノ決議第八十篇ニ定マレリ又シオルジ第四世五年ノ決議第八十三篇ニ據ルニ無籍人決議ニ定メタル其職務ヲ怠ル時ハ五「ポンド」ノ罰ヲ受ク可シトス重罪ヲ以テ告ラシタル人ヲ捕ヘ或ハ留メ置クヲ妨ケントテ捕官ヲ襲撃スルハ七年ノ流刑ニ屬ストシオルジ第四世一年二年ノ決議第八十八篇ニ定マレトシオルジ第三世

リ捕官其職務ノ不取扱有リトモ其事濟テ六箇月ノ後ニハ誰人ニテモ之ヲ相手取リテ訴訟ヲ爲スヲ得ス  
 夜中番人ノ番所ニ運來リシ咎人ヲ縱テ歸スハ捕官ニ於テ輕罪トス若シ捕官意有テ重罪人ヲ逃ス時ハ之ヲ重罪トス  
 ウキクトリヤ女王五年ノ決議第百九篇ヲ同王七年ノ決議ニテ改正セラレタル者ハ教會地捕官ノ持場ヲ定メ及ヒ捕官ヲ選舉拜任スルコトニ於テ稽查官及ヒ監督ノ職務ヲ定メヨリ

第七節 特命及ヒ州郡及ヒ鄉村ノ捕官職ノ事

ウキルレム第四世一年二年ノ決議第四十一篇ハ二名以上ノ治安裁判役ニ重罪又ハ騷擾ノ場合ニ於テ或ハ斯ノ如キ者ヲ緝捕スルコトニ於テ平和ヲ保守シ及ヒ人身又ハ品物ヲ監護スル爲メニ家主等數人ニ命ジテ特命ノ捕官トシテ勤メシムルノ權ヲ許セリ律法ニ依テ免除セル人



モセシレタリ「オフステイト」ヨリノ命ニ依テ二箇月ノ間勤役ス可キ  
 爲メニ治安裁判役ニ依テ誓詞セシメラル可シ此セクレタリー「ハロー  
 ド」リウヲナントニ命シテ全國中或ハ「ホンドル」或ハ「ヂブヒンシヨ」  
 或ハ教會地ノ中ニ殊特ノ捕官ヲ誓詞セシムルヲ得可シ誰ニテモ格外  
 ノ免除ヲ許サス治安裁判役ハ此職ニ更ニ權勢ヲ附スル爲メニ規則ヲ  
 造ルヲ得可シ殊特捕官ノ職務權勢責任ハ之ヲ命セシ治安裁判役ノ全  
 管轄内ニ行ハル且ツ事變アル時ニ於テハ近傍ノ州郡ニモ及フナリ官  
 ニ就クニ辭シ或ハ誓詞ヲ拒ミ或ハ其職務ヲ一段能ク勤ム可キ相當ノ  
 命令ニ背ク等ハ皆五「ポンド」ニ過サル罰金ニ屬ス官ヨリ給セシ杖其他  
 ノ品物等ヲ役目滿期ノ日ヨリ一週日ノ後ニ返シ渡スコトヲ拒ミ或ハ怠  
 ル時ハ四十「シリング」ニ過サル過料ニ屬ス  
 此決議書ノ箇條ハウキントリヤ女王二年三年ノ決議第九十三篇ニ據

テ實ニ廣ク爲シリ是レハ何レノ州郡ノ治安裁判役モ四季會議ニ依テ  
 住民ノ守護及ヒ所有ノ保全ノ爲メニ州郡郷地ノ捕官ヲ取設クルコトヲ  
 セクレタリー「オフステイト」ニ願ヒ出ツ可キ權ヲ許ス者ナリ但シ捕官  
 ノ人員ハ住民毎千人ニ捕官一人ノ割合ニ過キサレハ宜シトス此郷村  
 ノ取締役ノ給料衣服調度等ノ規則ハセクレタリー「オフステイト」之ヲ  
 作り其取締キ行ク費用ハ州税ヨリ償フ各州郡ニ一人或ハ其餘ノ長捕  
 官ハ國內事務ノセクレタリーノ許可ヲ經テ治安裁判役ヨリ命ス可シ  
 二名以上ノ治安裁判役ニ屬セル長捕官ハ監督及ヒ小捕官ヲ命ス可シ  
 トス捕官ハ暇ヲ取ラス或ハ一箇月前ノ告知ヲ爲サスニテ退役スルヲ  
 得ス通例首都取締役ト同一ノ規則ニ屬スルナリ  
 ウキントリヤ女王三年四年ノ決議第八十八篇ニテ四季會議ノ司法官  
 ハ州郡郷地ノ捕官ノ規則及ヒ取締稅取立ノ爲メニ法例ヲ作ルヲ得可



ウヰクトリヤ女王二十年ノ決議第二篇ニテ治安裁判役ニ人ヲ捕官ノ長ト命スルノ權ヲ與フ假令ヒ其者ハ隣近ノ州郡ニ於テ右同様ノ命ヲ承ク可キ者ト雖モ嫌ナシ

第八節 州郡及ヒ郡邑ノ取締役ノ事

前章ニ引ケルウヰクトリヤ女王二年三年ノ決議ト三年四年ノ決議トハウヰクトリヤ女王十九年二十年ノ決議第六十九篇ニテ州郡及ヒ郡邑ノ取締役ヲ進善スルカ爲メニ更ニ全備ト爲レリ其第一節ニ未ダ全州郡中ニ捕官職ヲ取設ケサル各州郡ニ於テハ千八百五十六年十二月一日後ノ四季總會議ニ於ケル治安裁判役ハ全州郡中ノ爲メニ完全ノ取締役ヲ取設ケルノ手續ヲ爲ス可シ或ハ州郡ノ一部分ニ捕官職ノ取設ケ有ル所ニハ此時其餘ノ所ニモ取設ケ且ツ捕官ノ必要ナル人數及

ヒ給料ノ割合ヲ布告シ而シテ其事ヲセシメタリ一オフステイトニ稟告シセシメタリ一ヨリウヰクトリヤ女王二年三年ト三年四年トノ決議ニテ定メラレタル如キ規則ヲ受取リテ然ル後此決議ハ新決議ノ改正ト共ニ行ハレ全州郡中ニ取用ニ可キ者トス是事ハ千八百五十六年十二月一日ヨリ前ニセシメタリ一オフステイトニ稟告セル州郡ニハ取用ニ可キニ非ラス

其第三節ハ州郡中ノ部分既ニ捕官職ノ取設ケ有ル所ニハ右キ一箇總體ノ取締組ニ固定シ此州郡中ノ捕官總督ヲ命ス可シトス取締稅ヲ出ス可キ人ヨリ願ヒ出レハ州郡會議衆ヨリノ命令ニ依テ捕官ノ人數ヲ定メ別ニ取締持場ヲ取設ケルヲ得可シ其費用ハ其地方ヨリ償フナリ其第三章及ヒ第四章ニ定マレリ

郡邑ノ會議衆ヨリセシメタリ一オフステイトニウヰクトリヤ女王三



年四年ノ決議ニ定メラシタル法ニ依テ郡邑及ヒ州郡ノ取締役ヲ取定  
 メンコトテ近傍ノ州郡ニ請ヒタリシト及ヒ右ノ取定メノ行ハレサリシ  
 コト届ケ出ルニ於テハ其取定メヲ行フ可キ約束及ヒ期日ヲ定ムル命  
 令ヲ出スヲ得可シ

其第六節ニ州郡ノ捕官ノ郡邑ニ於テ行フ可キ權及ヒ務ハ郡邑ノ捕官  
 ノ州郡ニ於ケルト同様ナリ捕官ハ會議ノ治安裁判役或ハ番兵委任官  
 ノ指揮ニ從テ取締ト一致シテ職務ヲ爲ス可シ捕官其職務ヲ爲シタル  
 カ爲メニ禮金ヲ受ケテ自ラ用ユルヲ得ヌウケルレム第四世五年六年  
 ノ都府會社決議第七十六篇ニテ命セラレタル郡邑捕官ハ其郡邑ニ於  
 テ國會ノ選舉ニ投言スルコト或ハ都府ノ官職ニ何レノ人ヲ選舉スルニ  
 モ投言スルコトヲ得ス之ニ背ケハ其罰金ハ十[ポンド]ナリ且ツ國會選舉  
 ニテモ都府選舉ニテモ選舉者ノ投言ニ勢力ヲ借サント欲スルコト有ル

時ハ又同様ノ罰金ニ屬スルコト其第九節ニ定マレリ衰病等ノ捕官及ヒ  
 州郡取締役ニ依テ廢止セル官員ニハ賜物ヲ與フルナリ

州郡及ヒ郡邑ノ中ノ犯罪ハ治安裁判役或ハ番兵委任官ヨリセラレタ  
 リ、オフ、ステイトニ毎年ノ書上ケテ爲ス可シ國王ノ花押有ル手書ヲ  
 以テ三名ノ檢査ヲ命シ取締役ノ情態及ヒ功績ヲ檢査シ且ツ其由ヲ命  
 セラレタル決議書ノ箇條ヲ能ク遵守スルヤ否ヲ檢査セシム可シト其  
 第十四章第十五節ニ見エタリ何レノ州郡或ハ郡邑ニ於テモ既ニ全備  
 ノ取締役ヲ取建有リトセラレタリ、オフ、ステイトノ證書有レハ取  
 締役ノ給料及ヒ衣服ノ入用ノ四分一ヲハ庫部ヨリ拂フ可シトス然シ  
 ナカラ人口五千八ニ過キスシテ州郡取締役ト結合セラレサル者ニハ  
 拂ハサルナリ

州及ヒ郡邑ノ取締役ニ就テノ是等ノ決議ハウキントリヤ女王二十二



年三年ノ決議第三十二篇ニ據テ改正シ會議ニ於ケル治安裁判役ニ  
 ヲ或ハ更ニ多クノ取締持場ヲ從前ノ界ノマ、ニテモ或ハ變換シテモ  
 又ハ取締ノ爲メニ何レノ持場ニテモ他ノ所ト結合スルノ權ヲ與ヘタ  
 リ州郡ノ捕官ハ別ノ取締役ノ設ケ無キ郡邑ニ事ヲ行フヲ要セス但シ  
 郡ノ治安裁判役或ハ捕官總裁ノ緝捕狀ヲ執行フニ於テハ格別トス又  
 郡邑ノ捕官ハ己レカ郡邑ノ外ニ事ヲ行フヲ要セス但シ郡邑ノ治安裁  
 判役ノ緝捕狀ヲ執行ヒ或ハ別段ノ變事ニテ番兵委任官ヨリ指揮ヲ受  
 ケタル時ニハ格別トス郡ノ捕官ハ都府ノ官員選舉ニ投言ス可カラズ  
 又投言者ニ干涉ヲ爲ス可カラズ之ニ背ケハ十「ポンド」ノ罰金ニ屬ス其  
 第六節ニ番人稅ハ其郡邑ノ會議衆ノ量見次第ノ分量ヲ收メシム可シ  
 但シ一年ニ一「ポンド」ノ入高ノ上ニ八「ペンス」ヲ過ク可カラス此餘ノ諸  
 節ハ大抵老衰歳俸功績ノ褒美及ヒ勤役中ニ死セシ捕官ノ寡婦ヘノ賜

物ノ事ヲ言ヘリ

郡邑ノ捕官ノ爲メニ老衰歳俸ノ積金有ルヲニ就テ千八百五十九年ノ  
 取締役決議書ニ在ルノ捕官或ハ其寡婦ニ就テノ箇條中ニ長捕官ヲモ  
 含ム可キヤ否ノ疑ヲ避ル爲メニウヰキトリヤ女王二十八年ノ決議第  
 三十五篇ニ據テ之ヲ含ム者ト定メタレハ右ノ疑ヒハ除キタリ

第九節 夜廻役ノ事

夜廻役ハ夜中街衢ヲ徘徊スル人現ニ重罪ヲ犯シタル證據ハ無クトモ  
 之ヲ疑フ可キ理有レハ檢査ノ爲メ捕ヘテ牢獄ニ留ム可キノ權アリト  
 「タウンント」著三卷第十四面ニ見エタリ然レモ「ドワード」第三世五年ノ  
 決議第十四篇ハ此說ノ少シク據ル所ト見エタル者ナルカ是レハウヰ  
 クトリヤ女王十九年二十年ノ決議第六十四篇ニ據テ廢止セル諸決議  
 ノ中ニ在リ且ツ其首都ノ限界ノ内ノ箇條ハ其以後ノ取締役ニ就テノ



布令ニ依テ更ニ明細廣大ト爲レルコト次章ヲ見テ知ル可シ  
 首都取締役ニ屬スル人ハ其職務中ハ遊惰亂行ノ人ノ世間ノ平和ヲ妨  
 シルト見エ或ハ惡事ヲ企ツルヤノ疑ヒ有ル者ヲハ總テ捕ラレテ得可  
 シ又日没ヨリ午前八時ノ間ニ大道或ハ門庭等ニ臥シ居ル者或ハ徘徊  
 シ居リテ之ヲ糾スニ其答ヘ不分明ナル者ヲハ捕ラレテ得可シ  
 若シ夜廻人コテモ又ハ捕官ニテモ其職務ヲ行フ時ニ當ツテ殺サレタ  
 ル時ハ殺シタル者ハ人殺シノ罪ナリ

第四章 救會地ノ役人及ヒ救貧法ノ條

第一節 救貧法ノ官長及ヒ委任官ノ事

千八百三十四年ニ於テウヰル<sup>ウヰル</sup>第四世四年五年ノ決議第七十六篇  
 ニ依テイングランド及ヒウヰル<sup>ウヰル</sup>スノ貧民救助ノ事現存ノ法律ニ隨  
 テ王ヨリ命シ俸給ヲ與ヘ且ツ王命ニテ免官ス可キ三名ノ委任官ノ管

轄命令ヲ受ルコト定マレリ此委任官ハ貧民貧兒ノ處置職場ノ管治保  
 護人<sup>ガレ</sup>救會地會議衆<sup>フエストリイ</sup>及ヒ役人ノ取扱方等ニ就テノ規則ヲ作り又出納ノ  
 會計ヲ預リ検査シ總計シ許可シ又約定ヲ爲シ其外貧民ノ救助及ヒ費  
 用等ニ就テ萬事ヲ管理スルノ權ヲ有ス然シテナガラ救助ヲ命スル事ニ  
 就テ一人ノ上ニ拘リタル事件ニ關係スルヲ得ストス此決議以後ハ救  
 貧稅ヨリ救助ヲ願ヒ受ク可キ者ハ誰人ニテモ皆貧民ト稱スルナリ  
 此委任官ノ權限ニ年限切レタリシ故ニウヰル<sup>ウヰル</sup>トリヤ女王十年十一年  
 ノ決議第九篇ニテ新規ノ委任官ヲ命セリ其人員ハ俸給ヲ取ル長官  
 一名及ヒ俸給無キ委任官ト役柄ノ委任官トナリ役柄ノ委任官トハ即  
 チ内閣ノ議長<sup>ロル</sup>、<sup>ド</sup>、<sup>ブ</sup>、<sup>リ</sup>、<sup>ブ</sup>、<sup>キ</sup>、<sup>イ</sup>、<sup>シ</sup>、<sup>ト</sup>ル内國事務ノセクレタリー<sup>チヤン</sup>  
 セロル、<sup>オ</sup>、<sup>フ</sup>、<sup>セ</sup>、<sup>エ</sup>、<sup>ク</sup>、<sup>ス</sup>、<sup>チ</sup>、<sup>エ</sup>、<sup>ツ</sup>、<sup>ク</sup>、<sup>ル</sup>等ヲ謂フ委任官二名或ハ長官ノミニテ  
 處置スルモ十分ナリトス長官及ヒ兩書記官ノ内一名ハ國會下院ノ出



席ニ選舉セラル可シトス先ノ委任官ノ權及ヒ職務總テ新規ノ委任官ニ移シ傳ヘ證人ヲ呼出シ誓詞ヲ以テ之ヲ檢査スルコト及ヒ諸書付等ヲ出サシムル等ノ權有リ然レモ從前ノ決議ノ内ニ畢竟諸說異同有ル時各委任官ノ諸說ヲ委細ニ備フ可キ箇條丈ケハ廢止セリ又委任官ヨリ女王ニ毎年ノ稟報ヲ爲シテ議事院ニ差シ出ス事ナリ

規則及ヒ命令ハ調印ノ上ニテ爲ス可シ但シ委任官ニ依テ自己ノ心得ノ爲メニ爲ス者ハ格外トス一般ノ規則ハ必ス三名以上ノ委任官ノ署名ヲ頒ツ三名ノ内ニ長官其一人タル可シニツ以上ノ連合地ニ干涉スル總テノ規則及ヒ命令ハ即チ一般ノ規則ト見做スナリ從來ノ決議書ノ中一般ノ規則ニ就テノ箇條ハ廢止セラル又樞密議會ニテ評議ノ上ニテ女王ノ命ナレハ一般ノ規則ヲ許サル、モ可ナリ然レモ現在行ハルハ規則ハ變換シ或ハ廢止スル迄續キテ行ハル、ナリ

其第二十六節ニ依テ若シ檢査ノ時故意ニ偽證ヲ爲シ或ハ故意ニ偽言ヲ述ル者ハ其罪顯レタルニ於テハ偽誓ノ罰ヲ受ク可シトス又委任官或ハ檢査人ノ召ニ應ジ或ハ證ヲ爲スコトヲ故意ニ怠リ或ハ其筋ノ人ニリ望マレタル書冊類ヲ出スコトヲ拒ミ或ハ故意ニ之ヲ變シ或ハ棄テ或ハ隠シ或ハ壞リタル者ハ輕罪ニ屬ス

ウヰルレム第四世四年五年ノ決議第七十六篇ニ隨テ委任官ハ貧民救助ニ用ユル總テノ寄附施惠ノ田地及ヒ積金ノ會計ヲ出サシメ公布スルヲ得可シ右ノ會計ハ地主及ヒ出税人ノ縱覽ニ供ス可シ

第二節 教會地連合ノ事

連合地 委任官ハ貧民救助ノ爲メニ教會地數箇所ヲ組合ニシテ共用ノ一工場ヲ立ルヲ命スルヲ得可シ教會地ノ組合ヲ企ル時ニハ委任官各教會地ニ屬スル貧民ノ費用前三年間ノ高ヲ檢査ス可シ而シテ各教



會地ヨリ從前ノ互ニ比較シタル割合ヲ以テ後來共同ノ積金ヲ出シ合  
フ可シ

委任官ハ保護人ノ許可無クトモ組合ヲ解散スルヲ得可シ(貫籍或ハ投  
言ノ爲メニ組合タル時ハ此限ニ在ラス)或ハ其組合ニ他ノ教會地ヲ附  
ケ加ヘ或ハ之ヨリ引キ離シ而シテ其變シタル景況ニ相當ナル規則ヲ  
作ルヲ得可シ然レモ若シ其教會地ニ地方ノ法有リ且ツ人口二万人ニ  
過クレハ之ヲ組合セ或ハ解散スル以前ニ保護人三分ノ二ノ許可ヲ必  
須ナリトス合併セル諸教會地ハ保護人總體ト委任官トノ許可ヲ得ハ  
其地内ノ貫籍ノ一事ヲ付キテハ全然一教會地ノ如ク成ルヲ得可  
シ此事行ハル、後ニモ其諸教會地ヨリ供用ノ積金ヲ出シ合フ比例ハ  
從前ト差異有ル可カラス但シ爾後ハ貫籍ハ組合教會地中一緒トナル  
カ故ニ教會地各自己ノ貧民ヲ救フノ區別ハ廢セラル、ナリ又保護人

及ヒ委任官ノ許可コテ連合地ハ一ツノ教會地トシテ合同ノ割合稅ヲ  
課出スルヲ得可シ右ノ場合ニテハ貧民ノ爲メノ總テノ費用ハ共有ノ  
物ト爲ス可キナリ

第三節 役人並ニ保護人ノ事

役人 委任官ハ何レノ教會地或ハ連合地ニモ俸給アル役人ヲ命ス可  
シト監督及ヒ保護人ニ命スルヲ得且ツ其職務拜命俸給及ヒ保合ノ做  
法ヲ定ムルヲ得可シ職場ノ頭取及ヒ俸給有ル役人ハ委任官ヨリ免黜  
セラル可シ且ツ右ノ免黜セラレタル者ハ何レノ地ニテモ教會地ノ官  
職ヲ勤ムルヲ得ス重罪欺騙及ヒ偽誓ノ罪有リシ人ハ教會地ノ官職ニ  
選舉セラル可カラス或ハ貧民ヲ處置スルノ任ヲ持ツ可カラス役人ナ  
ル語ノ意ハ貧民救助ノ法ヲ施行スルコトニ使用セラル、者ハ何人ニテ  
モ皆役人ト謂フ



書記官及ヒ役人ハ小聚會ニ於テ治安裁判役ノ前ニテ保護人ノ代リニ  
 公事ヲ處置スルヲ得可シ假令ヒ證書ヲ得タル狀師ニ非スト雖モ可ナ  
 リトウヰヰトリヤ女王七年ノ決議第百一篇第六十八節ニ見エタリ  
 保護人 ウヰヰルレム第四世四年五年ノ決議第七十六篇ノ釋義ノ條ニ  
 此語ヲ訓シテ何レノ見分人ニテモ支配人ニテモ差圖人ニテモ取扱人  
 ニテモ保護ヲ取扱フ人ニテモ貧民ノ取扱人トシテ働キ且ツ議事院ノ  
 一般ノ法即チ其地方ノ法ニ隨テ救助ヲ分配シ或ハ命令スルヲ命セ  
 ラレタル者ヲ指スト謂ヘリ(右其第九節ニ出ツ)此法ニ隨テ保護人ハ  
 貧民ノ全處置ヲ持チ且ツ毎年三月二十五日ヨリ四十日ノ内ニ出税人  
 及ヒ地主ニ由テ組合ノ各教會地ヨリ選舉セラル、ナリ其人數(職務)身  
 分柄ハ委任官ニ定メラル然レハ身分柄ハ一年ニ四十(ポンド)ノ賃租高  
 ヲ過ク可カラス且ツ各教會地ヨリ少ナクモ一保護人ニ選舉ス可キナ

リ保護人ハ再ヒ選舉セラル、ヲ得可シ其州郡ノ民政官ハ役柄ノ保護  
 人ナリ委任官ハ單一ノ教會地ニモ前ト同様ノ權力有ル保護人ノ聽衆  
 ヲ取立ルヲ命スルヲ得可シ治安裁判役ハ役柄ニテ其人員ノ内タル  
 可シ又委任官ハ人口ニ比例シテ保護人ノ數ヲ増減スルヲ得可シ若シ  
 教會地ノ人口二万人ニ過ルナラハ之ヲ各區ニ分テ別々ノ保護人ヲ  
 具フルヲ得可シトウヰヰトリヤ女王七年八年ノ決議第百一篇ニ見エ  
 タリ

ウヰヰトリヤ女王十二年三年ノ決議第百三篇第十三章ニ依テ連合教  
 會地或ハ單一教會地ノ保護人ハ他ノ工場ニ人數群聚シ或ハ傳染病流  
 行ノ恐レ有ル時或ハ其地ニテ貧民移住ノ議ヲ決シテ施行スル時ニ於  
 テ救貧法廳ノ命令ヲ受クテ他ノ教會地或ハ連合教會地ノ貧民ヲ我カ  
 工場ニ容ル、ヲ約シ得可シト定ム其第十六節ニ隨テ保護人ハ貧民



ノ金銭或ハ價直有ル質物ヲ取リテ右貧人ノ自分入費ヲ之ニテ償フ可  
 キノ權有リトス

ウキクトリヤ女王十四年五年ノ決議第百五篇第三節ニ依テ保護人ノ  
 選舉ニ於テ其紙面ノ名指シテ變へ或ハ破リ或ハ添刪スルコト或ハ投言  
 者ノ名ヲ偽作スルコト或ハ投言ノ紙ヲ分配スルヲ障礙スルコト等ノ惡業  
 ハ三箇月ヲ過キサル時間ノ入牢ヲ以テ罰ス可シトス其第四節ニハ保  
 護人ニ救貧法廳ノ承諾有レハ病院へ出銀スルノ權ヲ許ルセリ十六歳  
 以下ノ孤兒或ハ置キ去リノ兒或ハ其生存スル片親ト救貧法廳トノ承  
 許ヲ受ケタル兒ハ他ノ連合地連合地トアルハ皆連合シタル教會地ヲ謂フナリ或ハ教會地ニ屬ス  
 ル相距ル二十マイル餘ニ過キサル地ノ職場ニ約テ定メテ送り遣ルヲ  
 得可シ但シ其職場ニモ教育保養ノ法相應ニ備ハル處ナル可シト其第  
 六節ニ見エタリ其第十二節ニ依テ三箇所ノ連合地或ハ教會地ノ保護

人ニ相互ノ承知ヲ以テ貫籍移居救助等ノ疑問ヲ救貧法廳ニ請フテ決  
 定取ルノ權ヲ與ヘタリ又其第十六節ニ依テ首都取締持場内ノ學校持  
 場中ニ課ス可キ費用ノ限界ハ五分ノ一ヨリ増シテ三分ノ一ト成レリ

ウキクトリヤ女王十一年二年ノ決議第百十篇ニ依テ定マレル住居有  
 ル貧人已レカ本貫ニ非サル連合地或ハ教會地ニ於テ災難又ハ不意ノ  
 怪我等ニ遇ヘル者ハ其災害ノ有リタル教會地或ハ連合地ノ役人ヨリ  
 救助ヲ受ク可シ然レハ其入費ハ後ニ其本貫ノ教會地ヨリ償フ可シト  
 ス

ウキクトリヤ女王十八年九年ノ決議第三十四篇ニ依テ保護人ハ窮乏  
 ナル親々ニ其子ノ教育ヲ得セシムル爲メ四歳ヨリ十六歳ノ間ハ救助  
 ヲ與ヘ保護人ノ許可スル學校ニ出テシムルヲ得可シトス

第四節 人選ノ事



選舉 保護人ノ選舉及ヒ總テノ他ノ選舉ニ於テ投言ハ書付コテ取ラ  
 ル可シ地主及ヒ出税人ノ中投言ノ權理ハウヰトリヤ女王七年八年  
 ノ決議第百一篇ニ依テ何ソモ同様ト定マレリ一人ニテ數多ノ投言ヲ  
 爲スヲモ許サレタリ若シ出税スヘキ家産五十ポンドヨリ寡ナキモノ  
 ヲ有スル者ハ一ノ投言ヲ爲スヲ得五十ポンドヨリ以上百ポンド以下  
 ナレハ二ノ投言百ポンドヨリ以上百五十ポンドナレハ三ノ投言百五  
 十ポンドヨリ以上二百ポンド以下ハ四ノ投言二百ポンドヨリ以上二  
 百五十ポンド以下ハ五ノ投言ヲ爲スヲ得若シ二百五十ポンドニ及ヒ  
 或ハ過ルナラハ六ノ投言ヲ爲スヲ得可シ若シ人家屋地所ノ持主ニシ  
 テ且ツ現住人タル時ハ兩方ノ身分柄ニ於テ投言ヲ爲シ得可シ  
 ウヰトリヤ女王七年八年ノ決議第百一篇第十五節ニ依テ家屋地所  
 ノ持主ハ必ス二月一日ヨリ以前ニ投言ノ知告ヲ爲ス可シ又名代ニ依

テ投言スルコトヲ得可シ然シナガラ一ノ教會地ニ於テ一人ニテ四名ヨ  
 リ多クノ持主ノ名代タルコトヲ得ス地守手代ハ格別トス又名代選任ノ  
 期限ハ二年ヨリ永キヲ得ス但シ地守手代ハ格別ナリトス出税人モ一  
 箇年ノ稅ヲ課セラレ且ツ教會地稅ヲ出セシ上ニ非サレハ投言スルヲ  
 得ス統合體或ハ合本會社等ニ屬スル產業ノ者ニ於テモ亦同上ノ役人  
 投言ヲ爲シ得可シトス

第五節 職場ノ事

職場 何レノ教會地或ハ連合地ニテモ其貧民ヲ住マハセ或ハ養ヒ置  
 ク家屋或ハ貧民ヲ受入レ使用シ區別シ救助スル爲メニ教會地ノ會議  
 衆或ハ保護人或ハ監督ニ依テ救貧稅ノ費用ニテ用ユル家屋等皆之ヲ  
 職場ト謂フト第百九節ニ見ユタリ

委任官ハ地主及ヒ出税人ノ上ニ言ヘル如キ投言ニ過半ノ承知有レハ



職場ヲ建テ或ハ借リ或ハ變改シ或ハ廣大ニスルヲ命スルヲ得可シ  
 此事件ノ爲メニ取立ル金高ハ救貧税ノ上ニ課ス可キナリ然レモ一年  
 平均ノ高ヲ過ク可カラス且ツ借リタル金モ十年ノ年賦ヲ以テ返済ス  
 可キナリ委任官ハ既ニ建立セシ職場ヲ其教會地ノ承許ナク變改スル  
 ヲ命スルヲ得可シ然レモ其事ニ就テ取集ム可キ金ハ必ス一箇年税  
 額ノ十分一即チ五十「ポンド」ニ過ク可カラス委任官ハ職場ヲ管理スル  
 規則ヲ作ルヲ得可シ従前ノ附加條例ヲ變更スルヲ得可シ治安裁判役  
 ハ附加條例ノ行ハル、ヤ否ヲ檢視シ又職場ヲ見廻ハルノ權ヲ許サレ  
 タル「ポンド」第三世三十三年ノ決議第四十九篇ニ於テ命セラレタ  
 ルカ如ク委任官ニ依テ作ル規則無キ場所ハ治安裁判役、醫者或ハ僧徒  
 ノ職場ヲ見廻ル「ポンド」ニ於テ從來爲シ來リシ權ハ循守セラル可キナリ主  
 長ノ命令書無ク職場ニ燒酎、酒類ヲ入ル、者ハ十「ポンド」ノ過料或ハ二

箇月入牢ノ罰ニ屬ス職場ノ主長ハ外科醫者、治安裁判役、保護人或ハ委  
 任官ノ命ニ非ラスシテ制禁ノ飲物ヲ職場ヘ入レ但シ自家ノ用ニ供ス  
 ルハ此限ニ在ラス又ハ貧者ヲ惡シク取扱ヒ或ハ自身不身持ナル等ハ  
 二十「ポンド」ノ過料或ハ六箇月ニ過キサル入牢ノ罰ニ屬スルナリ又狂  
 者、痴子及ヒ危害ヲ生ス可キ癪者ハ十四日ヨリ久シク職場ニ留メ置ク  
 可カラス

ウキルレニ第四世五年六年ノ決議第六十篇ハ職場ノ敷地トナス爲メ  
 ニ「イクレンシアスチック、コルホレイション、ソール」（僧侶、軍一統、  
 合休ノ義）ニ屬スル地面  
 或ハ家屋ヲ賣リ或ハ交易スル「ポンド」ノ條例ヲ載セタリ若シ右ノ「コルホレ  
 イション、ソール」ノ心思錯亂セル者ナル場合ニ於テハウキクトリヤ女  
 王二十年二十一年ノ決議第十三篇ニ保護人或ハ取扱人ニ司法長官ニ  
 願ヒテ事ヲ行ハシムルノ權ヲ許セル條有リ此請願ヲ爲スニハ豫メ其



筋ノ承諾ヲ得可キナリ

ウヰクトリヤ女王二十年ノ決議第九篇ニ依テ總テノ教會地外ノ地ニシテ救貧税ナキ處ハ貧民救助ノ爲メニ教會地トナス而シテ治安裁判役之ヲ管理シテ監督ヲ命ス可シトス又律法講究ノ諸院及ヒ「チャルトルハウス」一種ノ救法會社ナリノ事ニ就テノ條例有リ教長ヨリ教會地外ノ場所ニ於テ書付ヲ布告スルヲ命スルヲ得可シ

第六節 貧民惡行ノ事

衣服其外ノ品物ヲ持出シ職場ヲ逃奔スル貧人ハ七日ヨリ寡ナカラズ三箇月ヨリ多カラサル時間懲惡院ニ閉込置ク可シ又年紀力量等ニ相當ナル事業ニ工作スルヲ拒ミ或ハ飲酒ニ耽リ或ハ其他ノ不身持ナル者ハ四十一日ヲ過サル時間ノ入牢懲役ニ屬ス可シトウヰクトリヤ女王七年ノ決議第九篇第五十八節ニ見エタリ

ウヰクトリヤ女王十年十一年ノ決議第九篇第二十三節ニ夫婦ニシテ六十歳以上ノ者ハ職場ノ中ニ於テ強ヒテ兩人別居セシムルヲアル可カラズ

其第二十四節ニ依ルニ保護人衆若シ其連合地ノ職場ヲ見廻ル可キ爲メノ見廻委員ヲ命スルヲ怠リ或ハ拒ム時又ハ右ノ委員若シ三箇月ノ間職場ヲ見廻ルヲ怠ル時ハ委任官ヨリ別ニ俸給アル見廻リ役ヲ命ス可シ然シナカラバ此拜命ハ保護人カ見廻委員ヲ命シテヨリ三箇月ノ時限ヲ過クレンハ乃チ廢止スルナリ

ウヰクトリヤ女王十一年二年ノ決議第一百十篇第九節ニ依テ連合地共有ノ積金ニテ救助ス可キ人ニシテ職場ニ養ヒ置カレタル間ニ職場ノ規則ヲ犯シタル由治安裁判役ノ前ニテ其罪ヲ定メラレタル者ハ郡ノ牢舎或ハ懲惡院ニ送り其費用ハ郡中ノ任ト爲ル者ト定マレリ



其第十節ニ依テ旅客或ハ漂泊人ナリト自ラ稱スル者ヲ職場ニ許シ容  
ル、ニハ委シク穿鑿ヲ遂ケ其身ニ持テル金錢等ハ連合地共有ノ積金  
ノ補助トシテ保護人ニ渡ス可シトス又救助ヲ請フ人ハ何人コテモ金  
錢其他ノ所有物有レテ檢査ノ時其由テ保護人或ハ役人ニ殘ラズ打明  
ケサルニ於テハ懶惰不行儀ノ人ト爲シテ其罪ヲ以テ罰セラル可シト  
ス

第七節 會計簿並ニ條約ノ事

會計及ヒ約定 監督及ヒ他ノ役人等ハ一年ノ會計ノ外ニ半年ツ、コ  
其會計ヲ差出ス可シ或ハ若シ委任官ヨリ命令有ルナラハ更ニ數度ナ  
ル可シ委任官ノ規則ニ隨ハサル請負ノ約定ハ皆固定ナル者ニ非ラズ  
トス貧民處置ヲ預リ居ル者請負ノ事ニ關係スルニ於テハ百「ポンド」ノ  
過料ナリ救貧法ノ供給取扱ニ使用セラレタル役人教會地ノ救助トシ

テ與フヘキ品物(食料)金錢等ヲ私利ノタメニ自ラ備辨セシ者ハ五「ポ  
ンド」ノ過料ニ屬ス

ウヰクトリヤ女王十三年四年ノ決議第百一篇第八節ニ依テ職場ヲ逃  
レ隠レ衣服(麻布)等其他ノ品物ヲ持去リタルノ罪顯ハレタル貧民ハ入  
牢ノ上懲役セシメ置ク可シトス職場或ハ救助ノ役人ヲ其職務ヲ爲シ  
居ル間ニ襲撃スル者アレハ捕官或ハ租稅官ヲ襲撃セシト同様ノ罪ヲ  
以テ罰セラル可シト其第九節ニ見エタリ其第六節ニ依テ職場ノ主長  
或ハ救助ノ役人ハ教會地或ハ城邑ノ官員ニ拜命ス可カラスト定マレ  
リ

第八節 徙民救恤(許容)ノ事

移住 地主及ヒ出稅人ハ貧民ヲシテ委任スルヲ得セシムル爲メニ前  
三年平均一年稅額ノ半高ニ過サズ程ノ金ヲ取集メ或ハ借り出スヲ



得可シ然シナカテ右ノ金ハ委任官ノ承許無シハ救貧税ヲ抵當ニシテ  
 集ムルヲ得ヌ且ツ五箇年ノ過キサル返濟ノ時間ヲ以テ借ル可カラズ  
 保護人ハ右ノ如ク得テ且ツ右ノ限界ニ屬シタル金ヲ移住ノ入費ヲ償  
 フコニ用ユルヲ得可シトウヰキトリヤ女王七年ノ決議第百一篇第二  
 十九節ニ見エタリ  
 十六歳以下ノ貧窮ナル孤兒及ヒ置キ去リセラレタル兒ヲ移住セシム  
 ル便宜ノ爲メニウヰキトリヤ女王十三年四年ノ決議第百一篇第四節  
 ニ保護人ヲシテ右ノ小兒等貫籍無クトモ或ハ其貫籍ノ知レ難キ者ナ  
 リトモ救助ス可キ者ナレハ之ヲ移住セシムルニ就テ金ヲ費用スルヲ  
 得セシム然レモ右ノ移住ハ豫メ其小兒ノ承諾アリテ小聚會ニ於ケル  
 治安裁判役ノ前ニ表ハセシ上ニ非サレハ行フヲ得ス右承諾ノ證書ハ  
 出席ノ治安裁判役二名ノ署名ヲ以テ豫メ救貧法廳ニ差送ルコトナリ

ウヰキトリヤ女王十四年五年ノ決議第九十一篇ニ依テスコットラン  
 ドノ山國及ヒ島國ニ於ケル窮乏ナル人ノ移住ニ便宜ナル爲メニ地所  
 ノ産業進善ノ爲メニ前借セシムヘキ金ヨリ前借ヲ爲スヲ得可シトス  
 田地主ハイングラランドノインコロトシール（國ニ地ノ義）委任官ニ此目的ヲ  
 以テ拜借ヲ願ヒ得可シサテ委任官之ヲ検査スルコト願人ハ其費用ノ中  
 自辨スヘキ部分ヲ既ニ自辨シタルト明白ナル時ハ庫部ヨリ拜借金ノ  
 證書ヲ出スコトヲ命スルヲ得可シ移住掛リノ委任官ハ請願ノ委細ヲ布  
 告シ得可シ

ウヰキトリヤ女王二十四年五年ノ決議第八十篇ハ共用ノ作事ヲ爲シ  
 漁獵場ヲ造リ港場ヲ修繕スル等ニ於テ貧民ヲ使用スルコトノ爲メニ合  
 一セル積金ノ内ヨリ金ヲ先拂ヒスルヲ許セリ  
 救助及ヒ許容（アローエンス） 委任官ハ職場ノ外ニ居ル身體健全ノ人ニ與フ可キ救



助ニ就テ規則ヲ作ル可シ此規則ニ背キテ與フル總テノ救助ハ許ス可  
 カラスト然レモ監督或ハ保護人ハ格別ノ場合ニ於テハ右ノ規則ヲ  
 行フコトヲ三十日間猶豫スルヲ得可シ但シ其後十日ノ内ニ右ノ猶豫ノ  
 緣故ヲ委任官ニ稟報スルコトナリ若シ委任官ノ猶豫ヲ許サハル時ハ速  
 カニ日ヲ期シテ規則ニ背キ與ヘタル總テノ救助ハ右期日ヨリ以來ハ  
 歌ト可キコトヲ布告ス可シ然シナカラ變災ノ時ニ於テハ後十五日以內  
 ニ又同前ノ稟報ヲ爲シ委任官右ノ規則ニ違フコトヲ許可スルコトハ猶  
 ホ救助ヲ與ヘ得可シ或ハ若シ其救助ハ食物假住所或ハ醫藥ヲ與ヘシ  
 ニテ其事ヲ前記ノ如ク稟報セシナラハ猶ホ救助ヲ與ヘ得可シトウ井  
 ルレム第四世四年ノ決議第七十六篇第五十二節ニ見エタリ  
 此決議書又ハ他ノ一般或ハ其地方ノ決議書ニ依テ保護人或ハ人撰ノ  
 會議衆等ヲ取設テ有ル所ニテハ委任官ノ管轄ニ屬セル此人々ニ依テ

命スルノ外ハ救助ヲ與フ可カラズ然レモ俄カノ非常ナル場合ニ於テ  
 ハ監督ヨリ其教會地ニ貫籍有ル者ニテモ否ヲサル者ニテモ之ニ十分  
 必要ノ品物ヲハ救助トシテ與フルヲ得可シ但シ金錢ニテハ與ヘス若  
 シ監督タル者右ノ如キ變時ノ救助ヲ與フルトチ怠リ或ハ拒ム時ハ治  
 安裁判役之ヲ命スルヲ得可シ而ルニ監督右ノ命令ニモ從ハサルナラ  
 ハ五ポンドノ過料ヲ以テ罰セラル可シ又危篤ナル疾病ノ場合ニ於テ  
 モ治安裁判役ヨリ醫藥ノ救助ヲ與フ可キコトヲ命スルヲ得可シ之ニ從  
 ハサレハ亦同前ノ罰ニ屬スト其第五十四節ニ見エタリ  
 此決議ニテ取立タル連合地ニ於テハ治安裁判役二名ニテ老年或ハ身  
 體病弱ニシテ全ク工作スル能ハサル成人ノ者ニハ職場外ニ居ルトモ  
 救助ヲ與フルヲ命シ得可シ然レモ其貧民ノ工作スル能ハスシテ右ノ  
 如キ職場外ノ救助ヲ願フニ就テ實正ナル趣ヲ治安裁判役ヨリ保證セ



サル可カラスト其第二十七節ニ見ユタリ  
 職場ノ役人衆ハ其筋ヨリ許容ノ命令ヲ受タル人ナハ何時ニテモ受ケ  
 容ル可キ職掌ナリ此役人衆トハ即チ保護人救助役人及ヒ監督ヲ謂フ  
 然レモ萬々已ムヲ得サルノ場合ニ於テハ右ノ命令無シモ願ヒ人ヲ受  
 ケ容レサルヲ得ストス若シ家屋中充滿シテ願ヒ人ヲ容ル、ノ地無キ  
 時ハ主長之ヲ救助役人ニ託シテ其取扱ヒヲ爲サシム可シ救助役人ノ  
 職掌ハ之ヲ他方ニ求メテ其救助ノ方ヲ處置ス可キ者トス是千八百六  
 十一年六月二日議事下院ニ於テ救貧長官フ<sup>ル</sup>リールス氏ノ定ムル所  
 ナリ  
 職場ノ主長及ヒ監督ハ貧民ニ救助セシ總テノ物ヲ日々簿冊ニ記シ置  
 ク可シ妻子ニ與ヘタル救助ハ即チ其夫ニ與ヘタル救助ト見做ス可シ  
 夫タル者ハ婚姻ヲ結ブ前ニ其妻ノ産ム所他人ノ兒ハ嫡生ニモセヨ私

生ニモセヨ其兒十六歳ニ至ル迄ハ或ハ母ノ死スル迄ハ己レ之ヲ養育  
 ス可キ任有リ故ニ委任官ヨリ命スル右ノ救助ハ即チ借財ト見做ス可  
 シ之カ爲メニ救助ヲ受タル者<sup>妻子ニシテ救助ヲ受タル時ハ親又ハ夫ノ賃銀</sup>  
 ハ爾後役人ノ權勢ヲ以テ其備主ノ手ニ留メ置カシム可シトス  
 妻タル者其夫海外ニ在ルカ或ハ法律ノ囚禁ニ在ルカ或ハ狂病院ニ在  
 ルナラハ寡婦同様ニ救助ヲ受ケ得可シ然レモ右ノ救助ハ其夫後來ノ  
 責任ヲ免レサルナリトウキクトリヤ女王七年ノ決議第百一篇第二十  
 五篇ニ見ユタリ寡婦ノ子有リテ己レニ屬シ且ツ其寡婦ト爲リタル時  
 ヨリ別ニ私生ノ子無キ者ハ其本貫ノ教會地ノ中ニ在ラストモ救助ヲ  
 受ルヲ得可シト其第二十六節ニ見ユタリ  
 ウキクトリヤ女王十三年四年ノ決議第百一篇第五節ニ依テ狂病院ニ  
 於テ夫有ル狂女ニテ或ル教會地ニ責任ス可キ旨ヲ保養スルノ入費ノ



全分或ハ一分ヲ拂フ可シト其夫ニ命スルモ可ナリトス

第九節 修繕并ニ遊息場ノ事

修繕及ヒ遊息場 ウヰキクトリヤ女王二十三年四年ノ決議第三十篇ニ  
依テ教會地ノ康健及ヒ慰樂ノ爲メニ其地ノ修繕ヲ採取ラシムルヲ  
定メタリ即チ何レノ教會地ニテモ近時ノ人別改ニ人口五百人ニ過キ  
タル地ニ於テハ出租人タル者ハ地所ヲ持チ或ハ買ヒ或ハ地所ノ讓與  
ヲ受ケテ人民ノ遊歩場或ハ運動場及ヒ休息場或ハ避雨場ヲ造營スル  
ヲ得可シトス此決議施行ノ後チ出租人三分ノ二 必シモ其人項ヲ問フニア  
高既ニ三分ノ二ニ及ヘハ其人ノ多少ニ會議ノ上ニテ之ヲ行フ爲メニ別段ノ  
限ラヌ出租人三分ノ二ト稱スルナリ 會議ノ上ニテ之ヲ行フ爲メニ別段ノ  
税額ヲ課スルヲ得可シ然レモ右ノ税額ヲ課スル以前ニ寡ナクモ其目  
論見ノ費用ノ半分ハ既ニ私ノ贈金或ハ贈金ニテ集マリ居ルニ非カレ  
一不可ナリ但シ税額ハ「ポンド」ニ於テ六「ペンス」ヲ過ク可カラスト其

第一節 ヨリ第六節マテニ見エタリ

ウヰキクトリヤ女王二十二年ノ決議第二十七篇ニ引用シテ曰ク成人ノ  
遊息兒童ノ玩耍ノ爲メニ公園ヲ必要トスルコトハ首都及ヒ他ノ人口稠  
密ノ場所ニ於テ殊ニ多シ此設ケナケレハ弊害漸々甚ク増加スト  
云ヘリ諸次ニ命シテ曰ク此目的ニテ委任ヲ受ケタル者ニ地所ヲ讓リ  
渡ス可シ但シ企テ人成ハ貸ス人ノ便宜ト思ヘル約定ニ隨フナリ貸  
シ渡シノ做法ハ必スシモ 登録或ハ約書ヲ以テスルヲ要セス其地ノ統  
合體ハ庫部長官ノ承許ヲ以テ右ノ貸シ渡シヲ許スヲ得可シ教會地ノ  
地面ハ救貧法廳ノ承許ヲ以テ之ニ用ユルヲ得可シ聖會保長或ハ監督  
ハ右ノ地所ノ受託人タルヲ得可シ且ツ會社ヲ爲シテ其地ヲ持ツヲ得  
可シ然シナカラ遊息場ノ管理指揮ハ猶ホ讓渡ノ書面ニ記載セル人ニ  
留ル可シ或ハ其者之ヲ爲ス能ハサル時ニハイングリッドノ施濟委任



官其處置ノ方法ヲ定ム可シト其第五節ニ見エタリ取扱人及ヒ指揮人  
ハ委任官ノ許可ヲ受テ其地ノ注意ト使用トニ關スル取極及ヒ規則ヲ  
作り行フヲ得可シ但シ委任官ニ稟議セサル可カラス千「ボンド」ニ過サ  
ル財産ハ遊息場ヲ買ヒ及ヒ維持スルコトニ就テ讓リ渡スヲ得可シ此決  
議ハ唯イソングランド及ヒアイルランドニノミ用ユルナリ

第十節 職場ヨリ備ハレ出ル僕婢并ニ徒弟ノ事

十六歳以下ノ僕婢ニ備ハレタル貧人ヲ能ク保護ス可キ爲メニウヰン  
トリア女王十四年ノ決議第十一篇第三節ニ保護人衆ノ管轄ニ屬スル  
各連合地或ハ別箇ノ教會地ノ保護人及ヒ連合地ノ中ニ在ラス或ハ保  
護人ノ管轄ニ屬セサル各教會地ノ監督ヲシテ右ノ連合地或ハ教會地  
ノ職場ヨリ僕婢ニ備ハレ出ル十六歳以下ノ者ヲハ簿冊ニ記シ置キ札  
紙ニ隨テ委細ヲ載セ置カシムルコトヲ命セリ其委細ハ年歳姓名備取ノ

年月主人ノ姓名其住所等級業體等ナリ右ノ簿冊ハ保護人衆或ハ監督  
衆ノ議長ニ依テ名署セラル可シ且ツジョオルシ第三世四十二年ノ決議  
第四十六篇及ヒウヰントリア女王七年八年ノ決議第一百一篇ニ隨テ必  
要トスル簿冊ヲ廢スルヲ得ス

其第四節ニ依テ保護人或ハ監督ハ少年ノ職場ヨリ備ハレ出テ或ハ貧  
民年季トシテ約束セラルレハ救助ノ役人或ハ他人ノ命ヲ被レル者ヲ  
シテ其少年十六歳以下ノ間ハ其連合地或ハ教會地ノ内或ハ其レヨリ  
五「マイル」ノ内ニハ毎年寡ナシモ二度ツ、之ヲ見舞ハシメテ其者等必  
要ノ食物ヲ給セラレサルカ又ハ萬事ニ殘刻ノ取扱ヒテ受シルカヲ監  
視シテ書付ヲ以テ之ヲ稟報セシム可キヲ要ス若シ右少年ノ住所五「マ  
イル」ヲ過ルナラハ其見廻ノ職務ハ少年ヲ送リシ連合地或ハ教會地ヨ  
リ知告ノ上ニテ現今住居ノ教會地ニテ務ムルナリト其第五節ニ見エ



其第六節ニ依テ此決議ニ背ケル罪過或ハ十六歳以下ノ貧人ノ身體ヲ  
傷害セル罪過ノ訴訟有ル時其罪犯人ノカ爲メニ罪狀ヲ負フ可キ者ニ  
シテ治安裁判役二名之ヲ告發ス可キヲ證言スルニ於テハ保護人及  
ヒ監督必ス之ヲ告發セサルヲ得ス此告發ノ入費ハ訴訟ヲ審査スル廳  
ニテ辨セサル丈ケハ教會地ノ積金ニテ償フ可シトス治安裁判役ハ保  
證書ヲ取リテ罪囚ヲ保釋スルノ權有リ婢僕及ヒ年季人ノ條ヲ見ル可  
シ

第十一節 貧民移去ノ事

貧人ノ救助ス可キ者タル知告ニ檢査及ヒ命令ノ寫書ヲ添ヘテ移去ノ  
命令ヲ受ル先方ノ教會地ニ送リシ後二十一日迄ハ何レノ教會地或ハ  
職場ヨリモ移去スルヲ有ル可カラズ然レモ其移去ノ命令ヲ先方ノ教

會地ニテ違背スルヲ無クハ直チニ右ノ人ヲ移去スルヲ得可シ上控ノ  
時ニ於テハ上控ノ決定迄ハ移去ヲ行フ能ハス上控ノ知告ハ會議ノ初  
日ヨリ十四日前ニ爲ス可シ上控ニ於テ屈服セシ教會地ハ其入費ヲ拂  
フ可シ知告ノ時ヨリ後ハ救助ノ入費ハ貫籍ノ地ト定メタル教會地ニ  
テ之ヲ拂フ可シ然シナカラ命令中絶有リシ時ハ其趣キノ知告ヲ送リ  
タリシニ非サレハ先方ノ教會地ヲシテ其間ノ救助入費ヲ償ハシム可  
カラストス上控ノ事由ハ上控ノ知告ニ於テ之ヲ書キ表ハス可シ而シ  
テ表ハシタル事由ニノミ論及スルヲ得ルナリ上控者ハ其貧民ノ貫籍  
ニ就テ檢査ヲ爲ス爲メニ之ト面接ヲ爲ス可シ雙方共ニ瑣末ノ事或ハ  
惡口ニ涉ル事ヲ述ル者ハ入費ヲ拂ハシム可シ

千八百四十六年ノ會議并ニ千八百六十一年及ヒ千八百六十四年ノ會  
議ニ於テ貧民移去ニ就テ肝要ノ變改有リ即チウヰクトリヤ女王九年



十年ノ決議第六十六篇ニ依テ貧民五箇年住居ノ後ハ移去ス可カラサル者ト爲サレタリ然レモウキクトリヤ女王二十四年五年ノ決議第十五篇世ニ所謂フキルソールス氏ノ決議ニ依テ千八百六十二年三月二十五日以後ハ其人其教會地ニ住居スル三箇年ナル時ハ移居セラル可カラス又移居ノ命狀ヲ許ストス(ウキクトリヤ女王二十八年九年ノ決議第七十九篇第八節ニ依テハ一箇年トス)且ツ連合地中ニ住居スル者ハ教會地ニ住居スル者ト同様ノ權理有リト其第一節ニ見エタリ其第二章ニ依テ十六歳以下ノ兒其生存スル片親ト共ニ住居スル者孤兒トナリ其親死去ノ時分移去ノ限外ニ在ルコトヲ得タリシ者若シ左モ無シハ移去スルヲ得ヘキ者ナリト移去ノ限外ニ在ルコト宛モ己レノ身自テ住居ニ依テ移去ノ限外ニ在ルヲ得タリシ者ト同様ナリトス妻タル者其夫ニ棄去セラレ其棄去ノ後若シ再嫁セサレハ移去ノ限外

ニ在ル者ト爲ル可キ姿ニテ三箇年ノ間住居スル時ハ其夫歸リ來リ再ヒ同居スルニ非サレハ其住居タル教會地ヨリ移去セラル可キニ非ラスト其第三節ニ見エタリ

其第四節ニ依テ若シ旅人漂泊人或ハ棄兒連合地ノ共有積金ニテ救助ス可キ者ト爲ル時ハ右救助ノ入費ハ救助ヲ欲ムル迄ハ其積金ニ掛リ行ク可シ終身ノ不具ト爲ル可カラサル怪我或ハ疾病ノ故ヲ以テ積金ニテ救助ス可キ人ハ其病癒ユル時ハ救助ヲ欲ムルナリ而ルニ以來猶ホ救助シ行クナラハ其入費ハ其貧民ノ現住所タル教會地ニ掛ル可シ但シ其者連合地ノ職場ニ在ルハ格別トス右ノ場合ニ於テハ其者ノ職場ニ移サレタル時住居シテ有リシ教會地ニ其入費掛ル可シ而シテ教會地ノ監督ハ移去ノ命令ヲ願ヒテ之ヲ受ケ得可シト其第五節ニ見エタリ



狂疾ノ貧民ヲ検査スルノ入費及ヒ狂病院或ハ貸坐敷或ハ養病院ニ移  
シ或ハ之ヨリ移去シ或ハ之ニ養ヒ置ク入費ハ現在ニテモ又ハ未來ニ  
テモ其者ウヰクトリヤ女王十六年七年ノ決議第九十七篇ニ隨テ組合  
中ノ教會地ニテ救助スヘキ者ナレハ千八百六十二年三月二十五日以  
來ハ右ノ教會地ノ組合共有ノ積金ヨリ支給ス可キナリ狂疾取扱ノ命  
令ハ保護人衆ニ由リテ得ラル可ク或ハ非トシテ上控セラル、チ得可  
シト其第七節ニ定マレリウヰクトリヤ女王十年十一年ノ決議第一百  
篇ニ定マリタル共有積金ニテ救助埋葬養育ノ爲メニ某ノ連合地ノ貧  
民チ一時救助スルノ任ハ改メテ永久ノ事ト爲スト其第八節ニ定マレ  
リウイムレン第四世四年五年ノ決議第七十六篇ニ從ツテ作ラレタル  
連合地ノ中ニ在ル教會地ハ稅ヲ課ス可キ產業ノ一年ノ價值ニ隨テ共  
有積金ヲ助成ス可シ然シチカラ謂フ所ノ三月二十五日以外ノ助成ニ

ハ請フチ得スト其九節ニ定マレリ保護人ハ諸教會地ヨリ共有積金ニ  
助成ノ割合ヲ算計スルニ付キテ各教會地ノ產業ノ一年ノ高ヲ定ムル  
ニハ郡稅ヲ課出セル高割リヲ以テ準トス可シ或ハ其所ニ郡稅ナキナ  
ラハ邑稅或ハ區稅又ハ其他郡稅ニ等シキ稅額ノ前一月ヨリ先キナラ  
サル課納ノ高割ヲ以テ準トス可シト其第十節ニ定マレリ命令ハ算計  
ノ誤リヨリシテ取消ト見做サル可カラスト其第十一節ニ定マレリ  
ウヰクトリヤ女王九年十年ノ決議第六十篇ニ依テ妻或ハ子ハ唯其夫  
或ハ親ト共ニノミ移去ス可シトス寡婦ノ其夫病草ノ時ニ同居シ在リ  
シ者ハ其夫死去ノ後十二箇月迄ハ移去ス可カラサル者トス十六歲以  
下ノ子ハ嫡生ニモセヨ否ヲサルニモセヨ其親無クハ移去スルチ得ス  
又救助ヲ受ク可キ人ニシテ疾病或ハ災害ニ依テ救助ヲ要スル者ハ決  
シテ移去スルチ得ス但シ移去ノ命狀ヲ許ス治安裁判役右ノ命狀ニ其



者疾病或ハ災害ニテ終身ノ不具ト爲ルトモ自ラ甘ンシ居ル趣ヲ記載  
 メル時ハ移去スルヲ得ルナリ何ニテモ一時移去セラル可キ制外ニ在  
 ルノ故ヲ以テ永久其貫籍ニ入ルヲ得ス教會地或ハ連合地ノ役人金錢  
 或ハ約定ヲ以テ或ハ他ノ法ヲ設ケテ貧民ノ移去ヲ取扱ヒ之ニ依テ右  
 ノ貧民ヲ他ノ教會地ノ救助ス可キ者ト爲スニ於テハ五ポンドヨリ多  
 カラス四十シリングヨリ寡ナカラサル過料ニ屬ス可シトス教會地  
 ノ職場ニ於ケル監督ニ指揮セル移去ノ命狀ニ隨テ貧民ヲ右職場ノ何  
 レノ役人ニ渡スモ右ノ教會地ノ監督ニ渡シタルコト見做ス可キナリ  
 ヲキクトリヤ女王十一年二年ノ決議第百十篇ニ保護人ヲシテ移去ス  
 可カラサル貧民ヲ親屬ニテ養育ス可キ命令ヲ出シ又監督或ハ聖會保  
 長ノ爲ス如ク之カ爲メニ金錢ヲ費用シ又ハ此人ノ爲メニ或ハ教會地  
 ノ爲メニ借金ヲ爲シテ出シタル救助ヲ郡廳ニ於テ回復スルコト等ヲ得

セシム然レモ同上ノ救助ヲ回復スル爲メニ法律ニ依テ既ニ備ヘアル  
 現在ニ行ハル、方法ハ猶ホ存スル者トス

其第五節ニ依テ連合地或ハ教會地ノ保護人ハウヰクトリヤ女王九年  
 十年ノ決議第六十六篇ニ依テ移去ス可カラサル者ト爲サレタル貧人  
 ノ移住ヲ助クルヲ得可シ假令ヒ其所ノ貫籍ニ入ラストモ其入費ハ連  
 合地共有ノ積金ノ上ニ掛ケラル可シトス共有ノ積金ニ課セラレタル  
 掛リハ即チウヰルレ、第四世四年五年ノ決議第七十六篇ニ屬スル組  
 合費用トシテ掛ケラル可キナリ

貧民ヲ移去スルニ其指ス方ニ安全ニ送り渡ス可キカ爲メニウヰクト  
 リヤ女王二十五年六年ノ決議第百十三篇ニ左ノ箇條ヲ令ス曰ク其場  
 所ニテ救助ス可キ者ト爲リタル貧民ヲイニングランドノ地ヨリスコツ  
 トランドニ移去シ或ハスコツトランドノ地ヨリイニングランドニ移去



スル爲ノ移去ノ命狀ヲ請フコイソグランドニ於テハ小聚會ニ於テ  
 ル治安裁判役二名以上カ或ハ其應ニ出坐セル俸給有ル民政官又ハ首  
 都取締ノ民政官ヨリ願ヒ出ルニ非サレハ聽濟ニ爲ス可カラヌ又スコ  
 ットランドニ於テハ右ノ貧民ノ屬スル教會地ノ在ル郡ノ長官或ハ平  
 和廳ノ治安裁判役二名ヨリ願ヒ出ルニ非サレハ聽濟ニ爲ス可カラヌ  
 此治安裁判役カ或ハ司法官又ハ此郡長カ或ハ治安裁判役ハ右ノ貧民  
 或ハ移去セラル可キ家族ノ長タル者ニ面接シテ其人々皆健康ニシテ  
 移去ニ依テ身體或ハ心情ノ害ヲ受ク可キ有様ニ非サルヤ否ヲ問ヒ明  
 ラム可キナリ命狀ハ其貧民ノ姓名年歳ヲ記載シ加フルニ康健及ヒ今  
 迄ノ住所等ノ委細ヲ具シテ救助ノ役人或ハ其他ノ役人ニ依テ願ヒ出  
 ルニ非サレハ許ス可カラヌト其第二節ニ見エタリ命狀ノ寫書ハ移去  
 ノ先方ノ連合地ニ於ケル教會廳衆或ハ書記官ニ送り遣ス可シ命狀ニ

記載セシ貧民ヲ受取ラサルニ於テハ十[ボソド]ノ過料ヲ以テ罰セラル  
 可シ又女及ヒ十四歳以下ノ兒ハ十月一日ヨリ三月三十一日迄ハ甲板  
 旅客トシテ移去セラル可カラヌト其第七節ニ見エタリ

移去ノ事ニ關スル決議書ニ記載セル住居ノ事ニ就テ疑難ノ起リシヲ  
 以テウキクトリヤ女王二十七年八年ノ決議第百五篇ニ左ノ説明ヲ爲  
 セリ貧民爾後其本貫ノ教會地ニ非サル連合地中ノ教會地ニ於テ救助  
 ス可キ者ト爲リタル時ニ於テハ其本貫ノ教會地ニ住居シタル時間ハ  
 若シ同シ連合地ノ中ナリハ右ノ條例律法中ニ其者移去ノ制外タルニ  
 必須ナル住居ノ時間ノ算計中ニ之ヲ入ル可カラヌト云ヘリ

第十二節 教會地貫籍ノ事

千八百三十四年以來ハ備ハレ使用セラレタルコトニ依テハ其貫籍ニ入  
 ルヲ得ヌ又其教會地ノ役人トナリタルコトニ依テモ其貫籍ニ入ルヲ得



又借地ヲ得ルトモ一箇年ノ救貧税ヲ拂フニ非サレハ之ヲ得ス又教會地中ニ産業或ハ利分ヲ持テタルニ依テハ之ヲ得ス之ヲ得ルハ唯其十マイル内ニ住居スルノ間ノミ又航海ノ役ニ年季ト爲リ居ルコトニ依テハ之ヲ得ストウヰルレム第四世四年五年ノ決議第七十六篇第六十四節ヨリ第六十八節ニ見エタリ

此決議ノ行ハル、時ニ傭仕ノ約定ヲ爲シタリト未タ成ラザリシ者ハ貫籍ニ入リタル者ト爲スカラス又航海ノ役ニ年季ト爲リテ未タ期限ノ終ラサル者モ同様ナリト其第六十五節ヨリ第六十七節ニ見エタリ

新法ノ決議ニ關係無ク入籍ヲ得ルノ做法ハ第一ニ出生ニ依テ第二ニ父母ニ依テ第三ニ婚姻ニ依テ第四ニハウヰルレム及ヒマリイ女王同治ノ三年ノ決議第十一篇ニ屬スル年季修業ニ依テナリ

第一 出生ノ地ハ無論ニ貫籍ノ場所ナルコトニテルム、レホルド第六卷第六百五十三面ニ見エタリ故ニ私生ノ子ハ法律上ニテ父無キヲ以テ其母ヨリ貫籍ヲ受ケ來ルニ非サレハ出生ノ地ノ貫籍ニ入ルナリ然レニ千八百三十四年八月十四日以後ニ生レタル私生子ハ十六歳ニ達スル迄ハ其母ノ貫籍ヲ嗣キ或ハ其自身ノ權利ニ於テ貫籍ヲ得トウヰルレム第四世五年ノ決議第七十六篇第七十一節ニ見エタリ

第二 嫡生ノ子ハ自身ニ新貫籍ヲ得ル迄ハ其父母ノ貫籍有ル教會地ニ於テ貫籍ニ入ル若シ其父母新貫籍ヲ得ル時ハ其子モ亦之ニ從ヒテ其父ノ貫籍ニ屬ス或ハ父死去ノ後ニハ其母ノ寡居スル間ハ母ノ貫籍ニ屬ス或ハ其子成人シテ貫籍ヲ得ル迄ハ亦然ルナリ

第三 婚姻ニ依テ新貫籍ヲ得可シ其故ハ女タル者他ノ教會地ニ貫籍有ル男ニ婚スル時ハ其處女タル時ノ貫籍ヲ變スレハナリ蓋シ法律ニ



夫婦別居ヲ許サ、ルヲ以テナリ妻ハ庇護ヲ受ケ居ルノ間ハ其夫ト殊別ノ貫籍ヲ得ル能ハス是ヲ以テ裁判役某ノ公事ヲ裁決シテ曰クイン  
 グランドノ女ニテスコットランド或ハアイルランドノ國人ニ婚スル者ハイングランドニ於ケル教會地ノ救助ニ就テノ總テノ權利ヲ失ヒ窮困シテ救助セラル可キ事變ニ遭遇スル時ハ其夫ノ出生セシ所ノ國ニ引渡サル可シ或ハ其夫ニ棄去ラレタル場合ニ於テハ其女ノ婚姻以前ニ貫屬セシ教會地ニ移去セラル可シ

第四 年季修業ニ約束セラレ人ノ徒弟トナル時ハ四十日以來勤メ居タリシ所ノ貫籍ヲ與フ

貫籍ヲ得ル其他ノ做法ハ甲乙二類アリ即チ甲類ハ一年十「ポンド」ニ値スル借地ヲ借受ルニ依テナリ乙類ハ産業ヲ有スルニ依テナリ此ノ甲類ハ前ニ記載セシ如ク唯一箇年間ノ救貧稅ヲ出シタル時ニ始メテ

固定ト爲ルナリ乙類ハ十「マイル」内ニ住居ヲ爲セル時ニ始メテ固定ト爲ルナリ産業ノ持主タル事ニ就テハ其價值何程少ナクモ若シ法律上ノ作用ニ依テ得ラレハ貫籍ヲ與フ精シク言ヘハ讓渡、贈物、トク婦資ニ依ルナレハ此貫籍ヲ得ルナリ然レモ若シ買受等ノ如ク自身ノ作用ニ依テ得ルナレハ其人其處ニ住居セサル以上ハ其價值三十「ポンド」ナルニ非サレハ此貫籍ヲ得サルナリ

無益ノ爭訟ヲ歇メンカ爲メニ大綱ノ條例二箇條ヲ建議セラレタリ其第一條ハ新貫籍ヲ得レハ必ス其舊貫籍ヲ廢ス蓋シ一度得タル貫籍ヲ廢滅スルノ方法ハ唯是レノミナリ其第二條ハ欺詐強迫ニ依テ作リタル貫籍ハ決シテ本筋ノ者ニ非ラストス

第十三節 流寓貧民救恤ノ事

流寓貧民ノ救助 貫籍條例ノ下ニアル此種ノ貧民ノ權利ハ千八百四



十六年救貧法委任官ノ稟報ニ左ノ如ク定メテラレタリ貧民救助ニ關スル條例上ニテハ貫籍ニ拘ハラズ救助ヲ受ク可キ權利ヲ與フ可シ又總テ窮乏ナル人ハ其在ル處ノ教會地ノ入費ニテ救助セラル可キ權利有リ此權利先ツ一應ハ十分ナル者トス然レモ若シ右救助セラル、人他ノ教會地ノ貫籍有ルナラハ今救助ス可キ教會地ノ役人ノ料簡ニテ之ヲ其貫籍ノ教會地ニ移去スルヲ得ルナリ此故ニ一定ノ條例ニ從フ時ハ漂泊ノ貧民ノ首都或ハ鄉村ノ教會地ニ於テ救助ヲ請フ者ハ其身其地ニ貫籍ヲ持タストモ若シ窮乏ナル時ハ其處ニ於テ教會地ノ救助ヲ受クルヲ要スト云ヘリ委任官更ニ亦説明シテ曰ク漂泊人無宿人ノ其教會地ニ貫籍無キ者窮乏ノ故ヲ以テ救助ヲ願ヒ出テハ現在ノ條例ニ依テ之ヲ救助ス可キ義務有ルコトハ疑ヲ容レスト云ヘリ此義務ハ等シク國ノ總テノ部分ニ及フ首都ノ教會地ノミナシス鄉村ノ教會地モ亦

之ヲ守ル可キナリ千八百三十七年八年九年ニ救貧法委任官ノ管理ヲ經シ前ニ於テヤ漂泊人ハ其教會地ニ於テ貫籍無キ故ヲ以テ救助ヲ拒ミシコト首都ノ教會地ニ於テ一般ノ習俗ナリ此習俗ハ委任官ノ處置以來頗ル變化シテ救助ノ事ニ就テ貫籍アル貧民ト否ラサル貧民トノ差別少ナク爲リタリ然シナカテ委任官ノ處置ハ唯ロンドンノ教會地ニ於テ惡シク行ハレタル習俗ヲ改革シ向後ハ條例ト實地トヲシテ一致ナラシメシノミ敢テ條例ヲ變更セシニ非ラス

第十四節 貧民埋葬ノ事

貧民ノ埋葬 貧民ハ其死セシ處或ハ其死骸ノ在リシ地ニテ埋葬セラ  
ル可シ其費用ハ其者本貫ノ教會地ニ掛ケラル可シ但シ其者ノ遺言カ  
或ハ其親族ノ者ヨリ自身ノ教會地ニ埋葬セラレタキ志願ヲ言ヒ出ル  
者ハ格別ナリトス埋葬ハ寺ノ墓所或ハ其他ノ清淨地ノ内タル可シ埋



葬ノ手数料ハ救貧税ノ内ヨリ拂ハル可シ救貧法ノ役人貧民ノ埋葬ニ依テ金錢ヲ償ヒ取リ或ハ約定ヲ行ヒ或ハ解剖ノ爲メニ死體ヲ賣ル等ノ事ヲ爲セハ五ポンドニ過サル過料ニ屬ストウヰクトリヤ女王七年ノ決議第百一篇第三十一節ニ見ユタリ

ウヰクトリヤ女王十三年四年ノ決議第百一篇ニ依テ教會地或ハ連合地ノ保護人ハ救貧法廳ノ許可ヲ經レハ寺ノ墓所或ハ清淨ノ葬地ニシテ職場ノ建設アリ或ハ組合中ノ他ノ教會地有ル地所ヲ廣ムル爲メニ救貧税或ハ共有ノ積金ヨリ其金ヲ助成スルヲ得可シ又職場中ニテ死シタル者ヲハ其親族中ニ之ヲ拒ム者無ケレハ其内ニ埋葬スルヲ得可シトス

第十五節 スコットランド并ニアイルランドノ貧民ノ事

スコットランド及ヒアイルランドノ貧民 ウヰルンム第四世三年四

年ノ決議第四十篇ニ左ノ事ヲ命セリ監督及ヒ聖會保長ヨリ歎願有ルニ於テハ治安裁判役二名ニテスコットランド及ヒアイルランドノ貧民ノ救助セラル可キ者トナリテイングランドノ中ニ貫籍ヲ得サル者ヲ其出生ノ地ニ移去スルヲ命スルヲ得可シ其移去ハ四季會議ニ於ケル治安裁判役ニ依テ指揮セラレタル做法ニテ海路ニテモ或ハ陸路ニテモ爲ス可シ其費用ハ最初ニ歎願セル教會地ヨリ辨ヘ置テ後ニ郡税ヨリ償フ可シ都府郡邑及ヒ其他ノ郡税ヲ出サ、ル地ハ右ノ移去ノ費用ヲ償フ爲メニ殊特ノ課税有ル可シトス

第十六節 私生ノ事

ウヰクトリヤ女王七年八年ノ決議第百一篇ニ依テ若シ單身ノ婦人私生ノ子ヲ懷妊シ居リ或ハ産出スル者或ハ此決議ノ行ハル、六箇月以前ニ産出セシ者ハ産出ノ前ニテモ或ハ其後十二箇月以内ニ於テモ或



ハ其後何時ニテモ其父ト定メラレタル者ヨリ出産ノ後十二箇月以内  
ニ其子ノ養育料ヲ出セシ確證有ルニ於テハ其婦ノ住居スル地ノ治安  
裁判役ニ願ヒ出テ其父ヲ六日以内ニ小聚會ニ出ツ可キ旨ノ呼出シヲ爲  
スヲ得可シト其第二節ニ見エタリ

小聚會ノ治安裁判役ハ此母或ハ此母ヨリ申立ル他人ノ證據ヲ聞糺シ  
又其父ト定メラレタル者ノ證據ヲモ聞糺ス可キナリ而シテ若シ其母  
ノ證據他ノ證ニ依テ愈々確實ト爲リ治安裁判役之ニ満足スル時ハ此事  
件ノ総テノ景狀ヲ見合セテ其父ト定メラレタル者ヲシテ其母ニ或ハ  
治安裁判役ヨリ命セラレテ其子ヲ養育スル者ニ毎週ノ會計ニテ其入  
費ヲ拂ハシム可キ命令ヲ下スヲ得可シ但シ訟費并ニ産婆ノ入費十シ  
ルリング及ヒ(若シ此命令ヲ下ス前ニ其子死セシナラハ)其埋葬ノ入費  
十シルリングヲ其内ニ算入スルナリ若シ出産以前或ハ出産後曆法二

箇月ノ内ニ其母ヨリ願ヒ出ル時ハ右毎週ノ會計高ハ初メノ六週間毎  
週五シルリングヲ過サル割合ニテ出生ノ日ヨリ算計ス可シ他ノ場合  
ニ於テハ願ヒ出ル時ヨリ毎週二シルリング六ペンスヲ過サル拂ヒテ  
爲ス可シ若シ其父ト定メラレタル者命令アリテ後曆法一箇月ノ間ノ  
拂ヒテ忘ル時ハ之ヲ補フ可キ緝捕狀ヲ出ス可シ而シテ猶ホ頑固ニ之  
ヲ拒ムナラハ其家財ヲ賣却シテ其當然ノ拂ヒニ入費ヲ添ヘテ之ヲ償  
フ可シ但シ其間ハ若シ賠補ノ命狀ニ七日以内反命無クハ七日間禁錮  
シ置カル可シ若シ拂ヒ残り及ヒ入費ヲ償フニ足ル程ノ賠補物品無キ  
時ハ其父ト定メラレタル者曆法三箇月ニ過サル時間或ハ拂ヒ残り及  
ヒ費用ノ拂ヒ濟ム迄懲惡院ニ送り入レラル可シ然シナカラ若シ其婦  
十三週以上ノ間相次テ拂ヒ残り有ルヲ治安裁判役ニ願ヒ出テス棄置  
クナラハ十三週以外ノ分ハ之ヲ回復スルヲ得スト其第三節ニ見エ



タリ

稽査官ノ都合ヲ以テ私生ノ訴訟ヲ幾度モ延期スルヲ得可シ出生ノ後  
 呼出シ有リテヨリ四十日内ニ願出タルニ非サレハ命令ヲ下ス可カラ  
 ス父ト定メラレタル者ハ裁判及ヒ命令ノ後二十四時内及ヒ入費ニ足  
 ル程ノ抵當ヲ與ヘタル後七日内ニ其子ノ母タル者ニ知告ヲ爲シ置テ  
 四季會議ニ上控スルヲ得可シト其第四節ニ見エタリ  
 命令有リシ金ハ其母喪心或ハ入牢或ハ流刑ノ者ニ非サレハ則チ之ニ  
 拂フ可シ若シ母死去或ハ受取ルヲ得サル場合ニ於テハ其金ハ治安裁  
 判役ヨリ命セラレテ其子ヲ預リタル者ニ拂フ可シ支銀ノ命令ハ唯其  
 子ノ十三歳ニ達シタル迄或ハ其死去迄或ハ其母ノ死去迄ニノミ行ハ  
 ル可キナリ

私生ノ子ヲ養育スルヲ得ル婦人ニシテ之ヲ棄去リ或ハ養育スルヲ怠

リ依テ其子救助ス可キ者ト爲ル者ハ乞丐及ヒ無宿者トシテ罰セラル  
 可シ  
ロキニ  
 フラガント

教會地ノ役人ハ私生ノ子ノ委託ヲ受ケ或ハ其養育ノ爲メニ金錢ヲ受  
 ケ或ハ命令ノ出願ニ立チ交ハリタル等ノ事有レハ必ス四十シルリン  
 グノ過料ヲ以テ罰セラル可シ役人私生子ノ母ノ婚姻ヲ抄取ラセ持ヘ  
 ント求ムル者ハ輕罪ヲ犯ストス又私生子ノ養育ヲ命セラレタル者其  
 金ヲ濫用シ其子ニ相當ノ食事ヲ與ヘス或ハ之ヲ惡シク取扱ヒタル者  
 ハ十ポンドノ過料ニ屬スト其第八節ニ見エリ

現存ノ命令ハ此決議ニ關涉無シ然レモ千八百三十四年ノ八月以前ニ  
 爲セル命令ハ千八百四十九年ノ一月一日ニ歇ム可キナリ

此決議ハウヰクトリヤ女王八年ノ決議第十篇ニ依テ説キ明カサレ且  
 ツ布命令ノ其體裁闕畧ナルヲ以テ効ナキ所ニハ其母ヲシテ六箇月内



ニ再ヒ願ヒ出ルヲ得セシム上控ニ於テハ其母検査セラル、ヲ得可シ  
雙方ノ者ハ訴訟相談人或ハ名代ニテ聞糺サル、ヲ得可シ欺詐ヲ搆ヘ  
テ満足ノ賠補ヲ爲スヲ怠ルニ於テハ其父牢舎ニ送ラル可シ  
私生ノ子ヲ連レタル女ヲ娶ル男ハ其子十六歳ニ達スル迄ハ嫡生同様  
ニ之ヲ養育セサルヲ得ス

第十七節 教會地ノ學校及ヒ教育ノ事

ウヰクトリヤ女王七年八年ノ決議第百一篇第四十節ニ依テ救貧法委  
任官ハ何レノ連合地或ハ教會地ヲモ連接シテ學區ヲ作り貧兒ノ十六  
歳以上ナラスシテ孤子ト爲リ或ハ其父母ニ棄テレ或ハ父母承知ノ上  
學區ノ學校ニ入レ置ク等ノ者ヲ教育スル爲メニ其設ケヲ爲スヲ得可  
シ教會地必ス其距離十五マイルニ過サル學區ノ内ニ編入セラル可シ  
又何レノ教會地ニテモ其地殊特ノ法有ル者或ハ人口二万人ニ過クル

者ハ書面ヲ以テ保護人過半ノ承諾有ルニ非サレハ編入セラル可カラ  
ス

ウヰクトリヤ女王十一年二年ノ決議第八十二篇ニ依テ上ニ言ヘル學  
區ノ限界及ヒ學校造營ノ費用ノ定限ハ廢セラレタリ是レ一組合ニ非  
サル諸組合地或ハ諸教會地連合ヲ企メテシ時其保護人大半豫メ右ノ  
連合ニ同意ナル由ヲ書面ヲ以テ一定ス可キ時ニ此連合ヲ妨ケント願  
フ者無カラシメシカ爲メナリ

此決議ニ學區中ノ諸學校ニ諸組合地ヨリ平均ノ助成ヲ爲スニ關ス  
ル丈クハウヰクトリヤ女王十三年ノ決議第十一篇ニ左ノ事ヲ令スル  
ニ依テ廢セラレタリ其決議ニ曰ク救貧法廳ハ右ノ學區ヲ造立セル前  
ノ三月二十五日迄前三箇年ノ間右學區ト爲ル各組合地及ヒ教會地ニ  
於テ貧民救助ノ一年平均ノ費用及ヒ其會計ニ就テ検査ヲ爲サシム右



費用ノ内ニハ貧民救助ノ入費及ヒ其手當ニ掛リタル總テノ役人ノ俸給ト其他之レニ等シキ通常ノ費用等ヲ算入ス可シ而シテ廳衆ヨリ命令ヲ以テ斯ク算定セル各地ノ平均高ヲ布告ス可シ右命令ノ出タル後ニ此學區内ニ入リタル諸連合地及ヒ諸教會地ヨリハ右命令ニ布告セル平均高ノ割合ニ隨テ助成ス可シ此事ハ後日別ニ廳衆ノ命令有リテ變革スル迄ハ其儘ニテ行ハル可キナリ委任官若シ便宜ナリト思ハ、新規ノ平均高ヲ布告スル爲メニ新ニ檢査ヲ指揮スルヲ得可シ

學區取扱ヒノ廳衆コテ取集ム可クウヰントリヤ女王七年八年ノ決議第百一篇ニ依テ命セラレタル金高ニ加フルニ學校ノ敷地或ハ校中ニ養フ子供ノ教習或ハ右學校附屬所ノ敷地等ノ爲メニ必須ナル其餘ノ金高ヲ取集ム可キ權ヲ許スコハウヰントリヤ女王十三年四年ノ決議第百一篇第三章ニ見エタリ

首都取締シ持場内或ハロンドンノ都中或ハリブルプールマンチオストルプリストルリッヅビルミンゴハム等ノ府邑中ニ窮乏無宿ノ體ニテ居ル貧民ヲ一時救助スルノ爲メ及ヒ整嚴ナル職場ニ傳染病ノ移リ入ルヲ防シ爲メニ委任官ハ窮乏無宿貧民ノ罪科無キ者ニシテ救助ヲ願ヒ出テ或ハ救貧稅ニテ救助ス可キ者ト爲リタル者ヲ救助シ且ツ工作セシム可キ爲メニ別ニ持場貧院<sup>ザストリクインツシム</sup>ヲ造立スルヲ得可シ

持場ノ廳ハ學校及ヒ貧院ノ取扱ノ爲メニ造立セラル可シ其議員ハ四十ポンドノ一年ノ眞價ニ過サル身分柄ナル出稅人ニテ保護人ニ依テ三年ノ年限ニテ選舉セラレタル者ナル可シ若シ保護人ニ依テナスハ監督ニ依テ選舉セラレタル者ナル可シ保護人衆ノ議長ハ若シ自ラ承諾セハ役柄ヲ以テ持場廳衆ノ議長タル可シ

持場廳衆ノ議員ハ委任官ニ屬シテ通常保護人ノ權ヲ有ス可シ而シテ



俸給アル役人ヲ命シ且ツ教長ノ承諾ヲ以テ各廳毎ニ少ナクモ一名ノ  
牧師ヲ命スルヲ得可シ學校或ハ貧院ノ入寮人ハ自分ノ宗旨或ハ父母  
親族ノ宗旨ニ反シタル教法ノ勤メニ出席ス可キヲ強ヒテ命セラル  
可カラズ他宗ノ牧師モ規則ニ隨テ適宜ノ時ニ學校或ハ貧院ヲ見舞フ  
ヲ得可シ政府ノ検査官ハ學生ノ成業ヲ見定ムル爲メニ學校ヲ見舞フ  
ヲ得可シ

學校及ヒ貧院ノ地所及ヒ家屋造立或ハ賃借ノ爲メニ金錢ヲ取立ルヲ  
得可シ然シナカラ其高ハ貧民救助ノ平均一年ノ費用五分ノ一ニ過ク  
可カラズ且ツ二十箇年ノ内ニ返濟セラル、ヲ要ス保護人ハ貧院ヲ見  
廻リ及ヒ検査ス可シ學區ノ内ニ入ラサル教會地若シ二十「マイル」餘距  
ヲサレハ子供ヲ其學區内ノ學校へ送り入ル、ヲ得可シ  
窮乏ノ甚キ體ナル貧民ニテ持場内ノ教會地中ニ貫籍無シト云フ者ハ

一時ノ救助及ヒ工作ノ爲メニ貧院ニ入ル、ヲ許ス可シ捕官ハ窮乏ノ  
民ノ無宿ナル者ヲ案内シテ貧院ニ連レ行ク可シ

夜中食物及ヒ宿寓ノ救助ヲ受タル者ハ明朝自ラ去ラントスルノ意ア  
シハ朝飯時又ハ其後四時ヨリ長ク之ヲ抑留ス可カラズ但シ不行跡ノ  
故ヲ以テ法律上ニ罰ス可キ者ト爲リタルハ此限ニ在ラズ貧院ニ於テ  
救助ヲ受タル者ハ職場ニ於テ救助セラレタル者ト同シク亦夫々ノ責  
任ヲ負フナリ貧院ノ取設ク有リテ保護人監督或ハ救助ノ役人等ハ至  
急必須ノ場合ニ於テ速カニ貧民ヲ救助ス可キ現在ノ義務ヲ通シサル  
者トス

其他貧兒ノ教育保養ヲ備具スル爲メニウカクトリヤ女王二十五年六  
年ノ決議第四十三篇ニ保護人ヲシテ貧兒ノ救貧法廳ノ證書有リテ且  
ツ従前情願ノ捐銀ニ依テ全分或ハ二分ヲ支持セラレタル者ヲ學校ニ



送ルヲ得セシム但シ其兒ハ取扱人之ヲ受取ルヲ拒マス且ツ若シ之ヲ  
職場ニ於テ救助スルナラハ其時間ニ掛ル可キ程ノ金高ニ過サル是迄  
ノ諸費用ヲ拂フヲモ拒マサル者ナル可シ學校ハ何時ニテモ救貧法廳  
衆ノ検査ヲ受ク可シ之ニ選ハル可キ者ハ唯孤兒ト其親ノ承諾セル兒  
ノミナル可シト其第六節ニ見エタリ又其宗門ニ非サル宗旨ヲ以テ教  
導セラル、學校ニハ決シテ兒ヲ送ル可カラス

第十八節 教會地ノ會議衆ノ事

教會議ハ放開ノ制アリ選擢ノ制アリ放開トハ教會地ノ人其稅ヲ拂ヒ  
タル者ハ誰ニテモ之ニ出席スルヲ得可キヲ謂フ而シテ此教會議ニ附  
セラレタル總テノ事件ハ投言ノ多分ニ隨テ決セラル、ヲ要スルナリ  
選擢ノ教會議ハ其人員ニ限リアリテ其權ハ教會地ノ事務ノ取扱ヲ若  
干人ニ委任スル古來ノ習俗ヨリ來ルモ有リ又議事院ノ決議ヨリ來ル

モ有ルナリ此ニ於テハ議院ノ空位ハ會議人新員ヲ選舉シテ之ニ充ツ  
ルモ有リ又教會地ノ人之ヲ選充スルモ有ルナリ  
シオルシ第三世五十八年ノ決議第六十九篇ニ依テ教會議ニ於テ居民  
ノ衆會ハ寡ナクモ三日前ヨリ知告有リシニ非サレハ施行ス可カラス  
ト定メタリ然レモウキトリヤ女王一年ノ決議第四十五篇ニ依テ教  
會議ノ衆會或ハ他ノ事件ニ就テ知告ノ公布ハ神事ノ時或ハ其後ニ禮  
拜堂ニ於テ爲ス可カラス或ハ神事ノ結末ニ禮拜堂ノ戸前ニテ爲ス可  
カラス是迄通常神事等ノ時或ハ後ニ與ヘタル知告ハ以來禮拜堂ノ門  
戸ニ貼付置カル可シ會議ヲ爲スノ知告ハ禮拜堂ノ聖會保長ニ依テカ  
或ハ右教會地ノレクトルブ<sup>ブ</sup>カル或ハキニ<sup>レ</sup>ト又ハ右教會地ノ貧民ノ  
監督ニ依テ署名セラル可シ布令等ノ書付ハ禮拜堂ニ於テ讀上ク可カ  
ラス然シナカラ此決議ハ婚姻ノ布告ニハ關涉セス又神事ニ關スル諸



般ノ知告ニモ及ホサ、ルナリ  
 ウヰクトリヤ女王十三年四年ノ決議第五十七篇ニ人口二千人ニ過ク  
 ル地ニ於テハ聖會保長ヨリ其教會地會議衆ノ主意ニ一致シテ救貧法  
 廳へ願ヒ出テタル上ハ教會地ノ禮拜堂ニ於テ教會議等ヲ爲スコハ教  
 法ヲ讀ス者トシテ之ヲ禁スルヲ得可シ救貧法ノ委任官及ヒ會議衆過  
 半ノ許可ヲ以テ命令ノ布告アリテヨリ後ハ教會議及ヒ他ノ通常衆會  
 ノ爲メニ教會地内ニ別ニ會所ヲ設クルヲ得可シ其第六節ニ依テ人口  
 二千人ニ過クル教會地ニ於テハ教會議書記官ノ選舉及ヒ其俸給ハ願  
 ヒ出ノ上委任官ノ命令ニ依テ裁制セラル可シ右ノ命令ニ隨テ選舉セ  
 ラレタル教會議書記官ハ會議衆ノ決議及ヒ救貧法廳ノ許可ニ依テノ  
 外ハ免職スルヲ得ス其第七節ニハ教會議書記官ノ職務ヲ詳載セリ教  
 會議書記官ノ俸給ハ委任官ニ依テ定メラル可シ

教會議ノ衆會ニ於テ各住人ノ救貧税五十ポンド以下ヲ出ス者ハ一投  
 言ヲ爲スヲ得五十ポンド或ハ其以上ナル者ハ過量毎二十五ポンドニ  
 就テ更ニ一投言ヲ爲スヲ得可シ但シ一人ニ就テ六投言ヨリ多クハ爲  
 スヲ得ストシオルヨ第三世五十八年ノ決議第六十九篇第三節ニ定マ  
 レリ  
 教會議ニ於テ若シレントルブガカル或ハ定役ノキニレト出席無キ時ハ  
 投言ノ最多數ニ依テ議長ヲ命ス可シ可否ノ投言等分ナル時ニ於テハ  
 議長ハ其出税ノ故ヲ以テ得タル投言ノ外ニ更ニ一方ニ決定スルノ權  
 アリ  
 シオルヨ第三世五十九年ノ決議第十二篇ニ依テ教會地ノ人ハ貧民ノ  
 事務取扱ノ爲メニ教會地内ノ儘カナル家持或ハ借地人二十名ヨリ多  
 カラヌ五名ヨリ寡ナカラサル人員有ル選擢會議衆ヲ命スルヲ得可シ



其内何人ヲ問ハス三名ヲ以テ成會員ト爲ス但シ其内ノ二名ハ監督ニ  
 非ラス又聖會保長ニ非ヤル者ナル可シ此成會員出席アレハ貧民ノ景  
 況ヲ検査シ及ヒ救助ニ至當ナル事務ヲ決定スルニ足ルナリ  
 選擢會議衆ノ事爲ハ其詳細ヲ記シ置ク可シ此レハ其事爲ノ稟報ト共  
 ニ毎年三月及ヒ十月ニ執行セル通常會議ノ時ニ住民ノ前ニ出シ置ク  
 可シ

教會會議ニ於テ聚會セシ教會地ノ人多半ノ決定スル事件ハ全教會地ノ  
 守ル可キ者トス且ツ其會議ヲ爲スニ相當ノ知告有リシ上ナラハ出席  
 ノ人員ハ何程寡ナクトモ其事爲ノ固定ナルコトハ之ニ拘ラサルナリ  
 救貧法ノ條例中ノ教會會議ト云フ語ノ意義ハ放開ナルモ習常ナルモ又  
 ハ選擢ナルモ或ハ其知告有テ施行セル住民ノ集合ナルモ概シテ之ヲ  
 教會會議ト云フ此教會會議ニテ貧民或ハ救助ノ税ニ就テノ事務ヲ取扱ヒ

或ハ論議ス可キ者ナリトウヤルレム第四世四年五年ノ決議第七十九  
 篇第九節ニ見エタリ

救貧法委任官ハ會議ノ管理及ヒ嚮導ノ爲メニ規則ヲ作ルヲ得可シ又  
 委任官及ヒ補佐委任官ハ論議ニ出席シ且ツ加ハリ論スルヲ得可シ然  
 レモ投言スルコトヲ得サル可シト其第十五節第三十一節ニ見エタリ  
 シオルジ第三世五十八年ノ決議第六十九篇及ヒ五十九年ノ決議第八  
 十五篇中ニ其税ヲ拂ハサリシ人ヲハ教會會議ニ投言スルヲ得セシメザ  
 リシ諸節ハウヤリトヤ女王十六年七年ノ決議第六十五篇ニ依テ改  
 正ス其決議ニ左ノ事ヲ命セリ曰ク此決議ニ隨テ施行セル教會會議ノ集  
 會ニ於テ投言ス可ク或ハ出席ス可キ者ハ必スシモ右集會ノ直チニ前  
 三箇月内ニ出ス可キノ貧民救助税ヲ拂ヒタル者ニ限ル可カラスト云  
 フ



## 第十九節 ホブハウス氏教會長ニ付決議ノ事

ウヰルレム第四世一年二年ノ決議ナルホブハウスノ教會議ノ決議書第六十篇ニ依テ教會地ノ人ハ其教會議立制ヲ變シ且ツ會計ノ統計者ヲ命スルヲ得可シトス又此決議ハ別ニ些ノ規則及ヒ例外ノ事ヲ具ヘテイソングランド及ヒウエルス中ノ何ソノ教會地ニ於テモ取用ユルヲ得可シ其詳ハ下ニ記載スルカ如シ出税人ノ五分ノ一或ハ五十八ニ滿ツル人數有レハ十二月一日ト三月一日トノ間ニ銘々ノ姓名及ヒ宿所ヲ記シテ願書ヲ聖會保長ニ出シ此決議ヲ取用ユルニ出税人ノ許可スル者多分ナリヤ否ヲ定ムル爲メニ衆會ヲ爲ス可キヲ請フヲ得可シ此願書ヲ受取リテ後次ノ日曜日ニ各所ノ禮拜堂ノ門戸ニ於テ會期及ヒ其場所ノ公告ヲ爲ス可シ但シ出税人ヲシテ此決議ヲ取用ユル可否ヲ投言ニ依テ言ハシムル爲メニ其期日ハ其公告ノ日ヨリ起算シ十日

ヨリ早カル可カラス二十一日ヨリ遅カル可カラス投言ハ三日間續キテ朝八時ヨリ午後四時迄ノ間ニ受取ル可シ出税人ノ過半ノ投言有ルヲ要ス而シテ其投言ノ三分ノ二此決議ヲ可トスル者有レハ即チ之ヲ取用ユルヲ布告ス可シ出税人ハ一箇年ノ間救貧稅ヲ割リ付ケラレ且ツ投言ノ日ヨリ六箇月前ニ割リ付ケラレタル教會地ノ諸稅ヲ拂ヒシニ非サレハ投言スルヲ得ス教會議衆ハ家持ノ出税人一千ニ過サル場所ニ於テ住居ノ家持十二名ヨリ寡ナカラサル人員有ルヲ要ス若シ一千人ヨリ多キナラハ教會議人二十四名ヲ選舉ス可シ若シ二千人ニ過ルナラハ教會議人三十六名ヲ選舉ス可シ右ノ割合ニテ出税ノ家持每一千人ニ教會議人十二名ノ附加有ル可シ然レモ教會議人ノ數何時ニテモ百二十名ニ過ク可カラス但シ議事院ノ特決議ニ依テ更ニ多クノ人數ヲ定メタル所ニハ格別ナリトス此決議ニ亦主計者ノ選舉及



ヒ施惠取扱ノ制ヲ定ム然レハ是レハ出税人八百人ヨリ多カラサル教會地ニハ關係セス但シ右ノ教會地ノ何レカノ都府ノ内ニ在リ或ハ其部分タル者ハ格別トス此決議ニ隨テ選舉セラレタル教會議衆ハ救貧法委任官ノ嚮導ニ隨テ教會地救助ノ法制ヲ命令スルヲ得可シトス此決議首都ノ中ニ有ル教會地ノ事ニ關係スル箇條ハウヰクトリヤ女王十九年二十年ノ決議ナル千八百五十五年地方取扱ノ決議書第二百十篇ニ依テ廢止セラレタリ

第二十節 救貧税課定ノ事

救貧税ハ貧民ヲ救助シ及ヒ保養スル爲メニイリサハス女王四十三年ノ決議第二篇ニ依テ課賦セラレタル掛リナリ通例教會地内ニ在ル各般所有ノ産業ハ實産業ニモセヨ浮産業ニモセヨ之ヲ借用ユル人有リテ之ヨリ年々利分ノ納マル者ハ課税ス可キナリ税額ヲ定ムルノ權ハ

聖會保長及ヒ監督チーフマンニ屬ス或ハ其過半ノ人員ニ屬ス而シテ之ヲ定ムル

ニ教會議或ハ其他ノ會議ニテ住民ノ一致同心ヲ求ムルコトハ更ニ穩カ

ナリト雖モ亦必須ニハ非サルナリ

商人ハ其商賣品物ノ價值何程ト定ムルヲ得可ケレハ之ニ課税セラル

可ケレハ耕作人ハ其品物ノ上ニ課税セラル可カラストテルムレボル

ト卷六第百五十四葉ニ見エタリ然レハ商物ニ課税スルコトハ不都合ナ

ル故ニ後年ノ律書ニ依テ此法制ヲ休廢セシメタリ

ウヰルレム第四世三年ノ決議第三十篇ニ依テ總テノ禮拜堂聚會所或

ハ特ニ共同ノ神拜ニノミ供セシ家屋ハ救貧税及ヒ寺税ヲ免除セラ

ル者トス右ノ如キ場所ハ日曜學校或ハ童幼學校ニ用ユルトモ課税ヲ

出ス可キ俗家屋トハ見做サ、ルナリ

河上ニテ取ル關稅ハ統合體ニテ取ル關稅ト同シク皆救貧税ヲ出ス可

コルポレイション



キ者ナリ

船ハ其屬スル所ノ教會地ニ於テ課税ス可キ者ナリ病院ハ救貧税免除

ノ者ナレトモ病院ノ地面ハ之ヲ出ス可キ者ナリ

酒舖ハ公然ノ現住人ナケレハ救貧法ニテ之ヲ酒舖トシテ課税ス可キ

ニ非ラス

人ノ家内或ハ所有ニ在ル金錢ハ課税ス可キニアラス然レモ浮産業ハ

若シ見ルヲ得可キ者ニシテ且ツ永久年々ノ利分ヲ生スルナレハ課税

ス可キナリトアルムレポルド卷一第七百二十七葉ニ見エタリ

國王ノ所有物ハ課税ス可キニ非ラストアルムレポルド卷二第三百七

十二葉アルムレポルドストノ公事ニ見エタリ然レモ此格外

ノ事ハ國王ノ家從ノ借持ナ居テ之ヨリ些ノ利益ヲ受クルカ如キ産業

ニ迄ハ涉ラサルナリ石炭及ヒ石版ノ礦山ハ課税ス可キ者ナリ然レモ

鐵及ヒ鉛ノ礦山ハ免除ノ者トス

寺院ノ十分一税及ヒ寺領地ハ課税ス可キ者ナリ用水及ヒ氣燈ノ會社

ハ課税ス可キ者ナリ鐵道會社モ亦然リ通例總テノ産業其分量ノ計算

スルヲ得ル者ニシテ且ツ其持主ノ之ヨリ利分ヲ受ル所ノ者ハ皆救貧

税ヲ課ス可キナリ

救貧税ヲ課スルニ於テ之ヲ出ス可キノ者ハ家屋地面ノ借受人ニシテ

貸主或ハ地主ニ非ラス然シナカラジオルジ三世五十九年ノ決議第

十三篇ニ依テ教會地ノ會議衆ハ左ノ指揮ヲ爲スヲ得可シ貸家貸坐鋪

ノ賃租二十ポンドニ過キス又六ポンドヨリ寡ナカラスシテ一年ヨリ

短カキ時間ニテ貸サレ、者ヲ所有スル人ハ右ノ家屋寓所ニ就テ救貧

税ヲ課セラル可シ之ヲ借受ル人ニハ課税セサルナリ右ノ借受人ノ貨

物ハ其實ニ拂フ可キ屋賃ノ高程ハ救貧税ノ爲メニ取上ケラル可シ又







リ借受人ノ代リニ其地主ニ課税スルノ權ヲ與ヘタリ而シテ此地主ニ課税スルノ命令ハ施行ヨリ二箇年ノ期限濟ノ後何時ニテモ此事件ノ爲メニ召集メタル教會會議ニ出席人三分ノ二ノ人數ニ依テ廢止スルニ非カレハ續キ行ハル、ナリ然レモ教會會議衆ノ命令ハ其施行ノ後三箇年ノ期限濟ム迄ハ歇ム可カラス地主ヨリ出ス課税ハ借受人出スヨリハ其割合減少ス即チ四分ノ三ノ割合ナレハ其借受人ヨリ寡ナキハ四分ノ一ナリ地主ノ上ニ課スル税ハ若シ之ヲ出サ、レハ品物取上ケ或ハ訴訟ニ依テ之ヲ償フ可キハ借受人ニ於ケルト同法ナリ地主ニ課税スルコトハ借受人ノウキルレム第四世五年六年ノ第七十六篇ノ決議即チ統合體決議ニ隨テ受居ル其土地ノ特權ヲ奪フニ非ラス右ノ如キ小借地ノ地主ハ一年ヨリ長ク貸與スル約ヲ爲ス時ハ其出税ヲ賃租ノ上ニ附加スルヲ得可シ而シテ地主之カ不納ヲ借受人ヨリ償フヲ得ルハ

賃租ノ拂殘リニ於ケルカ如キ同法ヲ用ユルヲ得可シトス此決議ハ其地ノ法令有リテ地主タル者貧民ノ救助ニ責任ス可キ所ノ地ニ於テハ用ヒラレサルナリ

ウヰクトリア女王二十五年六年ノ決議第百三篇ニ依テイングラントノ連合地ニ於ケル諸教會地ノ一様ニシテ正當ナル品位ヲ定ムル爲メニ更ニ切實ナル箇條ヲ備フ凡ソウキルレム第四世四年五年ノ決議第七十六篇ニ隨テ設ケタル各連合地ノ保護人應衆ハ毎年選舉ノ初會ニ於テ已レ等ノ中ヨリ六名ヨリ寡ナカラス十二名ニ餘ラサル人員ヲ命シテ其連合地ノ品位ヲ檢査スル課税ノ委任官ヲラシム可シ但シ其一分ハ役柄ノ保護人其一分ハ選舉セル保護人タル可シ此委任官三分ノ一ハ成ル丈ケ役柄ノ保護人タルヲ要ス連合地若シ一府邑ト同境界内ニ在ル所ニテハ課税委員ノ名ヲ府邑評議衆ニ通達ス可シ府邑評議衆



ハ即チ更ニ其委員ヲ増加スルヲ得可シ保護人應衆ハ委員ノ最初ノ聚會ヲ命ス可シ且ツ保護人ハ何レノ集會ニ於テモ出席スルヲ得可シ然レハ自身其事爲ニ關係スルヲ得ス事爲ハ書冊ニ記載シテ議長之ニ署名シ而シテ應衆ヨリ毎年四月其課稅委員ノ事爲ヲ稟報スルナリ委員ノ過半ヲ以テ成會員ト爲ス可シ委員ハ監督ヨリノ稟報及ヒ租稅ノ出ルヲ要求スルヲ得可シ又其面前ニ出席スル者ヲ檢査スルヲ得可シト其第十三節ニ見エタリ監督ハ品位ノ簿記ヲ具フ可シ而シテ此品位ノ簿記ノ爲メニ總算セル賃租ハ總テノ通常借地人ノ賦稅十一稅ノ金納<sub>コンムニ</sub>賃租ノ諸掛リ等ヲ除キテ其他ノ貸シ賃ナル可シト其第十五節ニ見エタリ

其第十六節ニ依テ委員ハ土地家屋等ノ品位ノ簿記ヲ作ル爲メニ時日ヲ延スヲ得可シ且ツ之カ爲メニ人ヲ命スルヲ得可シ品位ノ簿記ハ貧

民ノ救助ニ出稅スル人ノ檢視ニ備フル爲メニ課稅簿ト共ニ監督ノ方ニ設置セラル可シ何レノ教會地ノ監督ニテモ或ハ何人ニテモ若シ品位ノ簿記ニ依テ苦情ヲ挾ム者ハ其不正ヲ駁シ且ツ其レニ就テ書付ヲ以テ報告ヲ爲スヲ得可シ委員ハ辨駁ヲ聽ク爲メニ集會ヲ爲シテ保護人衆ヨリ更ニ品位ヲ定ム可キヲ指揮ス可シト其第十九節第二十節ニ見エタリ品位ノ定メ許可ヲ得レハ之ヲ監督ニ渡ス可シ教會地中ノ課稅ス可キ產業ノ中ニ附加或ハ變改ノ事有ル時ハ別ニ品位簿記ノ附録ヲ製ス可シト其第二十六節ニ見エリ

其餘ノ諸節ニハ其他ノ決議ニ隨フコト品位ノ事ニ服セスシテ上控スルコト復命費用及ヒ諸雜費ノ償ヒ等ノ事ヲ載セタリ

千八百六十二年ノ會議ニ別段ノ決議有リテ救貧稅及ヒ其他土地ノ諸稅諸掛リニ就テ更ニ節檢ナル償法ヲ設ク可キノ箇條有リウヰ<sub>ウヰ</sub>ントリ



ヤ女王二十五年六年ノ決議第八十二篇ニ依テ其土地ノ數種ノ諸稅諸掛リチ一人ヨリ出ス可キ様ナル場合ナル時ハ右ノ出ス可キ諸稅諸掛リハ通達書呼出狀其他凡テ治安裁判役ニ示ス可キ或ハ治安裁判役ヨリ差出ス可キ諸書付ノ中ニ一緒ニ書込マル、ヲ得可シ但シ右ノ如キ書付ハ其中ニ含有セル各稅各係リノ條ヲ各別箇ノ書付ト見做スヲ要シ其何レノ稅カ或ハ掛リニ正實ナラサル者有リ田其中ニ含有セル他ノ稅或ハ掛リノ正實タルヲ害セス

此決議ノ中ニ品位ノ事ニ服セサレハ上控ス可キ事ニ就テノ箇條ハウヰクトリヤ女王二十七年八年ノ決議第三十九篇ニ依テ改正セラレ且ツ課稅セラル可キ產業ノ正實ニシテ均一ナル品位ヲ定ムル爲メニ更ニ箇條ヲ備ヘタリ上控者ハ其上控ヲ爲サントスル特殊會議或ハ四季會議ニ先テ書付ヲ以テ二十一日前ノ知告ヲ連合地ノ課稅委員ニ與

フ可シ而シテ委員ハ連合地保護人ノ承許ヲ以テ陪答者トシテ出頭スルヲ得可シト其第二節ニ見エタリ監督故意ニ千八百六十二年ノ決議ニテ必須トナレル布告ヲ爲スヲ怠リ或ハ虚偽ヲ以テ之ヲ爲ス者ハ治安裁判役二名ノ前ニテ大略ノ罪有リテ五ポンドニ過カサル過料ヲ科セラル可シ

ウヰクトリヤ女王二十八年九年ノ決議第七十九篇ヲ以テウヰルレム第四世四年五年ノ決議第七十六篇中其組合ノ教會地ヲシテ自己ノ貧民ノ費用ヲ償ハシムル條件ヲ廢止シテ而シテ貧民救助ノ稅賦ヲ更ニ善ク配分スルノ箇條ヲ備フルヲ下文ノ如シ千八百六十六年三月二十五日ヨリ以後貧民ヲ救助シ及ヒ保護人或ハ其役人ノ指揮ニテ死人ヲ埋葬スルノ入費ト種痘及ヒ入簿禮金トノ事ニ就テ保護人ノ使用シタル金高ハ連合地ノ共有積金ノ上ニ掛ケラル可シトス右ノ連合地ニ於



テ救助ヲ受クル貧民若シ他ノ組合ノ教會地ニ貫籍有ル者ナレハ保護人其者ヲ其救助セラレヘキ連合地ニ移去ス可キヲ命スルヲ得可シト其第二節ニ見ユタリ各教會地ノ保護人ハ監督ニ依テノ移去ト同様ニ右ノ移去ニ抗シテ上控スルヲ得可シ保護人ハ相對ノ承諾有レハ命令ナクシテ移去スルヲ得可シ移去セラレタル貧民ニシテ十二月ノ内ニ其連合地ノ中ニ歸リ來ル者ハジオルヲ第四世五年ノ決議第八十三篇ニ隨テ懶惰不行ノ人トシテ罰セラル可シ其第八節ニ依ルコトヨリ後ハ一箇年ノ期限ヲ以テウキトリヤ女王二十四年五年ノ決議第十五篇第一節ノ三箇年ノ期限ノ代リニ取用ユ可シトス訴告ノ入費ハ共有ノ積金ノ上ニ掛ケラル可シ職場ニ於テ死スル貧人ノ最後ノ住所ハ其埋葬ノ地タル可シト其第十節ニ見ユタリ其第十二章ニ依ルニ保護人ハ毎半年ノ間及ヒ終リニ於テ共有積金ノ内ヨリ連合地ニ在ル諸

教會地ノ負擔ス可キ諸入費ヲ支出ス可シ其割合ハ其教會地各共有積金ニ出銀シタル比例ヲ以テス其比例ノ命令ハ半年ノ始メニ於テ右ノ連合地ニ在ル諸教會地ニ下サル、ナリ但シ右期限ノ間ニ教會地ノ品位ノ簿記ニ變改アリトモ其レニハ關セサルナリ他ノ諸件ニ於テモ此定メハ變易セス土地決議ヲ遵行スル連合地ハ其便宜ニ依テ此決議ヲ用ユ可シ

## 第二十一節 首都ノ無家貧民ノ事

千八百六十四年ウキトリヤ女王二十七年八年ノ決議第百十六篇ニ首都ノ全地中ニ在ル無家ノ貧民ヲ救助スル諸掛リヲ分賦スル爲メノ箇條ヲ備フ九月二十九日ノ後ニ教會地或ハ連合地ノ保護人救貧法廳ノ規定ニ隨テ夜八時ヨリ朝八時迄ノ間窮乏ノ旅人漂泊人或ハ孤兒ノ救助ニ於テ日々費用セシ金高ヲ別箇ニ算計シテ之ヲ主計者ニ附ス可



主計者ハ此金高ヲ右ノ救助ニ費用セシテ其理有リト見ル時ハ之ヲ保證ス可シ而シテ救貧法廳ハ此保護人ノ貧民ヲ接待スル相應ノ場所ヲ備ヘタリシヲ保證スルナレハ保護人ハ主計者ニ依テ右ノ如ク保證セラレタル金高ヲ首都工作廳總統ノ内ヨリ償ヒ入ル可キヲ此廳ニ願ヒ出ルヲ得可シ

次年ニ於テウヰクトリヤ女王二十八年ノ決議第三十四篇ハ猶ホ此事件ヲ續ケリ救貧法廳ヨリ人ヲ命シテ四箇月毎ニ一回ヨリ察ナガラズ接待ノ場所ヲ検査セシム其時刻ハ十月ヨリ三月迄ハ夕六時ヨリ朝八時ノ間四月ヨリ九月迄ハ夕八時ヨリ朝八時迄ノ間ナル可シ而シテ其検査ノ書上ケノ次第ニ因リテ従前ノ保證書ヲ廢シ或ハ改ムルヲ得可シ此廳衆ハ従前ノ決議ニ於テ備ヘタル如ク各貧民ノ費用ノ高ヲ一々ニ出サスシテ其費用ヲ概計ノ高ニテ許スヲ得可シ首都取締廳ノ捕官

ハ窮乏ノ人罰ス可キ罪無キト見ユル者ハ自身之ヲ導テ廳ノ免許有ル接待ノ場所ヘ伴ヒ行クヲ得可シ接待ノ場所ニ之ヲ容ル可キ室有レハ右ノ如キ人々ハ一時此内ニ於テ救助ヲ受ク可シ此接待ノ局ハ上ニ記載セシ時間ニ於テ自由ニ検査スルヲ得可シ

### 第二十二節 聖會保長ノ事

聖會保長ハ毎年三月二十八日ニ於テ或ハ其後十四日內ニ於テ牧師若シクハ教會地衆ニ依テ選任セラル或ハ兩方共議ニテ選フモ有リ習俗ノ例或ハ律書ノ命スル所ニ隨フナリ其職掌ハ教會地總體ノ名代ト爲リテ聖會ヲ監護シ僧法ノ譴責及ヒ管理ニ關スル如キ事件ニ於テ教會地人ノ行儀ヲ監視スルニ在リ

聖會保長ヲ選任スル通常ノ做法ハ現任ノ者ヨリ其跡役ヲ嗣ク可キ者二人ヲ書上クルヲナリ然シナカラ此做法ハ之ノミニテ必スシモ他ノ



做法ヲ用ヒサルト謂フニ非ラス且ツ通例ナリトハ雖モ緊要必須ノ事  
 ニ非ラス其選舉ニ於ケル手續キノ本筋ノ做法ハ人數ニ依テ爲スナリ  
 然レモ パルメルト ロツフ イノ 公事ニ於テ サイル ジョ ン ニコル ル ノ 説ニ  
 人數ハ假令ヒ願ハル、モ必ス許スヲ要スルヤ否ノ疑ヒチ云ヘリ  
 聖會保長ハ其選舉ノ後最初ノ見廻ニ於テ其職ノ誓詞ヲ爲ス迄ハ其職  
 掌ノ權ヲ以テ事ヲ處置スルヲ得ス諸稅等ヲ課シ或ハ教會地ニ出シ置  
 ケル金錢ヲ自分ノ方ニ償ヒ入レ或ハ其教會地ノ職務柄ヲ以テ其他ノ  
 處置ヲ爲ス等ノ權無シトス  
 概シテ言ヘハ教會地ノ住民ハ貴族國會ノ議員、僧徒、バリ スト ル、狀師 醫  
師、外科 醫、府 ノ 副 長、港 稅 所 役 人、其他自身常ニ出勤スル職務ニ在ル者ヲ  
 除クノ外ハ總テ聖會保長ノ職ヲ勤ム可キ者ナリ外國人、羅馬 法 皇 門 徒、  
猶太 人 及ヒ異派ノ説教師并ニ教會地ノ外ニ住スル者等ハ選任セラル

ルヲ得ス

其職務ハ貧兒ヲ年季修業ニ入シ教會地人ヨリ出セル課稅ヲ禮拜堂ノ  
 修復ノ爲メニ出納シ鐘堂ノ鍵ヲ預リ當然ノ時ニノミ鐘ヲ鳴ラス可キ  
 一ニ注意ス可シ又寺領空主ノ時間ハ禮拜堂ノ風入レ掃除等ヲ爲シ置  
 キ破損無キ様ニ修理シ置クヲ監視ス可シ又晚餐拜禮洗禮及ヒ其他  
 ノ禮式ニ入用ナル總テノ事物ヲ具ヘ又禮拜堂ニ於テ有ル間敷行儀ヲ  
 禁ス可シ之カ爲メニハ其人ノ帽子ヲ取り離シ或ハ之ヲ禮拜堂ノ外ニ  
 追出スサヘモ襲撃ノ罪ニ非ラストス又開店者等ヲシテ日曜日ヲ相應  
 ニ守ラシメ且ツ神拜禮式ノ時間酒店ニ於テ總テ劇飲スルヲ禁ス可  
 シ又陪審ヲ勤ム可キ身分柄ノ者ヲ記シテ簿冊ヲ作ルニ監督ヲ助ク可  
 シ又海濱ニ打上ケラシタル人ノ死骸有ラハ相應ニ埋葬セシム可シ又  
 總テノ狂氣人ヲ捕ヘテ能ク禁護シ置ク可シ又 パル リ ン ノ 能ク イ ン グ



ランド國教ノ式法ニ隨テ其職務ヲ爲スヤ否ヲ監ス可シ又日曜日及ヒ祭日ニ教會地ノ禮拜堂ニ參詣セサル人ヨリ總テ十二<sup>ペンス</sup>ノ金高ヲ取立ツ可シ異派ノ教徒及ヒ羅馬教徒ハ格別トス及ヒ此日ニ於テ不法ノ遊興ヲ爲ス者ヨリ三<sup>シルリソグ</sup>四<sup>ペンヌ</sup>ノ金高ヲ取立ツ可シ又牧師總テソ婚禮及ヒ其他簿記決議ニ依テ命セラレタル事件ヲ簿冊ニ登記スルヤ否ヲ監ス可シ又教會會議ヲ取行フニ教會地人ニ相當ノ布告ヲ與フ可キナリ

聖會保長ハ特殊ノ所有物有リ即チ風琴鐘ナルガン教會地書冊聖經ナルライヌ白衣及ヒ神ライヌ盃是レナリ若シ之ヲ破壊スル者アラハ同寮連名ニテ其損害ヲ訴訟スルヲ得可キ程ノ者ナリ  
禮拜堂ノ腰掛ケハ「フリーホルド」ニ定メラル、故ニ之ヲ總テノ教會地人ノ其修復ニ助成スル者ノ共有ノ所有物トス故ニ聖會保長ノミニテ

之ヲ賣ルヲ得ス又聖會保長トレクトルト合同シテモ教長ノ承諾ナケレハ之ヲ賣ルヲ得ス但シロンドンニ於ケルカ如ク別段ノ習俗ニ依テスルハ此限ニ在ラズロンドンニテハ其物ヲ教會地之ヲ管轄シ聖會保長之ヲ賣却スルヲ得ルナリ  
禮拜堂ニ於テ教會地人ノ坐位ヲ序列スルハ聖會保長ノ任トス之ヲ處置スルニ必ス總體ノ便利ヲ謀ル可キナリ其故ハ教會地人素ヨリ其品位身分ニ隨テ坐位ヲ得可キ權理有リト雖モ聖會保長ハ諸人ノ等位ヲ分別スルニ當テ總テノ教會地人ノ得可キ坐位ノ權理ヲ忽視ス可カラストハ「ハツグ」卷一第三百十四葉ニ見エタレハナリ立法官ヲ除クノ外ハ何者モ此事件ニ就テ住民等一般ノ權理ヲ奪フヲ得ス  
聖會中ノ坐位或ハ其前後ハ家屋ニ屬スル者トシテ邈古以來ノ習俗ニ依テ保有セラレ、者モアリトス蓋シ其坐位ハ右ノ家屋ノ住民ニ依テ



古來ヨリ用ヒラレ或ハ修理セラレ來リシコ因ルナリ其坐位ノ權理ハ  
土地ノ權理ニ依テ求ムルヲ得ス必ス住居セル家屋ニ屬スル者トス可  
シ又教會地ノ外ニ在ル家屋ニテモ從來ノ附屬物トシテ求メラル可シ  
トロンズレイトハイワルドトノ公事ニ見エタリ  
坐位ニ入ルヲ答メ之ヲ冒入トシテ訴訟ヲ爲ス可カラス何トナレハ訴  
訟者モ特ニ之ヲ所有スルノ權ナキ故ナリ禮拜堂ノ所有ノ權ハパルツ  
ノニ在リト「タルムレポルト」卷一第四十三葉ニ見エタリ  
高坐ハパルツノ所有ナリ聖會保長ハ其住持ノ算計無クシテ他ノ牧  
師ヲシテ之ヲ用ヒシムルヲ得ス

聖會保長ハイリサベス女王四十三年ノ決議第一篇ニ依テ皆貧民ノ監  
督タリトス又ウキルレム第四世四年五年ノ決議第七十六篇第百九節  
ニテハ其貧民或ハ貧民稅ノ取扱ヒニ於テ勤ム可キ丈ケハ即チ監督ト

見做サルハナリ

シオルヲ第三世五十八年ノ決議第四十五篇即チ禮拜堂建立ノ決議ニ  
テ新規ノ禮拜堂毎ニ聖會保長二名ヲ選任ス其一人ハ住持ニ依テ選ハ  
シ其一人ハ教會地人ニ依テ選ハル可シ聖會保長及ヒ監督ハ跡役拜命  
ノ後十日内ニ其跡役人ニ諸會計并ニ金錢什物及ヒ其職ニ關スル總テ  
ノ事物ヲ引渡ス可シ右ノ會計ハ治安裁判役ノ前ニ出シテ證ヲ取ル可  
シ治安裁判役即チ之ニ署名シテ保證ヲ爲スナリトシオルジ第二世十  
七年ノ決議第三十八篇第一節ニ見エタリ又シオルジ第三世五十年ノ  
決議第四十九篇第一節ニ依テ右ノ會計ハ十四日内ニ小聚會ニ於テ州  
廳治安裁判役二名以上ニ差出スヲ要ス右ノ治安裁判役不當ナリト思  
フ課稅ヲハ之ヲ許容セス且ツ過分ナリト見ユル者ヲハ之ヲ減スルヲ  
得可シトス右ノ會計ヲ差出シ或ハ之ヲ誓詞ヲ以テ證シ或ハ金錢什物



ナ引渡ス等ノ事ヲ拒ム者ハ入牢シ及ヒ拂ヒ殘リノ爲メニ品物取上ケ  
ノ處置ヲ受クルナリ然レモ役人ハ其課税ヲ許容セラレス或ハ之ヲ減  
セラレシヲ非トシテ四季會議ニ上控スルヲ得可シト其第二節ニ見エ  
タリ

第二十三節 監督ノ事

監督ノ職ヲ勤ムルヲ除外セラル、者ハ聖會保長ノ事ニ於ケルト同一  
ナリトス其事實聖會保長ノ所ニ記載セシ除外ノ例ハ教會地ノ役人總  
テノ上ニ及ホスナリ  
婦女モ貧民ノ監督ト命セラル、ヲ得可シト「テルムンボルド」卷二第三  
百九十五葉ニ見エタリ  
監督ハ救貧税ノ課定ヲ拂フ其地住居ノ家持ノ中ヨリ治安裁判役二名  
以上ニ依テ選任セラル且ツ其レモ固定ノ家持ナルヲ要ス而シテ其斯

ノ如キ身分ナルコトハ其拜命ノ際ニ明言セラル、ヲ要ス監督ハ通例治  
安裁判役ニ依テ教會議ニ集マリタル教會地人ノ名指シタル簿記ヨリ  
採用セラル但シ通例ハ簿記ノ初筆ノ者選任セラル、ナリロンドン府  
ニ於テハ府ノ副長一名ニテ命スルヲ以テ足レリトス「シオル」第三世  
五十四年ノ決議第九十一篇ニ依テ監督ハ三月二十五日ニ於テ或ハ其  
後十四日內ニ於テ命セラル可シト定マレリ  
イリサヘス女王四十二年ノ決議第二篇ヲ遵行スル某ノ都府及ヒ城邑  
ノ内ニ在ル教會地ニ於テ貧民ノ監督ヲ命スルニ當然ノ權有リヤ否ニ  
就テ疑問起ルヲ以テウヰンクトリヤ女王十二年ノ決議第八篇ニ左ノ事  
ヲ令シテ曰ク右ノ都府及ヒ城邑ニ於テ管理ヲ持ツ治安裁判役ハ其内  
ノ監督ヲ命スル特殊ノ權理ヲ有ス可キコト郡ノ治安裁判役ノ其郡中ノ  
教會地監督ヲ命スルニ於ケルト同一ナリト云ヘリ此決議ニ又イリサ



ヘス女王四十三年ノ決議ノ府令（ヨルダニア）府長及ヒ都府或ハ聚合地ノ長官タル者監督ヲ命スルヲ怠ル時ハ五ポンドノ過料ヲ収ム可シト云フ條件ヲ廢止セリ此決議ハロンドン府或ハ別ニ地方ノ決議有ル地ニハ取用ヒラレサルナリ

又イリサベス女王四十三年ノ決議第二篇ヲ遵行スル都府及ヒ城邑ノ治安裁判役ト郡ノ治安裁判役トノ管理ハ貧民ノ某ノ事務ニ於テ互ニ相均シト云フニ就テ疑問有リシヲ以テウヰクトリヤ女王十二年三年ノ決議第六十四篇ニ郡ノ稽查官二名以上ニ依テ四季總會議ヨリ行フヲ得可キ總テノ權ハ都府及ヒ城邑ヲ管理スル治安裁判役二名以上ニテモ亦之ヲ行フヲ得可シト命スルヲ以テ此疑問ヲ消セリウヰクトリヤ女王十二年三年ノ此兩決議ハウヰクトリヤ女王十五年六年ノ決議第三十八篇ニ依テ更ニ説明セラレタリ

ウヰクトリヤ女王十二年三年ノ決議第百三篇ニ依テ教會地或ハ其連合地ノ工場ニ物貨食物等ノ供給ノ爲メ或ハ貧民救助ノ爲メニ自身ニテモ人手ヲ經テモ約定ヲ取結フニ關係スル者ハ監督ニ拜命ス可カラストス

監督ノ職掌ハ第一ニ貧窮、疾病、衰老、瞽盲、跛蹙等ノ如キ其他工作スル能ハサル者ノ救助ノ爲メニ必須ナル金高ヲ住民ノ課税ニ依テ取集メ又麻、亞麻、絨毛、絨絲、鐵及ヒ其他貧民ヲシテ工作セシムルニ必用ナル物具ヲ買ヒ整フルヲニ在リ第二ニ貧兒ヲ年季修業ニ入レ及ヒ其父母ノ養育スルヲ能ハサル兒ヲ工作セシムルヲニ在リ第三ニ婚姻セル者ニテモ或ハ否ラサル者ニテモ自ラ保護スルノ方法無ク且ツ其活計ヲ得可キ恆産常業無キ総テノ人ヲ工作セシムルヲニ在リトイリサベス女王四十三年ノ決議第二篇第一章第二節ニ見エタリ



監督ハ貧民ニ救助ヲ許スコトニ於テ全ク保護人教會議衆或ハ其他管治  
 ナ司ル諸官ノ指揮ノ下ニ在リ故ニ非常ノ急難ニ於ケル時ノ外ハ其隨  
 意ニ救助ヲ許スノ權ナシ且ツ如何ナル場合ニ於テモ金錢ヲ以テ救助  
 ナ與フルコトハ決シテ能ハサルナリ  
 ウヰヰトリヤ女王二年三年ノ決議第八十四篇ニ隨テ教會地ノ監督或  
 ハ其他ノ役人等ニ依テ保護人衆ノ要需スル金錢ヲ上納スル時ニ拂殘  
 リアラハ治安裁判役二名其保護人衆ヨリノ願ニ隨ヒ命狀ニ依テ拂殘  
 リノ納金高ヲ監督或ハ役人ヨリ収メテ之ヨリ其金ヲ償ハシムルヲ得  
 可キヲ恰モ貧民救助ノ爲メニ課税セシ金錢ヲ取集メ償フト同法ヲ用  
 ヲヘシ救貧法委員官ノ命令ニ隨テ命セラレタル収税官ハ其受クル權  
 勢及ヒ護衛ニ於テハ監督ト同様ナリト其第二節ニ見エタリ  
 ウヰヰトリヤ女王十二年三年ノ決議第六十五篇ニ教會地等ノ部分府

邑ノ内ニ入リテ郡税或ハ郡郷取締税ヲ出サ、ル地數多有ルヲ記載  
 シ又教會地ノ部分府邑ノ内ニ入リテ右ノ税ヲ出ス者有ルニ其府邑ノ  
 外ニ在ル部分ハ此税ヲ出サ、ルコトヲ記載シタル後ニ又其一部分ハ府  
 邑ノ内ニ在リテ其一部分ハ外ニ在ル教會地ノ監督ハ上ニ言ヘル税ヲ  
 府邑ノ内ニ在ラサル部分ヨリ取集ムルヲ得可シト令セリ右ノ如キ場  
 所ニ於テ府邑税ヲ取集ムルコトニ就テモ同様ノ箇條有リ  
 シオルシ第三世五十九年ノ決議第十二篇ニ依テ教會議ニ集マリタル  
 住民ハ補佐監督一名以上ヲ選舉スルヲ得可シ而シテ治安裁判役ハ右  
 ノ如ク名舉セシ補佐監督ヲ命ス可シトス此ノ如キ俸給有ル役人ハ救  
 貧法委任官ニ依テ免黜セラル可シ且ツ若シ免黜セラレシ時ハ再ヒ貧  
 民救助ノ事ニ關スル職ニ任スルヲ得ストウヰヰルレム第四世四年五年  
 ノ決議第七十六篇第四十八節ニ見エタリ



監督ハ住民ノ承諾ヲ以テ家屋ヲ賃借シ或ハ人ヲ約定シテ貧民ノ住寓  
保養或ハ使用ノ爲メニ供スルヲ得可シ且ツ貧民總體ノ用ニ供スル爲  
メニ貧民ノ工作使役ヲ用ユルヲ得可シ然シナカラ救貧法委任官ハ約  
定ノ事ニ就テ規則ヲ作ルヲ得可シ而シテ之ニ反違セル約定ハ許サレ  
サル可シトウヰルレム第四世四年五年ノ決議第七十六篇第四十九節  
ニ見エタリ

逃走シテ其家眷ヲ救助ニ任セント欲シ或ハ工作シテ其家眷ヲ養育ス  
ルヲ得ル身ニシテ之ヲ嫌フ者ハ懲惡院ニ送リ入レラル可シ  
家眷ヲ救助ニ任ス時ハ監督ハ治安裁判役ノ命令ヲ以テ其父タル者ヨ  
リ此家眷ヲ養育ス可キ程ノ賃租及ヒ利分ヲ取上ルヲ得可シ其妻或ハ  
其子十六歳以下ノ者ニ與ヘタル總テノ救助ハ其夫タル者之ニ責任ス  
可シ右ノ救助ハ貸金トシテ見做サル可シ故ニ其人々ノ工銀ハ此貸金

ノ爲メニ儲主ノ手ニ留メ置ク可キ者ナリトウヰルレム第四世四年五  
年ノ決議第七十六篇第五十六節第五十八節ニ見エタリ

船士ノ給料及ヒ養老金ハ其者ノ家族救助ヲ受クル時ハ之ヲ其養育料  
ニ引クヲ得可シトウヰルシ第三世五十九年ノ決議第十五篇ニ見エタ  
リ

救助ヲ受クル人ノ姓名及ヒ其初メ許容セラレシ時日及ヒ其人此窮迫  
ニ至リシ事實ヲ記載スル簿冊ハ教會地人ノ檢覽ニ備フル爲メニ開キ  
置ク可シ

貧兒ノ其父母之ヲ保養スルヲ能ハサル者ハ年季修業ニ入レラル、チ  
得可シ但シ其期ハ男子ナレハ二十一歳迄女子ナレハ二十一歳或ハ婚  
姻スル迄ニ限ラル可シ住民ハ右ノ如キ年季修業人ヲ取ルヲ隨意タル  
ノミニ非ラス強ヒテ取ラシメラル、モ辭スルヲ得サル可シトス男兒



ハ十歳ヨリ二十一歳迄海船ノ使用ニ年季タル可シ女子ハ八歳ヨリ十  
六歳迄烟窓<sup>ナク</sup>掃除ニ年季タル可シ

シオルシ第三世六十五年ノ決議第百三十七篇第六節ニ依テ聖會保長  
或ハ貧民ノ監督又ハ其取扱ヒニ關スル誰人ニテモ貧民ノ用度ニ供ス  
ル食料或ハ物材ヲ其自身ノ利益ノ爲メニ營辨スル者ハ百<sup>ポンド</sup>ノ過  
料ヲ収メラル可シ但シ其教會地中ニ之ヲ營辨スルコトヲ能クシ又ハ欲  
スル人無キ時ハ格別トス職場ニ供給スルコトノ總テ約定ノ報告ハ此報  
狀ヲ受クル期日ニ先タツコト寡ナクモ七日前ニ公布セラル、ヲ要ス罰  
ハウキルレム第四世四年五年ノ決議第九篇第五十一節ニ違テ命セラ  
レタル役人ニモ及ボスナリ

ウキルレム第四世一年二年ノ決議第四十二篇ニ依テ聖會保長及ヒ監  
督ハ教會地ノ内或ハ近邊ノ地面五十<sup>エーグル</sup>ニ過キサル程ヲハ貧民

使用ノ爲メニ借受ルヲ得可シ又教會地ノ入用ニ供スル爲メニ荒地ノ  
部分五十<sup>エーグル</sup>ニ過キサル程ヲハ其邸地ノ主及ヒ共有ノ權理ヲ持  
タル人等ノ過半ノ承許有レハ園ヒ込ムコトヲ得可シ其他ウキルレム第  
四世一年二年ノ決議ニ依テ教會地ノ役人ハ大藏省ノ承許有レハ其教  
會地ノ入用ノ爲メニ王領ニ屬スル荒地或ハ山林地ヨリ五十<sup>エーグル</sup>  
ヲ園ヒ込ムヲ得可シト定メタリ然レモ貧民右ノ園ヒ込ミタル地ヲ借  
受クルコトニ依テ貫籍ヲ得ル能ハストス

ウキルレム第四世四年ノ決議第七十六篇第九十五節ヨリ第九十七節  
ニ依テ監督補佐監督職場主長或ハ其他ノ役人等委任官ノ命令ヲ奉行  
スルコトニ於テ治安裁判役及ヒ保護人ノ命令ニ背戾スル者ハ五<sup>ポンド</sup>  
ニ過キサル罰金ヲ取上ケラル可シトス但シ治安裁判役或ハ保護人ノ  
不當ノ命令ヲハ奉行セサルモ敢テ監督ヲ罪ス可カラズ監督或ハ其他



ノ役人等金錢什物ヲ竊奪シ或ハ浪費シ或ハ濫用スル者ハ二十「ポンド」ノ過料及ヒ其物貨ノ價值ノ三倍ヲ取上ケラル可シ地主出税人或ハ住民ハ皆證人ト爲ルニ足ルナリ

ウヰヰトリヤ女王七年八年ノ決議第百一篇第六十三節ニ依テ若シ監督貧民ノ救助ニ足ル程ノ課税ヲ取集ムルヲ怠リ或ハ右ノ課税ヲ保護人ニ交付スルヲ怠リ保護人ヨリ指揮有リテ貧民ニ與テ可キ救助之カ爲メニ七日ノ間逶延スル時ハ右ノ監督ハ證罪ノ上二十「ポンド」ニ過キサル過料ヲ取上ケラル可シトス

役所及ヒ文書　ウヰヰトリヤ女王二十四年五年ノ決議第百二十五篇ニ依テ人別改メテ人口四千人ニ過クル教會地ノ監督ハ當然ノ報告有リテ後召集メタル教會議衆ノ承諾ト救貧法廳ノ承諾トヲ以テ教會地ノ事務取扱ヒノ役所ヲ取設クル爲メニ家室ヲ借受ケ或ハ地面家屋ヲ

買ヒ或ハ借リ又ハ交易シテ取リ又ハ右ノ教會地ニ屬スル地面ヲ賣リテ其金ヲ他ノ地面或ハ家屋ヲ買フニ用ヒ或ハ其地面ニ相當ノ家屋ヲ建造スルニ用ユルヲ得可シ右ノ決議ト千八百四十五年ノ地界定制決議トハ不都合ナラサル丈ケハ務メテ合體セリ但シ地面ヲ買取ルニ就テノ箇條ハ格別ナリトス其第二節ニ依テ監督ハ若シ必用ナリト思ハ、教會議衆ノ承諾ヲ以テ教會地ノ簿冊書物等ノ置場ヲ備ヘ其入費ヲ救貧税ノ上ニ掛クルヲ得可シ

議事院ノ選舉　ウヰヰトリヤ女王六年ノ決議第十八篇ニ隨テ監督ハ平和廳ノ書記官ヨリ六月十日ニ於テ或ハ其以前ニ印行ノ形式ヲ受取リ二十日或ハ其以前ニ之ヲ公告スルヲ要ス其公告ニ郡ノ議員ヲ投言スルニキ總テノ人々ノ既ニ現在ノ簿冊ニ記載セサル者或ハ其身分柄換リ或ハ其住所變メタル者ヲシテ形式通りノ體裁ニテ其姓名ヲ記シ簿